千葉市大森第１遺跡

－平成20年度－

２００９

株式会社 アーネストワン
財団法人 千葉市教育振興財団

千葉市大森第１遺跡

－平成20年度－

２００９

例言

1．本書は、千葉市中央区に所在する大森第１遺跡の発掘調査報告書である。

2．大森第１遺跡の発掘調査は集合住宅造成に伴うもので、財団法人千葉市教育振興財団が株式会社アーネストワンより委託を受けて実施した。

3．本書に所収した遺跡の所在地・調査期間・面積・担当者は次の通りである。

① 所 在 地　中央区宮崎町774-5

② 調査期間　平成20年9月24日～平成20年11月7日

③ 調査面積　上層　835.61㎡（本調査）

④ 担 当 者　古谷　渉

4．整理作業及び本書の作成は、平成21年1月7日～2月13日に行い、古谷　渉が担当した。

5．遺構・遺物の写真は古谷が撮影した。

6．遺物の記載は森本　剛氏（千葉市立加曽利貝塚博物館）の協力と助言を得た。

7．出土遺物及び調査記録は、すべて千葉市埋蔵文化財調査センターに収蔵保管している。

8．発掘調査の実施から報告書刊行に至るまで、下記の諸機関・諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表したい。（順不同・敬称略）

千葉県教育庁生涯学習部文化財課、千葉市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課、株式会社アーネストワン、千葉市立加曽利貝塚博物館、上守秀明、栗田則久

凡例

1．本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。

2．土層及び遺物の色を記号で示してある場合は、農林水産省監修「新版　標準土色帖」による。

3．本文中の挿図の縮尺は原則として以下のとおりであるが、各図中に縮尺を示してある。

遺構実測図の縮尺は、竪穴住居跡：１/60　炉・カマド：１/30　掘立柱建物跡：１/80

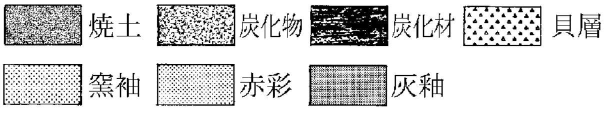
道路跡：１/100　溝状遺構：１/100　である。

遺物実測図の縮尺は、土器復元：１/４　土器破片：１/３　土製品・石製品：１/３

石器・鉄製品：２/３である。

4．第29図は国土地理院発行の２万５千分の１地形図「千葉東部」「蘇我」より作成したものである。

5．挿図中のスクリーントーンは以下のとおりである。



目次

例言・凡例・目次
第１章 はじめに…… 1
　　１　調査に至る経緯
　　２　遺跡の位置及び周辺遺跡
　　３　調査の概要
第２章 検出された遺構と遺物…… 4
　　１　竪穴住居跡と出土遺物
　　２　掘立柱建物跡と出土遺物
　　３　道路跡・溝状遺構と出土遺物
第３章 ８号住居跡出土の動物遺存体…… 34
　　１　資料と分析方法
　　２　貝層分析
　　３　ウマの骨
第４章　まとめ…… 39
写真図版・抄録

表目次

第１表　住居跡観察表１ …… 4
第２表　住居跡観察表２ …… 4
第３表　遺物観察表１（土器①）…… 8
第４表　遺物観察表２（土器以外①）…… 9
第５表　遺物観察表３（土器②）…… 11
第６表　遺物観察表４（土器③）…… 12
第７表　遺物観察表５（土器④）…… 16
第８表　遺物観察表６（土器以外②）…… 16
第９表　遺物観察表７（土器⑤）…… 18
第10表　遺物観察表８（土器以外③）…… 18
第11表　遺物観察表９（土器⑥）…… 21
第12表　遺物観察表10（土器以外④）…… 21
第13表　遺物観察表11（土器⑦）…… 25
第14表　遺物観察表12（土器以外⑤）…… 25
第15表　遺物観察表13（土器⑧）…… 29
第16表　遺物観察表14（土器以外⑥）…… 29
第17表　遺物観察表15（土器⑨）…… 33
第18表　遺物観察表16（土器以外⑦）…… 33
第19表　８号住居跡貝類集計表１ …… 35
第20表　８号住居跡貝類集計表２ …… 35
第21表　ウマの骨計測値及び歯冠高 …… 38

挿図目次

第１図　遺跡の位置及び周辺遺跡 …… 2
第２図　遺構配置図 …… 3
第３図　１号住居跡実測図 …… 5
第４図　１号住居跡遺物実測図１ …… 6
第５図　１号住居跡遺物実測図２ …… 7
第６図　２ａ号住居跡及び遺物実測図 …… 9
第７図　２ｂ号住居跡実測図 …… 10
第８図　２ｂ号住居跡遺物実測図 …… 11
第９図　３号住居跡及び遺物実測図 …… 12
第10図　４号住居跡及び遺物実測図 …… 13
第11図　４号住居跡実測図 …… 14
第12図　４号住居跡遺物実測図 …… 15
第13図　５号住居跡実測図 …… 17
第14図　５号住居跡遺物実測図 …… 18
第15図　６号住居跡実測図 …… 19
第16図　６号住居跡遺物実測図 …… 20
第17図　７号住居跡及び遺物実測図 …… 22
第18図　８号住居跡実測図 …… 23
第19図　８号住居跡及び遺物実測図 …… 24
第20図　８号住居跡遺物実測図 …… 26
第21図　９号住居跡及び遺物実測図 …… 27
第22図　10号住居跡及び遺物実測図 …… 28
第23図　１・２号掘立柱建物跡実測図 …… 30
第24図　１号道路跡及び遺物実測図 …… 31
第25図　1・2・3号溝状遺構及び遺物実測図 …… 32
第26図　８号住居跡貝類組成図…… 35
第27図　８号住居跡殻長・殻高分布図 …… 36
第28図　８号住居跡殻径分布図…… 37
第29図　周辺遺跡と道路跡 …… 40

第１章　はじめに

１　調査に至る経緯

平成20年２月29日、株式会社アーネストワンより、千葉市中央区宮崎町774－5（面積1,315㎡）の集合住宅建設計画地について、文化財保護法第93条に基づき「埋蔵文化財発掘の届出について」の文書が千葉市教育委員会教育長あてに提出された。

対象地については、平成20年５月１日に千葉市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課が試掘を実施し、古墳時代の竪穴住居跡が確認された。そこで、市生涯学習振興課と事業者で協議した結果、遺跡の規模及び性格を把握するために確認調査を実施することとなり、平成20年６月18日から６月24日まで財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターが埋蔵文化財発掘調査（市内遺跡）として確認調査を実施した。その結果、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居跡等が検出されたため、平成20年７月１日付けで、1,100㎡について引き続き本調査が必要な旨を事業者に通知した。

この結果に基づき、市生涯学習振興課と事業者が協議し、工事による埋蔵文化財影響範囲の835.61㎡について本調査を実施することで合意し、事業者から委託を受けた財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターが平成20年９月24日から11月７日までの期間で本調査を実施した。

（千葉市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課）

２　遺跡の位置及び周辺遺跡（第１図）

大森第１遺跡は、東京湾に面して開口する宮崎谷に入り込む小支谷に面した標高約26ｍを測る台地上に位置している。周辺には古墳時代～奈良・平安時代にかけての集落遺跡・貝塚が密集しており、大森第１遺跡はその遺跡群の一角に位置している。西へ約150ｍの台地上には、平安時代の集落遺跡である染谷津遺跡が所在し、北西約500ｍには、古墳時代後期～奈良・平安時代の集落遺跡・地点貝塚である大宮作遺跡が所在する。北北西約500ｍには、古墳時代後期～奈良・平安時代の集落遺跡である大北遺跡が所在し、北約500ｍには、古墳時代～奈良・平安時代の集落遺跡・地点貝塚である宮崎第１遺跡が所在する。

染谷津遺跡では、平成４年に千葉市文化財調査協会により発掘調査が行われ、平安時代の竪穴住居跡１軒が検出された。

大北遺跡は千葉急行線建設に伴い、昭和54年に千葉県文化財センターにより発掘調査が行われ、竪穴住居跡37軒、掘立柱建物跡29棟などが検出された。昭和61年には、千葉市文化財調査協会により発掘調査が行われ、竪穴住居跡46軒、掘立柱建物跡３棟などが検出された。主軸の揃った掘立柱建物跡群が検出された点と、畿内系土師器が多量に出土している点が特徴的である。このことから、郡衙・駅家などの官衙関連遺跡の可能性が高いことが指摘されている。

３　調査の概要（第１・２図）

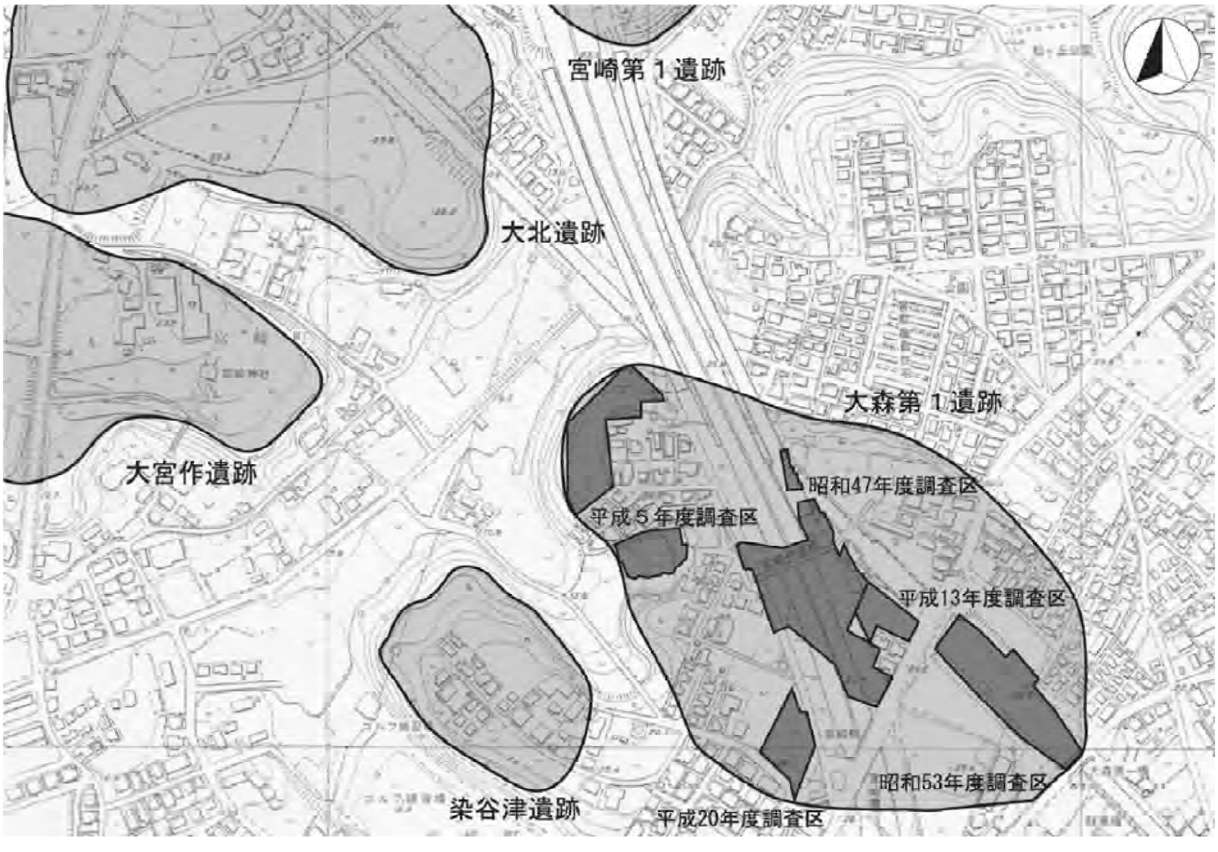
大森第１遺跡は昭和47年度に京葉道路建設に伴い千葉県都市公社により発掘調査が行われ、古墳時代中期～奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡43軒などが検出された。昭和53年度には千葉急行線建

設に伴い千葉県文化財センターにより発掘調査が行われ、奈良・平安時代の竪穴住居跡７軒、掘立柱建物跡１棟などが検出された。平成５年度には千葉市文化財調査協会により発掘調査が行われ、古墳時代の竪穴住居跡６軒、奈良時代の地点貝塚２か所、平安時代の竪穴住居跡５軒が検出された。平成13年度には千葉市教育振興財団により確認調査が行われ、時期不明の溝状遺構１条、土壙１基、ピット１基が検出された。

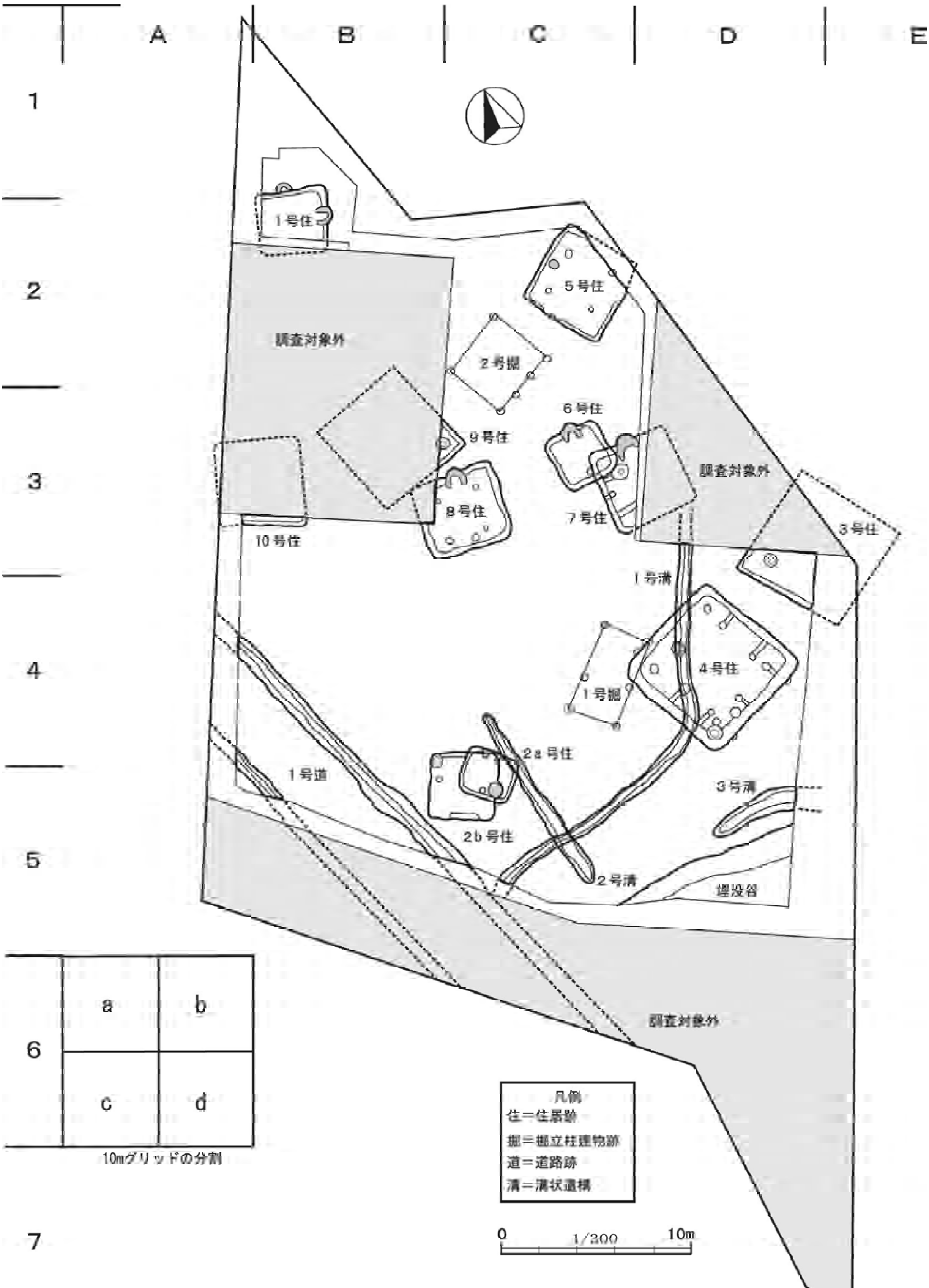
今回の調査区は遺跡の南側部分の駐車場跡地である。確認調査では、古墳時代の竪穴住居跡４軒、溝状遺構１条、奈良～平安時代の竪穴住居跡４軒・掘立柱建物跡１棟、中近世の溝状遺構１条が検出された。確認調査範囲のうち、約64％の面積が本調査対象となった。本調査では古墳時代中期の竪穴住居跡４軒、奈良時代の竪穴住居跡３軒、平安時代の竪穴住居跡４軒、奈良～平安時代の道路跡１条・溝状遺構１条、中・近世の掘立柱建物跡２棟・溝状遺構２条が検出された。

調査区は南西側に向かって傾斜しており、調査区南東端には埋没谷が検出された。調査区全体にわたって盛土層（砕石と山砂）が厚く堆積しており、その下に旧耕作土（黒褐色）と遺物包含層（暗褐色）が残存していた。一部の住居跡は床面付近まで削平されていたが、その他の遺構は良好な状態で検出された。

基本層序は、Ⅰ層：砕石層・盛土層（N7/灰白)、Ⅱ層：山砂層・盛土層（10YR5/6 黄褐)、Ⅲ層：旧耕作土（7.5YR3/2黒褐、所々にロームブロックを含む)、Ⅳ層：遺物包含層・遺構確認面（7.5YR3/3暗褐、径1～5㎜程度のローム粒を少し含む、径1～3㎜程度の焼土粒・炭化物を微かに含む)、Ⅴ層：漸移層（7.5YR4/3褐)、Ⅵ層:ソフトローム層（7.5YR4/4褐)、Ⅶ層:ハードローム層（7.5YR4/6褐）である。



第１図　遺跡の位置及び周辺遺跡（1/5,000）



第２図　遺構配置図（1/300）

第２章　検出された遺構と遺物

１　竪穴住居跡と出土遺物（第３～22図）

１号住居跡（第３・４・５図）

調査区北側の台地平坦面に位置する。主軸方位はＮ－100°－Ｅで、規模は主軸長3.4ｍである。南側は調査区外だが、周溝はカマド部分を除いてほぼ全周していたと推測される。残存壁高は50～65㎝でやや斜めに立ち上がる。柱穴は認められなかった。北側に旧カマド（Ｎ－7°－Ｅ）があり、建て替えが行われた形跡が認められた。床面に焼土・炭化物が堆積しており、遺物は旧カマド周辺に集中して出土している。

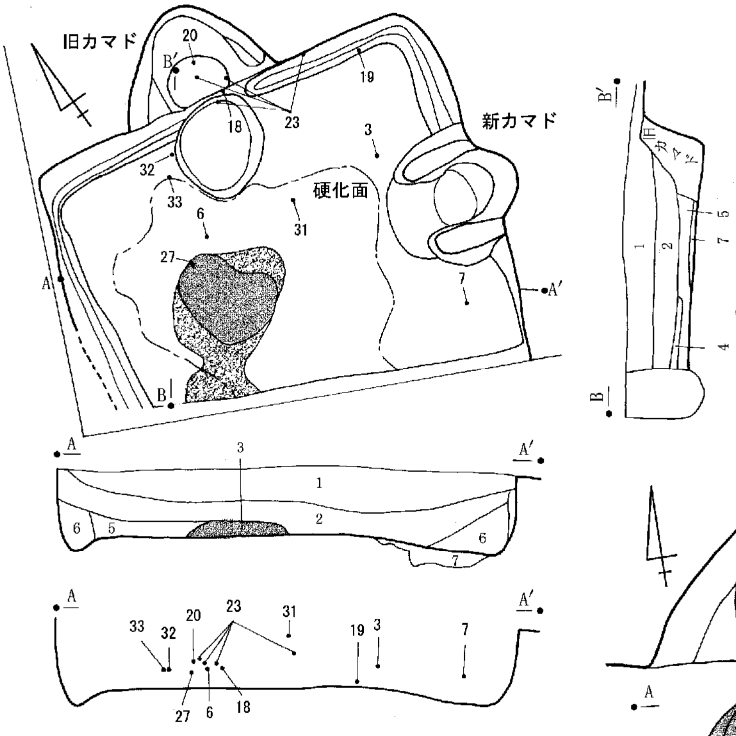
遺物量は多く、土師器の杯（１～４・８・９）・高台付杯（10・11）・皿（６・７）・甕（12・20・24・25）・甑（19)、内黒土師器の坏（５)、須恵器の甕（22・23）・甑（21)、東海産須恵器の壺（17・

第１表　住居跡観察表１

遺構番号	時期	主軸方位	規模（m）		壁高（cm）		カマド	炉	貯蔵穴	柱穴	旧柱穴	壁柱穴	第5ピット	間仕切溝	旧間仕切溝	周溝	旧周溝
			主軸長	横軸長	最小	最大											
１号	平安	N-100°-E	3.40	不明	50	65	2	―	―	―	―	―	―	―	―	ほぼ全周	―
２ａ号	奈良	N-43°-E	2.52	2.94	15	25	1	―	―	―	―	―	1	―	―	全周	ほぼ全周
２ｂ号	平安	N-114°-E	3.48	3.46	5	10	1	―	1	―	―	―	1	―	―	一部	―
３号	古墳中期	不明	不明	不明	35	50	―	―	―	1	―	―	―	―	―	部分全周	―
４号	古墳中期	N-26°-W	6.50	6.60	35	45	―	1	1	10	2	4	―	6	3	全周	全周
５号	古墳中期	N-42°-W	4.55	4.45	15	25	―	1	―	4	―	―	―	―	―	ほぼ全周	―
６号	平安	N-10°-W	2.83	2.98	30	40	1	―	―	―	―	―	1	―	―	全周	―
７号	奈良	N-5°-W	4.00	不明	35	45	1	―	―	2	―	―	―	3	2	部分全周	部分全周
８号	奈良	N-1°-E	4.15	4.33	50	55	1	―	―	4	―	―	1	―	―	全周	全周
９号	古墳中期	不明	不明	不明	30	35	―	―	―	1	―	―	―	―	―	部分全周	―
10号	平安	不明	3.32	不明	55	60	―	―	―	―	―	―	―	―	―	部分全周	―

第２表　住居跡観察表２

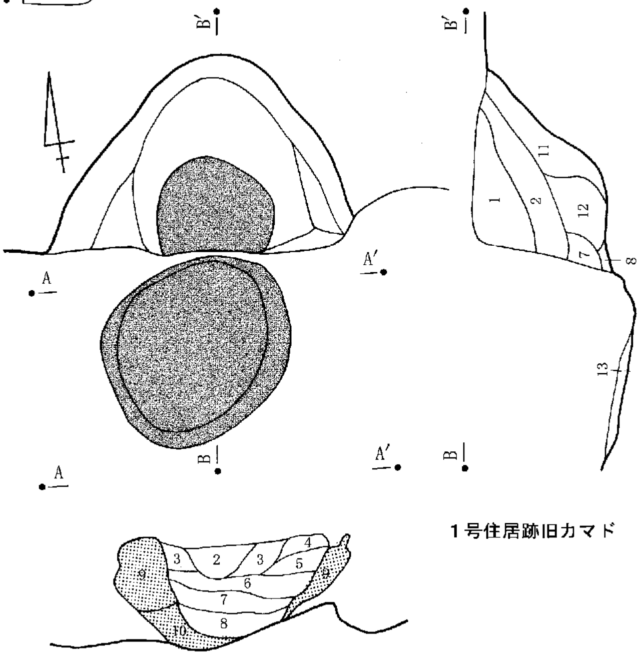
遺構番号	特徴的な遺構	重複遺構	備考	遺物量	特徴的な遺物
１号	旧カマド (N-7°-E)		焼土・炭化物 建て替え	多	内黒土師器（杯)、東海産須恵器（壺)、 東海産灰釉陶器（壺)、土製紡錘車、 管状土錘、支脚、刀子、鎌、鉄滓、 刻書「井」、刻書「□里□里□」
２ａ号		２ｂ号住より古 ２号溝より古	拡張	少	
２ｂ号	カマド破損	２ａ号住より古		多	東海産須恵器（甕)、 東海産緑釉陶器（杯または碗)、刀子
３号				少	
４号	貝層ブロック	１号溝より古	焼土・炭化物 炭化材 拡張	多	球状土錘、管状土錘、粘土片、土製紡錘車、 蛇紋岩製紡錘車、軽石製品（浮子)、 滑石製臼玉、滑石製模造品（有孔円板)、 滑石製剥片、刀子、貝類
５号			焼土・炭化物 炭化材	少	軽石製品（浮子)、滑石製臼玉、砥石
６号	カマド祭祀？	７号住より新	焼土・炭化物 炭化材	多	内黒土師器（杯)、東海産須恵器（壺)、支脚、 墨書「□」、朱書「□」、朱書「□□」
７号	煙道部残存	６号住より古	拡張	少	
８号	貝層 煙道部残存		拡張	多	永田・不入産須恵器（高台付杯)、畿内系土師器、 常陸産須恵器（杯)、管状土錘、 滑石製模造品（剣)、砥石、刀子、 朱書「本」、朱書「□」、獣骨（ウマ)、貝類
９号			焼土・炭化材	多	球状土錘
10号				少	東海産灰釉陶器（円面硯)、軽石製品（浮子)、 泥岩製台石、刻書「□」



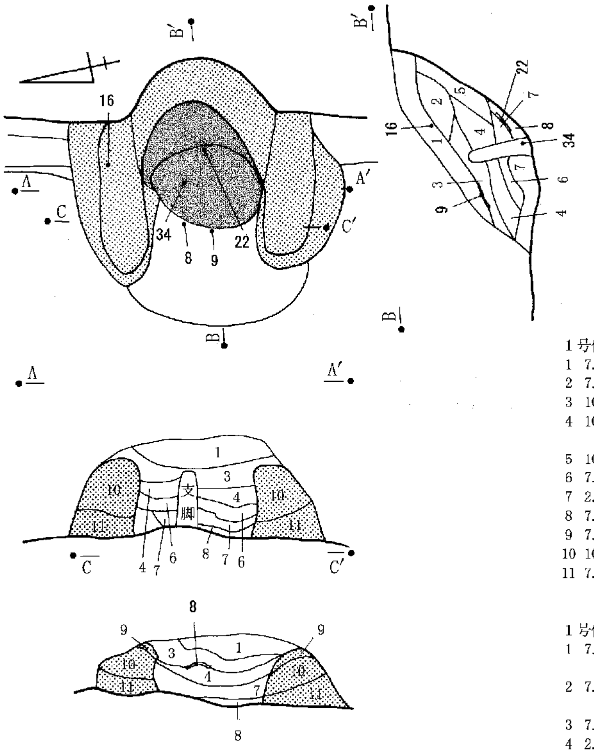
1号住居跡

1	7.5YR3/2	黒褐	径1～3mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を少し含む。
2	7.5YR3/2	黒褐	径1～3mm程度の焼土粒・炭化物を微かに含む。径1～5mm程度のローム粒を多く含む。
3	2.5YR4/6	赤褐	焼土層。
4	2.5Y2/1	黒	炭化物層。
5	2.5YR3/1	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を多く含む。径1～5mm程度のローム粒を多く含む。径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。
6	2.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度の焼土・炭化物を少し含む。径1～5mm程度のローム粒を多く含む。径5～20mm程度のロームブロックを少し含む。
7	7.5YR3/2	黒褐	径5～50mm程度のロームブロックを多く含む。

L=20.00m
0　1/60　2m



1号住居跡旧カマド



1号住居跡新カマド

L=19.90m
0　1/30　1m

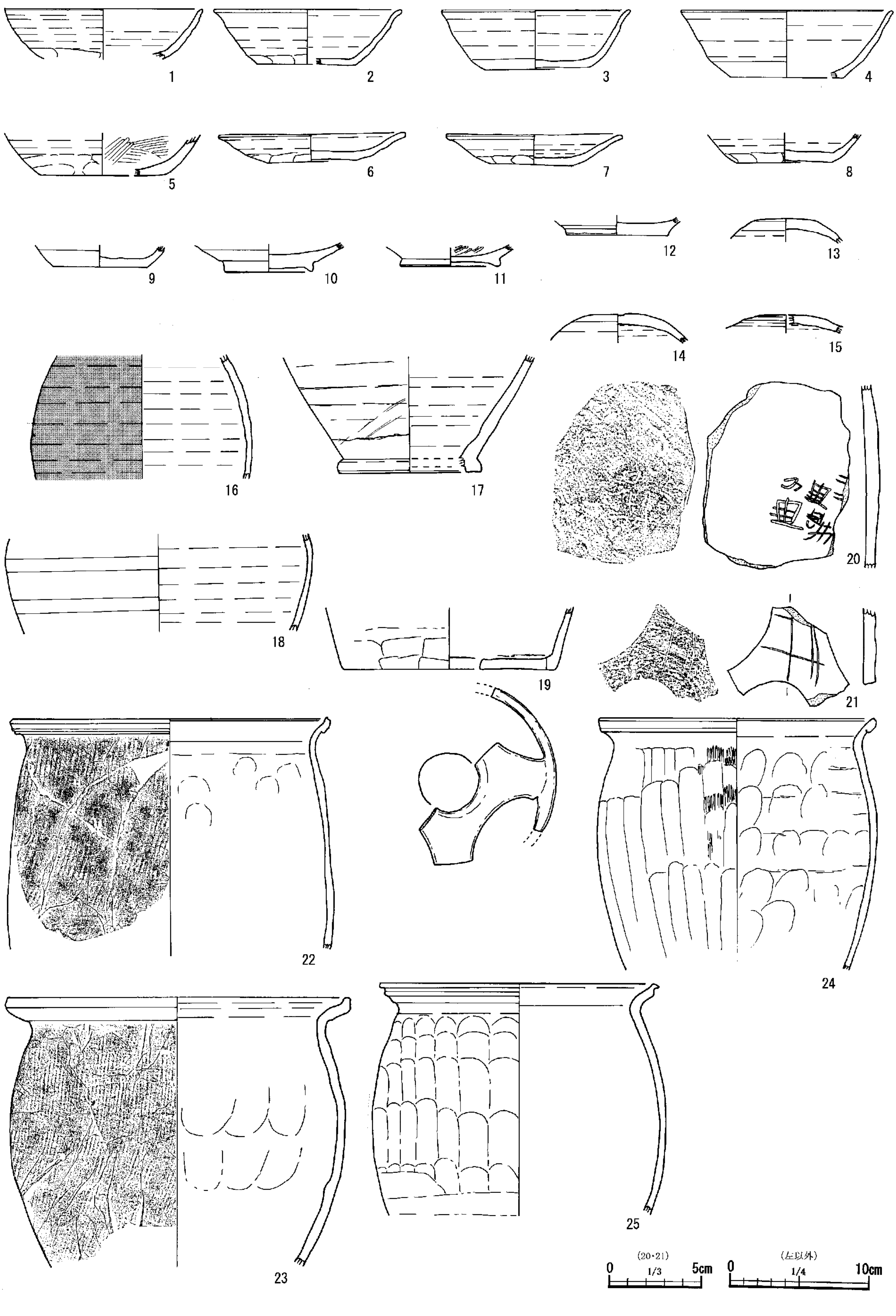
1号住居跡新カマド

1	7.5YR3/4	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を多く含む。所々に白色砂層を含む。
2	7.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を多く含む。1層より暗く白色砂層の量が少ない。
3	10YR5/8	黄褐	径1～5mm程度の炭化物を少し含む。カマド天井崩落土。
4	10YR5/6	黄褐	径1～3mm程度の炭化物を微かに含む。3層より暗く白色砂層の量が少ない。カマド天井崩落土。
5	10YR3/2	黒褐	径1～20mm程度の炭化物を極めて多く含む。煙道部。
6	7.5YR3/4	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。
7	2.5YR4/6	赤褐	所々に灰層(10YR6/1褐灰)、炭化物層(10YR2/1黒)を含む。焼土層(火床面)。
8	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を少し含む。火床面の下層。
9	7.5YR3/4	暗褐	所々に焼土層(2.5YR4/6赤褐)、白色砂層(10YR5/8黄褐)を含む。カマド袖。
10	10YR5/6	黄褐	径1～5mm程度の炭化物・焼土粒を少し含む。カマド袖。
11	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・ローム層を少し含む。径5～20mm程度のロームブロックを少し含む。カマド袖。

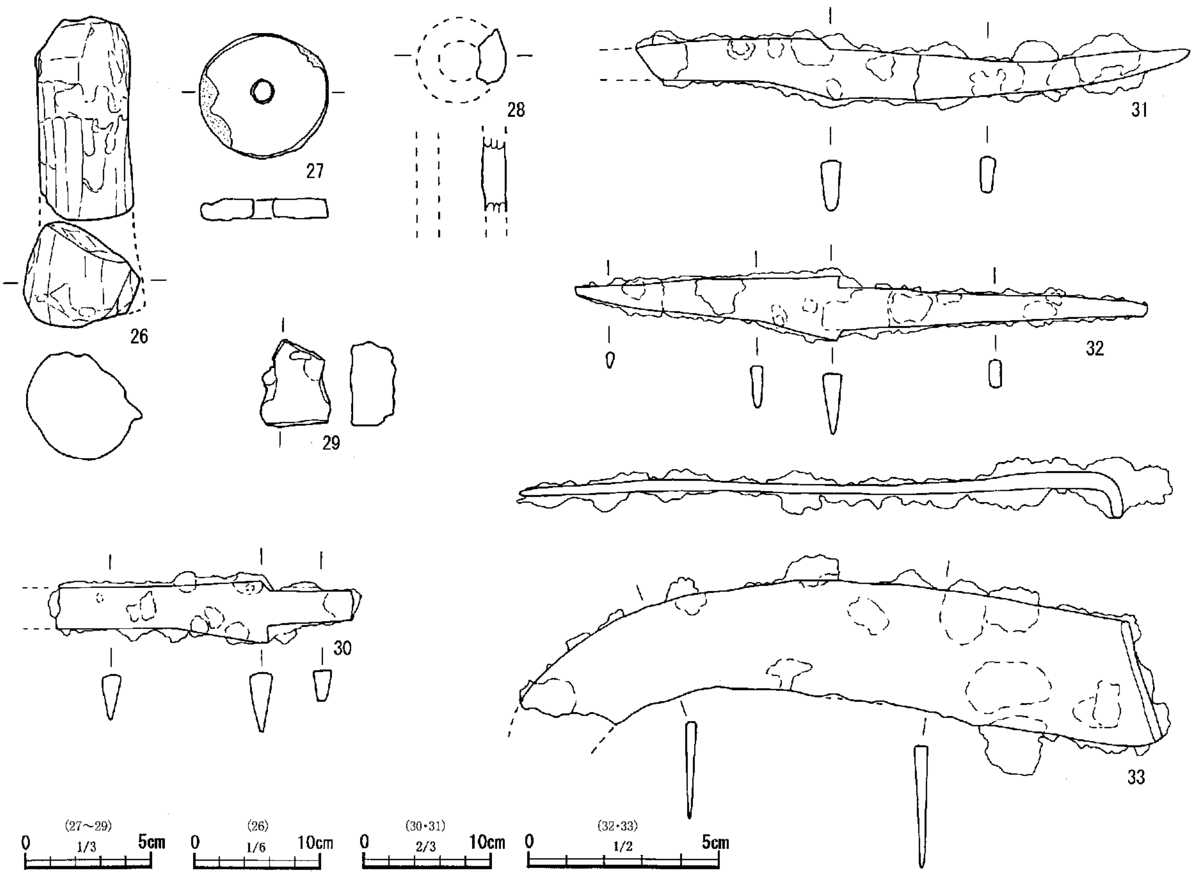
1号住居跡旧カマド

1	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒・ローム粒を多く含む。径5～10mm程度の焼土ブロック・炭化物を多く含む。
2	7.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。径5～20mm程度の焼土ブロックを少し含む。
3	7.5YR3/4	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を極めて多く含む。
4	2.5YR4/6	赤褐	焼土層。径1～5mm程度の炭化物・白色砂粒を多く含む。
5	10YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を多く含む。
6	7.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を多く含む。径5～50mm程度の焼土ブロック・白色砂ブロックを多く含む。
7	10YR3/2	黒褐	炭化物層。径5～10mm程度の焼土ブロック・白色砂ブロックを少し含む。
8	2.5YR4/6	赤褐	焼土層(火床面)。径5～30mm程度の白色砂ブロック・ロームブロックを少し含む。
9	10YR5/6	黄褐	白色砂層。所々に暗褐色土(7.5YR3/3)・焼土ブロックを含む。カマド袖。
10	7.5YR3/4	暗褐	径5～30mm程度のロームブロックを多く含む。カマド袖。
11	10YR6/2	灰黄褐	灰層。所々に焼土層(2.5YR4/6赤褐)を含む。
12	10YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。煙道部。
13	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を多く含む。径5～20mm程度のロームブロックを少し含む。

第３図　１号住居跡実測図



第４図　１号住居跡遺物実測図１



第５図　１号住居跡遺物実測図２

18)、東海産灰釉陶器の壺（K-90）（16）、支脚（26）、土製紡錘車（27）、管状土錘（28）、鉄製の刀子（30～32)・鎌（33）、鉄滓（29）が出土している。文字資料としては、須恵器の甑の底部に刻まれた刻書「井」（21）と土師器の甕の底部に刻まれた刻書「□里□里□」（20）がある。なお、「□」は判読不明の文字である。

今回は土器の時期決定の材料として、坏・皿の口径／底径比率を算出した。過去の調査成果から一般的に1.50付近は８世紀代で、数値が大きくなると徐々に新しくなり、2.00付近で９世紀代という数値が得られている。

坏の口径／底径比率の平均値は1.87で、調整技法は手持ちヘラケズリ５個体、回転ヘラケズリ２個体である。皿の口径／底径比率の平均値は2.13で、調整技法は手持ちヘラケズリ２個体である。他に古墳時代後期の須恵器の蓋（13～15）が出土しており、伝世品の可能性も考えられる。

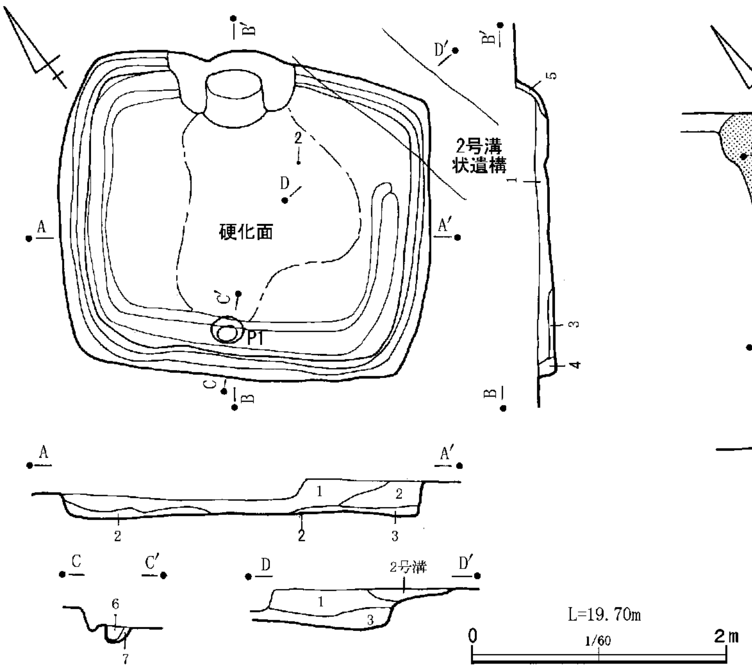
２ａ号住居跡（第６図）

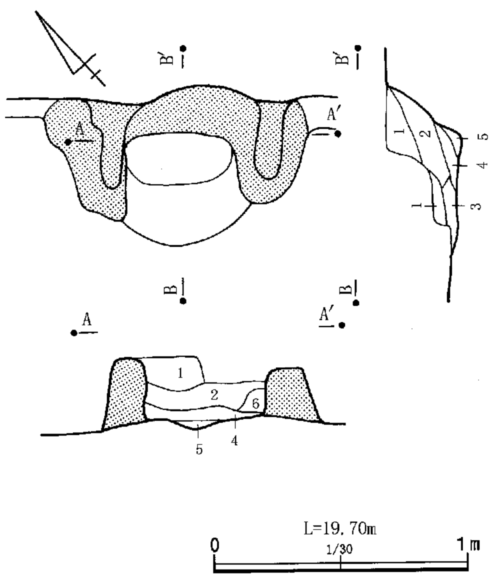
調査区南側の台地緩斜面に位置する。主軸方位はＮ－43°－Ｅで、規模は主軸長2.52×横軸長2.94ｍである。周溝はカマド部分を除いて全周しており、旧周溝はカマド部分と北東隅を除いてほぼ全周している。貼床下から旧周溝が検出され、拡張が行われた形跡が認められた。残存壁高は15～25㎝で垂直気味に立ち上がる。第５ピット（Ｐ１）はあるものの柱穴はない。重複関係があり、２ｂ号住居跡と２号溝状遺構より古い。

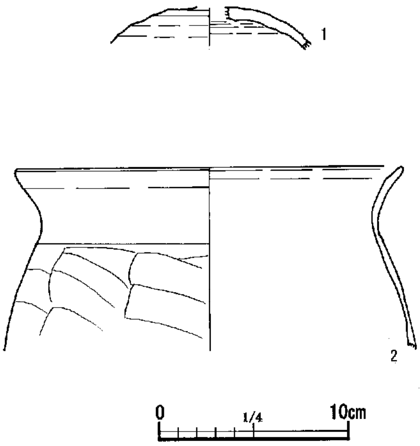
第３表　遺物観察表１（土器①）　　　※　法量（　）は推定復元値

図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	色調	整形・調整技法	備考
第４図	1	１号住居跡	平安時代	坏	土師	口径　(14.2) 残存高　3.6	7.5YR5/3　にぶい褐	ロクロ整形 手持ちヘラケズリ	
	2	１号住居跡	平安時代	坏	土師	口径　(13.4) 底径　(7.0) 器高　3.9	10R4/4　赤褐 2.5YR4/2　灰赤	ロクロ整形 切り離し不明後手持ちヘラケズリ	口径/底径比率(1.91)
	3	１号住居跡	平安時代	坏	土師	口径　13.6 底径　7.5 器高　4.3	2.5YR3/4　暗赤褐 10YR6/3　にぶい黄橙 10YR1.7/1　黒	ロクロ整形 切り離し不明後回転ヘラケズリ	口径/底径比率1.81 黒色物付着
	4	１号住居跡	平安時代	坏	土師	口径　15.2 底径　(8.0) 器高　4.8	2.5YR5/6　明褐色 5YR5/3　にぶい赤褐	ロクロ整形 切り離し不明後回転ヘラケズリ	口径/底径比率(1.90) 口縁ゆがみあり
	5	１号住居跡	平安時代	坏	土師	底径　(9.0) 残存高　3.0	5YR6/6　橙 5YR1.7/1　黒	ロクロ整形　ミガキ 切り離し不明後手持ちヘラケズリ	内黒
	6	１号住居跡	平安時代	皿	土師	口径　13.4 底径　6.2 器高　2.0	7.5YR6/4　にぶい橙	ロクロ整形 切り離し不明後手持ちヘラケズリ	口径/底径比率2.16 口縁ゆがみあり
	7	１号住居跡	平安時代	皿	土師	口径　12.6 底径　6.0 残存高　2.3	2.5YR4/6　赤褐 7.5YR6/3　にぶい褐	ロクロ整形 切り離し不明後手持ちヘラケズリ	口径/底径比率2.10 口縁ゆがみあり
	8	１号住居跡	平安時代	坏	土師	底径　7.0 残存高　2.0	2.5YR4/1　赤灰 2.5YR5/6　明赤褐	ロクロ整形 切り離し不明後手持ちヘラケズリ	雲母少量
	9	１号住居跡	平安時代	坏	土師	底径　6.8 残存高　1.5	10R4/4　赤褐 10R3/2　暗赤褐	ロクロ整形 回転糸切り後手持ちヘラケズリ	
	10	１号住居跡	平安時代	高台付坏	土師	底径　6.2 残存高　1.8	5YR5/6　明赤褐	ロクロ整形　ナデ 切り離し不明後回転ヘラケズリ 後貼付高台	
	11	１号住居跡	平安時代	高台付坏	土師	底径　(7.0) 残存高　1.3	7.5YR6/6　橙	ロクロ整形 回転糸切り後無調整	
	12	１号住居跡	平安時代	甕	土師	底径　7.2 残存高　1.0	2.5YR5/4　にぶい赤褐	ロクロ整形 手持ちヘラケズリ　ナデ	
	13	１号住居跡	古墳時代後期	蓋	須恵	残存高　1.6	10Y6/1　灰	ロクロ整形 回転ヘラケズリ	東海産
	14	１号住居跡	古墳時代後期	蓋	須恵	残存高　2.0	7.5Y5/1　灰	ロクロ整形 回転ヘラケズリ	東海産
	15	１号住居跡	古墳時代後期	蓋	須恵	残存高　0.9	2.5GY6/1　オリーブ灰 N5/　灰	ロクロ整形	東海産
	16	１号住居跡	平安時代	壺	灰釉陶器	残存高　8.8	7.5Y4/2　灰オリーブ 7.5Y3/1　オリーブ黒 5Y5/1　灰	ロクロ整形	東海産 K-90
	17	１号住居跡	平安時代	壺	須惠	底径　(10.4) 残存高　8.3	2.5Y5/1　黄灰 5YR6/6　橙	ロクロ整形　ナデ 回転ヘラケズリ後部分的にナデ	東海産
	18	１号住居跡	平安時代	壺	須惠	残存高　7.0	2.5Y5/1　黄灰 7.5Y5/2　灰オリーブ	ロクロ整形 回転ヘラケズリ	東海産
	19	１号住居跡	平安時代	甑	土師	底径　(15.2) 残存高　4.5	10YR4/1　褐灰	ヘラケズリ　ナデ 工具によるナデ	
	20	１号住居跡	平安時代	甕底部	土師		2.5YR5/6　明赤褐	ロクロ整形 右下の文字だけ施文具が異なる	刻書「□里□里□」
	21	１号住居跡	平安時代	甑底部	須恵		5YR3/3　暗赤褐	ロクロ整形	刻書「井」
	22	１号住居跡	平安時代	甕	須恵	口径　23.0 胴部最大径　23.4 残存高　16.5	7.5YR6/4　にぶい橙 5YR6/4　にぶい橙 5YR4/2　灰褐	ロクロ整形 ヨコナデ　タタキ ヨコナデ　工具によるナデ	押圧痕
	23	１号住居跡	平安時代	甕	須恵	口径　25.4 胴部最大径　25.7 残存高　19.3	2.5YR5/6　明赤褐 5YR3/2　暗赤褐	ロクロ整形　タタキ	押圧痕
	24	１号住居跡	平安時代	甕	土師	口径　20.0 胴部最大径　20.0 残存高　18.0	10R4/6　赤 2.5YR3/1　暗赤灰	ロクロ整形　ヨコナデ タタキ後ヘラケズリ ヨコナデ	輪積痕 押圧痕 雲母少量
	25	１号住居跡	平安時代	甕	土師	口径　20.0 胴部最大径　21.0 残存高　16.5	2.5YR4/6　赤褐 5YR2/1　黒褐	ロクロ整形　ヘラケズリ	
第６図	1	２a号住居跡	古墳時代後期	蓋	須恵	残存高　2.0	5Y5/1　灰	ロクロ整形 回転ヘラケズリ	東海産 白色粒少量
	2	２a号住居跡	奈良時代	甕	土師	口径　(20.6) 胴部最大径　(21.6) 残存高　9.7	2.5YR5/3　にぶい赤褐	ヘラケズリ 横ナデ　ヘラナデ 内外面斑文	

遺物量は少なく、土師器の甕（２）の他は時期決定の材料となる遺物はなかった。他に古墳時代後期の須恵器の蓋（１）が出土しており、伝世品の可能性も考えられる。







２ａ号住居跡
1　7.5YR3/2　黒褐　径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を多く含む。径5～30mm程度のロームブロックを多く含む。
2　7.5YR3/3　暗褐　径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を少し含む。径1～5mm程度のローム粒を極めて多く含む。
径5～20mm程度のロームブロックを少し含む。
3　7.5YR3/4　暗褐　径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を微かに含む。径1～5mm程度のローム粒を少し含む。
径5～30mm程度のロームブロックを多くに含む。
4　7.5YR3/3　暗褐　径1～3mm程度の焼土粒・炭化物を微かに含む。径1～5mm程度のローム粒を多く含む。
5　7.5YR3/3　暗褐　径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。径1～5mm程度のローム粒を少し含む。カマドの一部。
6　7.5YR3/2　黒褐　ローム粒を少し含み、径5mm程度のロームブロックをまばらに含む。
7　7.5YR3/3　暗褐　ローム粒を含み、径10～30mm程度のロームブロックを少し含む。

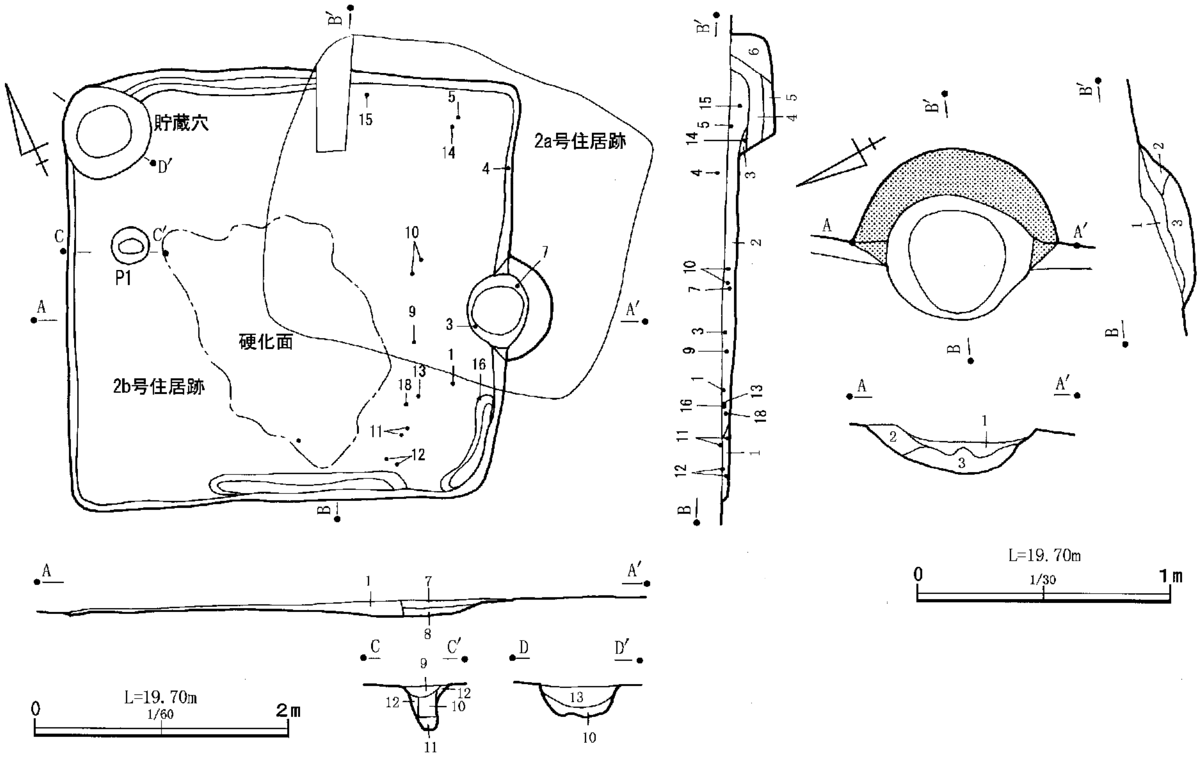
２ａ号住居跡カマド
1　2.5YR3/1　暗赤灰　砂粒(褐)を多く含み、径1～3mm程度の焼土粒を含む。径10～30mm程度の焼土ブロックをまばらに含む。
2　2.5YR3/3　暗赤褐　砂粒(暗赤)を主体に、径3～10mm程度の焼土ブロックを含む。
3　2.5YR3/2　暗赤褐　砂粒(暗褐)を含み、径5mm程度のロームブロック、径3mm程度の焼土ブロックをまばらに含む。
4　10YR3/2　赤褐　砂粒(暗褐)・灰を含み、焼土粒・炭化物をまばらに含む。
径10mm程度のロームブロック、径5mm程度の焼土ブロックを微かに含む。
5　5YR3/2　暗赤褐　暗褐色土を含み、径5～20mm程度のロームブロックをまばらに含む。砂粒・焼土粒を微かに含む。
6　2.5YR3/2　暗赤褐　砂粒(暗褐)を含み、径5mm程度の焼土ブロック、径3mm程度の砂ブロック(褐)をまばらに含む。

２号溝
1　7.5YR3/1　黒褐　径1～3mm程度の焼土粒・炭化物を微かに含む。径1～5mm程度のローム粒を少し含む。

第６図　２ａ号住居跡及び遺物実測図

第４表　遺物観察表２（土器以外①）

図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	重量(g)	備考
第５図	26	１号住居跡	平安時代	支脚	土製	長さ 24.8 厚さ 8.7 幅 9.7	1045.0	
	27	１号住居跡	奈良・平安時代	紡錘車	土製	縦径 4.8 孔径 0.8 横径 5.0 厚さ 0.8	27.0	土器片を再加工したもの ? 両面に工具によるミガキ
	28	１号住居跡	奈良・平安時代	管状土錘	土製	縦径 3.5 孔径 1.7 横径 3.5 残存高 2.9	5.7	
	29	１号住居跡	奈良・平安時代	鉄滓	鉄製	長さ 3.4 厚さ 1.6 幅 2.8	3.7	
	30	１号住居跡	奈良・平安時代	刀子	鉄製	長さ 6.2 厚さ 0.5 幅 2.0	7.9	
	31	１号住居跡	奈良・平安時代	刀子	鉄製	長さ 10.8 厚さ 0.4 幅 1.5	10.8	
	32	１号住居跡	奈良・平安時代	刀子	鉄製	長さ 15.2 厚さ 0.7 幅 1.7	20.6	
	33	１号住居跡	奈良・平安時代	鎌	鉄製	長さ 17.2 厚さ 0.5 幅 3.3	71.1	
第８図	18	2b号住居跡	奈良・平安時代	刀子	鉄製	長さ 5.7 厚さ 0.5 幅 1.2	6.1	



2ｂ号住居跡
1 7.5YR3/3 暗褐 径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・山砂粒を多く含む。径5～30mm程度の焼土ブロックを多く含む。
径1～5mm程度のローム粒を少し含む。
2 7.5YR3/2 黒褐 径1～3mm程度の焼土粒・炭化物を微かに含む。径1～5mm程度のローム粒を多く含む。
3 7.5YR3/2 黒褐 径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を少し含む。径5～20mm程度の焼土ブロックを少し含む。
径5～30mmmm程度のロームブロックを極めて多く含む。
２層が硬化した層で、２ｂ号住居跡の硬化面を形成する。
4 7.5YR3/1 黒褐 径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を微かに含む。径1～5mm程度のローム粒を少し含む。
5 7.5YR3/4 暗褐 径1～5mm程度のローム粒を多く含む。径5～30mm程度のロームブロックを極めて多く含む。
6 7.5YR3/3 暗褐 径1～5mm程度のローム粒を多く含む。5～20mm程度のロームブロックを少し含む。
7 7.5YR3/4 暗褐 径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・山砂粒を多く含む。径5～50mm程度の焼土ブロックを多く含む。
径5～30mm程度の山砂ブロックを多く含む。カマドが壊されて再堆積した層。
8 7.5YR3/1 黒褐 径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・山砂粒を少し含む。
9 7.5YR3/3 暗褐 径1～5mm程度のローム粒を多く含む。
10 7.5YR3/1 黒褐 径1～5mm程度のローム粒を少し含む。径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。
11 7.5YR3/3 暗褐 径1～5mm程度のローム粒を多く含む。
12 7.5YR4/3 褐 径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。
13 7.5YR3/2 黒褐 径1～3mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を微かに含む。
14 7.5YR3/1 黒褐 径1～5mm程度のローム粒を少し含む。径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。
※4・5・6は２ａ号住居跡の覆土。

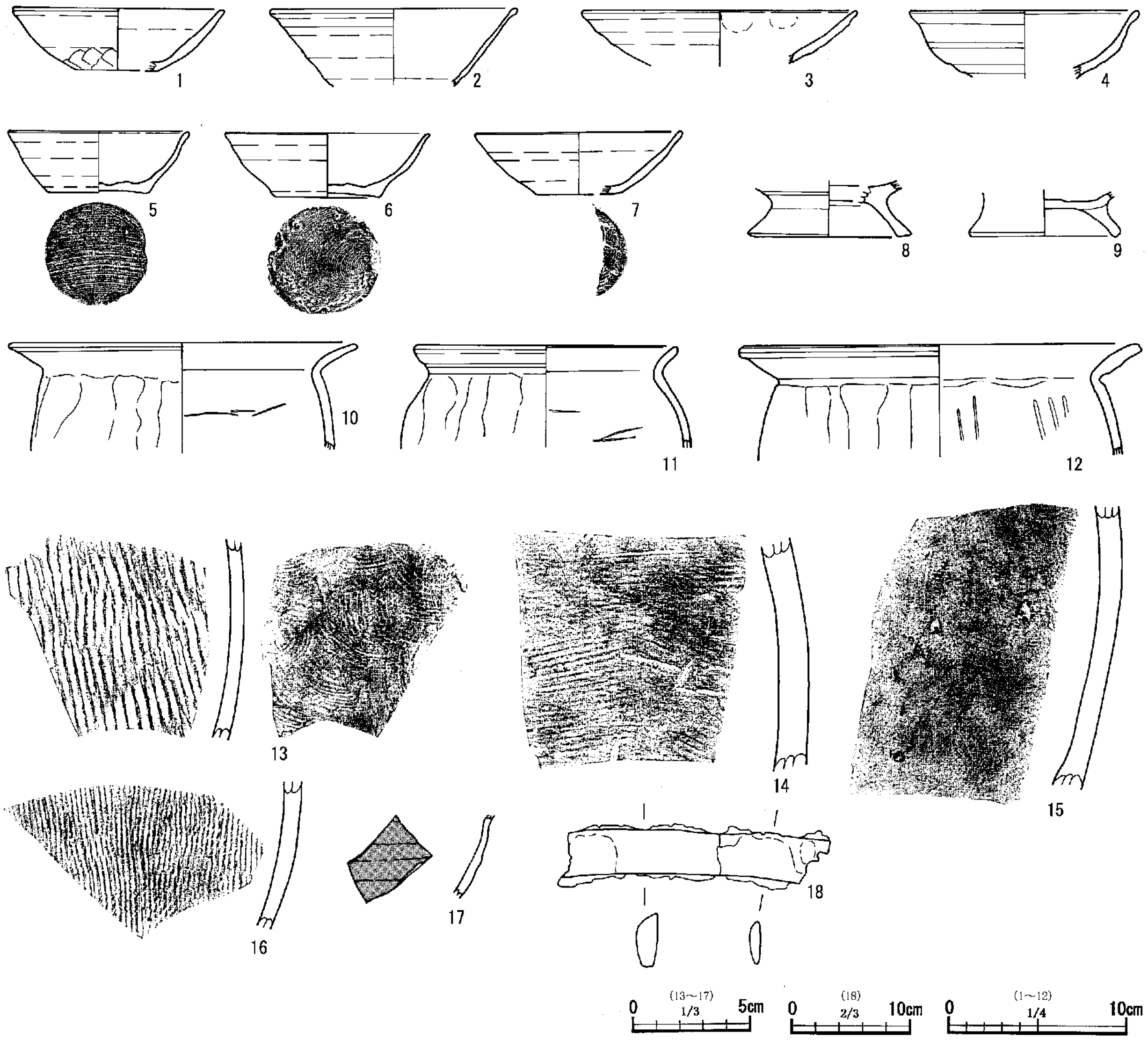
２ｂ号住居跡カマド
1 2.5YR4/4 にぶい赤褐 径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を極めて多く含む。所々に黒褐色土(7.5YR3/2)を含む。
2 7.5YR3/2 黒褐 径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・山砂粒を少し含む。
3 2.5YR5/8 明赤褐 焼土層。カマド火床面。

第７図　２ｂ号住居跡実測図

２ｂ号住居跡（第７・８図）

調査区南側の台地緩斜面に位置する。主軸方位はＮ－114°－Ｅで、規模は主軸長3.48×横軸長3.46ｍである。周溝は一部に認められたが、２ａ号住居跡との重複部分では検出できなかった。残存壁高は5～10㎝で床面付近まで削平され、カマドは大部分が破損していた。北西隅に貯蔵穴が検出された。第５ピット（Ｐ１）はあるものの柱穴はなく、遺物はカマド周辺に集中して出土している。

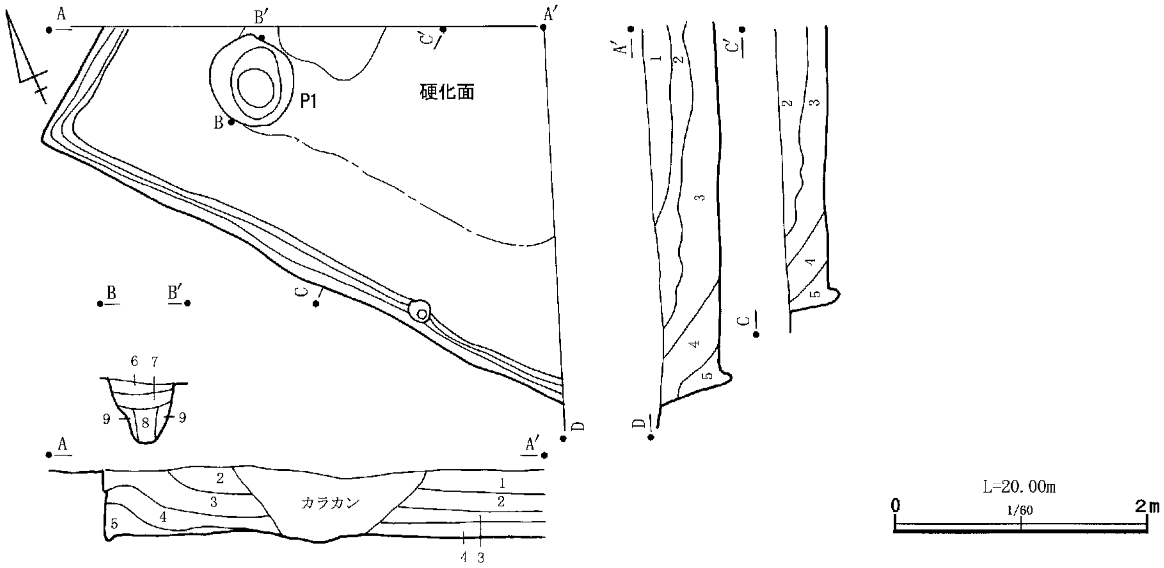
遺物量は多く、土師器の杯（１・２・５～７）・高台付杯（４・８・９）・皿（３）・甕（10～12）、東海産須恵器の甕（13～16）、東海産緑釉陶器の杯または碗（17）、鉄製の刀子（18）が出土している。坏の口径／底径比率の平均値は2.19で、調整技法は手持ちヘラケズリ１個体、無調整３個体である。



第８図　２ｂ号住居跡遺物実測図

第５表　遺物観察表３（土器②）　　　※　法量（　）は推定復元値

図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	色調	整形・調整技法	備考
第８図	1	2b号住居跡	平安時代	坏	土師	口径 (12.0) 底径 (4.4) 器高 3.5	7.5YR6/4 にぶい橙	ロクロ整形 切り離し不明後手持ちヘラケズリ 内外面に斑文	口径/底径比率 (2.73)
	2	2b号住居跡	平安時代	坏	土師	口径 (14.0) 底径 (6.6) 残存高 4.4	5YR5/6 明赤褐	ロクロ整形 ヨコナデ	口径/底径比率 (2.12)
	3	2b号住居跡	平安時代	皿	土師	口径 (15.4) 残存高 4.0	5YR5/6 明赤褐	ロクロ整形	押圧痕
	4	2b号住居跡	平安時代	高台付坏	土師	口径 (13.0) 残存高 3.8	7.5YR8/3 浅黄橙	ロクロ整形 切り離し不明	
	5	2b号住居跡	平安時代	坏	土師	口径 (10.2) 底径 5.8 器高 3.5	2.5YR5/6 明赤褐	ロクロ整形 静止糸切り後無調整	口径/底径比率 (1.76)
	6	2b号住居跡	平安時代	坏	土師	口径 (11.5) 底径 6.3 器高 3.6	2.5YR5/4 にぶい赤褐	ロクロ整形 回転糸切り後無調整	口径/底径比率 (1.83)
	7	2b号住居跡	平安時代	坏	土師	口径 (11.6) 底径 (4.6) 器高 3.5	2.5YR4/6 赤褐	ロクロ整形 回転糸切り後無調整	口径/底径比率 (2.52)
	8	2b号住居跡	平安時代	高台付杯 脚部	土師	脚部径 (9.4) 残存高 3.1	7.5YR8/3 浅黄橙	ロクロ整形 切り離し不明後貼付高台	
	9	2b号住居跡	平安時代	高台付杯 脚部	土師	脚部径 8.6 残存高 2.6	2.5YR5/6 赤褐	ロクロ整形 切り離し不明後貼付高台	



3号住居跡
1 7.5YR3/2 黒褐 径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を多く含む。
2 7.5YR3/3 暗褐 径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を多く含む。径5～100mm程度のロームブロックを少し含む。
3 7.5YR3/4 暗褐 径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を多く含む。径5～100mm程度のロームブロックを多く含む。
4 7.5YR4/3 褐 径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を多く含む。径5～50mm程度の焼土ブロックを少し含む。
径5～100mm程度のロームブロックを極めて多く含む。
5 7.5YR3/2 黒褐 径1～5mm程度のローム粒を少し含む。径5～50mm程度のロームブロックを少し含む。
6 7.5YR3/3 暗褐 径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を多く含む。径5～50mm程度のロームブロックを多く含む。
径5～10mm程度の焼土粒・炭化物を多く含む。
7 7.5YR4/3 褐 径5～30mm程度のロームブロックを多く含む。径1～5mm程度のローム粒を多く含む。
8 7.5YR3/4 暗褐 径5～50mm程度のロームブロックを多く含む。
9 7.5YR4/4 褐 径5～50mm程度のロームブロックを多く含む。
※2・3・4は人為的埋土の可能性が高い。

第９図　３号住居跡及び遺物実測図

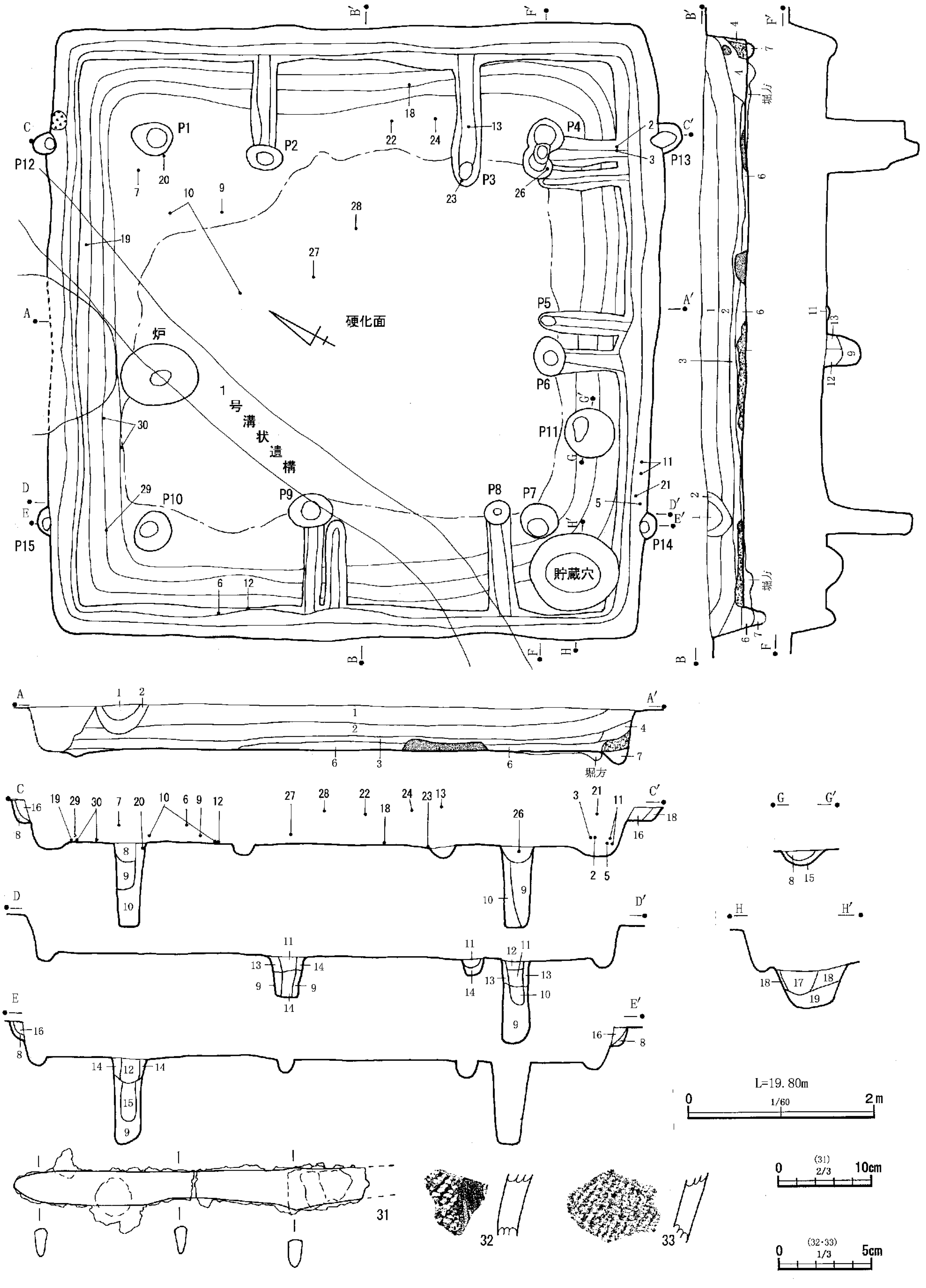
第６表　遺物観察表４（土器③）

※　法量（　）は推定復元値

図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	色調	整形・調整技法	備考
第８図	10	2b号住居跡	平安時代	甕	土師	口径 (19.6) 最大径 (17.0) 残存高 6.2	2.5YR5/8 明赤褐	横ナデ　ヘラケズリ 横ナデ　工具によるナデ	
	11	2b号住居跡	平安時代	甕	土師	口径 (14.8) 胴部最大径 (16.4) 残存高 5.8	5YR5/4 にぶい赤褐	ヘラケズリ ヨコナデ　ナデ	
	12	2b号住居跡	平安時代	甕	土師	口径 (22.8) 胴部最大径 (20.4) 残存高 6.5	5YR5/4 にぶい赤褐	ヘラケズリ ヨコナデ　ヘラケズリ後ヘラナデ	
	13	2b号住居跡	平安時代	甕胴部	須恵		2.5Y5/1 黄灰	ロクロ整形 タタキ　青海波文	東海産
	14	2b号住居跡	平安時代	甕胴部	須恵		N6/ 灰	ロクロ整形 タタキ	東海産
	15	2b号住居跡	平安時代	甕胴部	須恵		5Y5/2 灰オリーブ	ロクロ整形 タタキ	東海産
	16	2b号住居跡	平安時代	甕胴部	須恵		2.5Y6/2 灰黄	ロクロ整形 タタキ	東海産
	17	2b号住居跡	平安時代	杯または碗	緑釉陶器		7.5Y5/3 灰オリーブ 7.5Y6/3 オリーブ黄	ロクロ整形 内外面緑釉　胴部	東海産
第９図	1	３号住居跡	古墳時代中期	鉢	土師	底径 (6.0) 残存高 2.6	7.5YR2/3 極暗褐 10YR6/3 にぶい黄橙	ミガキ	内外面黒色処理
	2	３号住居跡	古墳時代中期	坏	須恵	口径 (11.0) 残存高 1.6	N5/ 灰	ロクロ整形	
	3	３号住居跡	古墳時代中期	高坏脚部	土師	底径 (15.0) 残存高 1.8	2.5YR4/8 赤褐	ヨコナデ後ミガキ ケズリ後ミガキ	

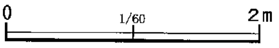
３号住居跡（第９図）

調査区北東側の台地平坦面に位置する。主軸方位・規模は不明である。北東側の大部分は調査区外だが、調査した部分の周溝は全周している。残存壁高は35～50cmで垂直気味に立ち上がる。柱穴は１



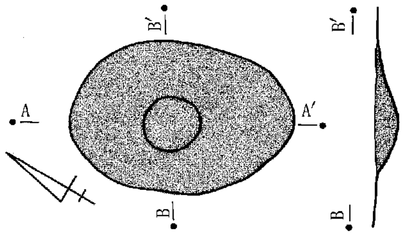
第10図　４号住居跡及び遺物実測図

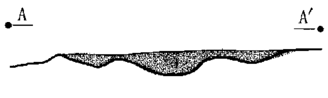
４号住居跡
1　7.5YR3/3　暗褐　径1～5㎜程度のローム粒を極めて多く含む。径1～3㎜程度の焼土粒・炭化物を少し含む
2　7.5YR3/3　暗褐　径1～5㎜程度のローム粒を極めて多く含む。径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物を少し含む。
　　　　　　　　　径5～30㎜程度のロームブロックを極めて多く含む。
3　7.5YR3/4　暗褐　径1～5㎜程度のローム粒を多く含む。径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物を多く含む。
　　　　　　　　　径5～50㎜程度のロームブロックを多く含む。径5～50㎜の焼土ブロック・炭化物を少し含む。
4　7.5YR3/3　暗褐　径1～5㎜程度のローム粒を多く含む。径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物を極めて多く含む。
　　　　　　　　　径5～10㎜程度のロームブロックを少し含む。径5～50㎜の焼土ブロック・炭化物を多く含む。
　　　　　　　　　床面の焼土・炭化物が４層(壁際)まで続いている。
5　7.5YR3/4　暗褐　径10～100㎜程度のロームブロックを多く含む。径5～10㎜程度の焼土ブロック・炭化物を少し含む。
6　7.5YR3/3　暗褐　径1～5㎜程度のローム粒を多く含む。
7　7.5YR3/2　黒褐　径1～5㎜程度のローム粒を多く含む。周溝覆土。
8　7.5YR3/3　暗褐　径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を多く含む。
9　7.5YR4/3　褐　径5～20㎜程度のロームブロックを多く含む。
10　7.5YR3/4　暗褐　径5～20㎜程度のロームブロックを多く含む。
11　7.5YR3/3　暗褐　径1～5㎜程度のローム粒を多く含む。径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物を少し含む。
12　7.5YR3/2　黒褐　径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を少し含む。
13　7.5YR4/4　褐　径5～20㎜程度のロームブロックを多く含む。
14　7.5YR4/3　褐　径1～5㎜程度のローム粒を少し含む。
15　7.5YR3/3　暗褐　径1～5㎜程度のローム粒を多く含む。
16　7.5YR3/2　黒褐　径1～5㎜程度のローム粒を少し含む。径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物を多く含む。
　　　　　　　　　径5～10㎜程度の焼土ブロック・炭化物を少し含む。
17　7.5YR3/2　黒褐　径1～5㎜程度の炭化物を多く含む。
18　7.5YR3/3　暗褐　径5㎜程度のロームブロックを多く含む。
19　7.5YR3/4　暗褐　径5㎜程度のロームブロックを多く含む。
※2・3・4は人為的埋土の可能性が高い。

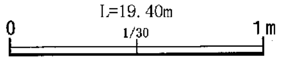


１号溝
1　7.5YR3/1　黒褐　径1～3㎜程度の焼土粒・炭化物を少し含む。径1～3㎜程度のローム粒を多く含む。
2　7.5YR3/2　黒褐　径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を多く含む。

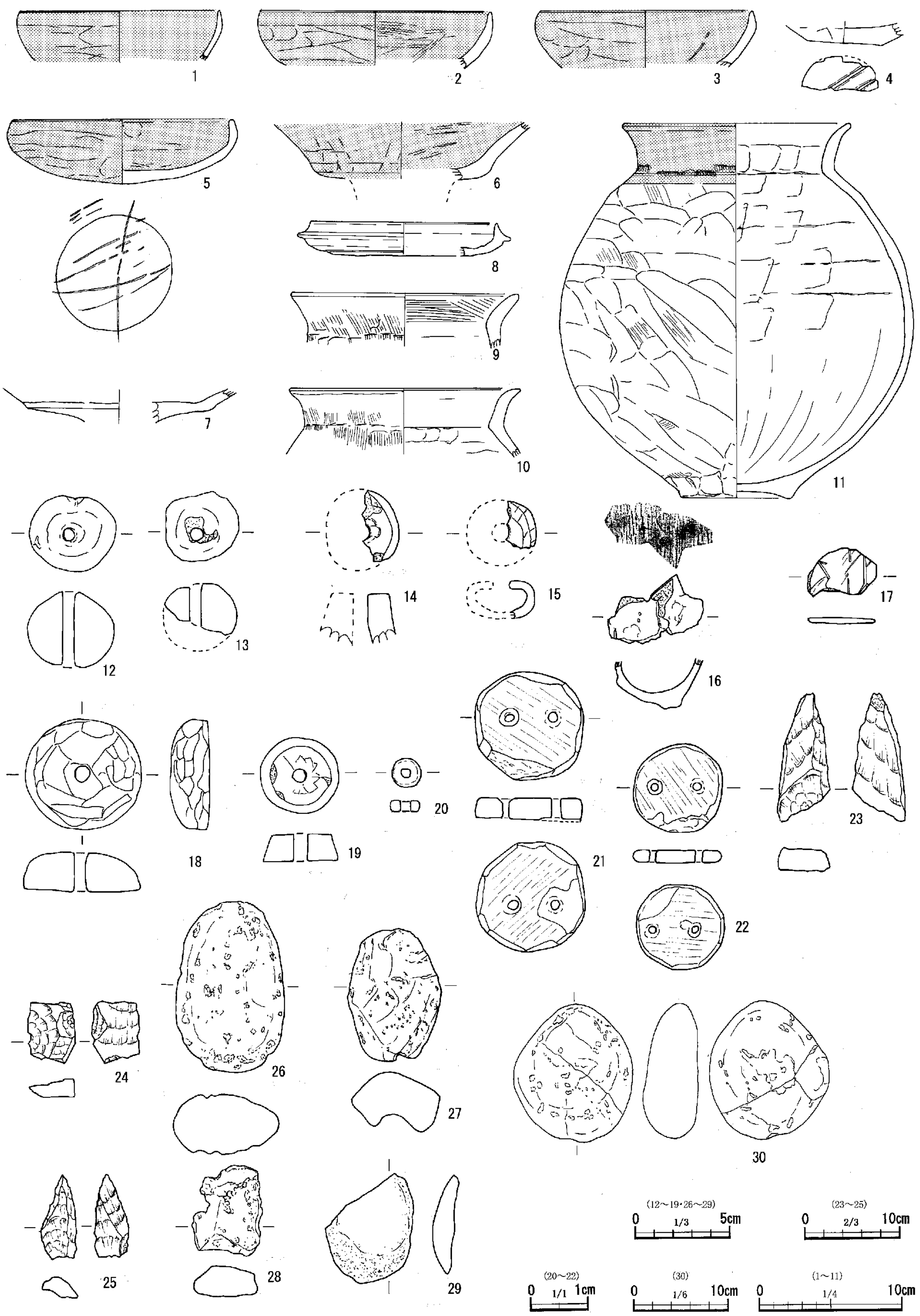
炉
1　7.5YR3/2　黒褐　径1～5㎜程度の焼土粒を極めて多く含む。径5～20㎜の焼土ブロックを多く含む。
　　　　　　　　　径5～50㎜の炭化物を多く含む。







第11図　４号住居跡実測図



第12図　４号住居跡遺物実測図

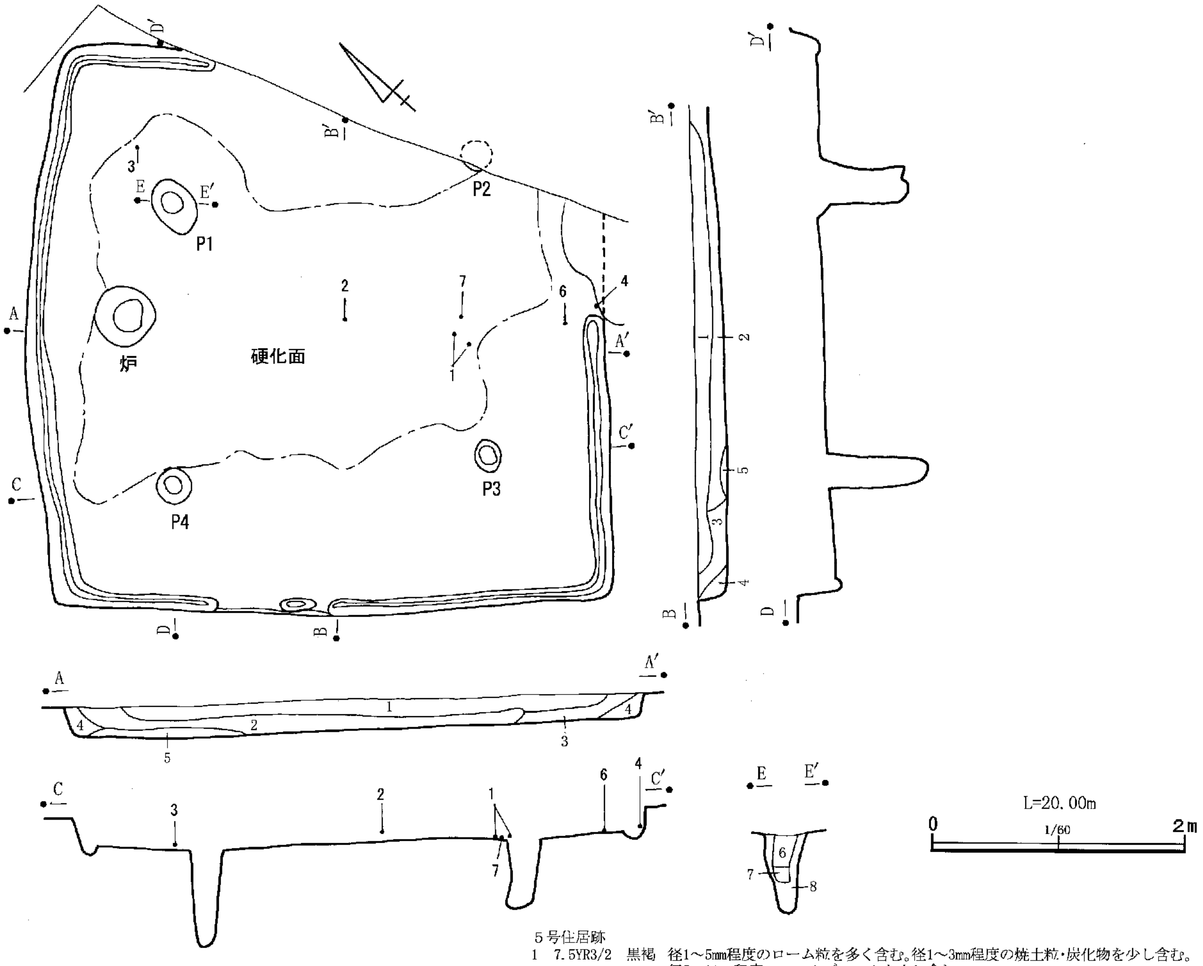
第７表　遺物観察表５（土器④）

※　法量（　）は推定復元値

図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	色調	整形・調整技法	備考
第12図	1	４号住居跡	古墳時代 中期	坏	土師	口径　(14.0) 残存高　3.5	10R4/3　赤褐 10R2/3　極暗赤褐	ケズリ後ミガキ ミガキ	内外面赤彩
	2	４号住居跡	古墳時代 中期	坏	土師	口径　(16.0) 残存高　4.0	7.5R4/5　赤 7.5R1.7/7　赤黒	ヨコナデ ケズリ後ミガキ	内外面黒色物付着 内外面赤彩
	3	４号住居跡	古墳時代 中期	坏	土師	口径　(14.8) 最大径　(15.4) 残存高　4.0	10R4/6　赤	ヘラケズリ ヨコナデ 工具によるナデ	内外面赤彩
	4	４号住居跡	古墳時代 中期	甕 底部	土師	底径　5.3 残存高　1.0	10R3/6　暗赤 10R1.7/1　赤黒	ケズリ	底面に線刻
	5	４号住居跡	古墳時代 中期	坏	土師	口径　(15.6) 最大径　16.2 器高　5.5	7.5YR4/6　赤 10YR3/1　黒褐	ヨコナデ　ヘラケズリ後ミガキ ヘラナデ　ヨコナデ　圧痕 ヘラケズリ後ヘラナデ	黒色物付着 底面に線刻
	6	４号住居跡	古墳時代 中期	高坏	土師	口径　― 残存高　3.7	10R3/6　暗赤 N2/1　黒	ケズリ後ミガキ ナデ後ミガキ	内外面赤彩
	7	４号住居跡	古墳時代 中期	高坏	土師	口径　― 残存高　2.3	7.5YR5/3　にぶい褐 10R4/6　赤	ナデ後ミガキ	
	8	４号住居跡	古墳時代 中期	坏	須恵	口径　(13.0) 残存高　2.2	5Y5/1　灰	ロクロ整形 回転ヘラケズリ	
	9	４号住居跡	古墳時代 中期	壺	土師	口径　(16.0) 残存高　3.7	7.5YR5/3　にぶい褐 7.5YR3/1　黒褐	ハケメ後ヨコナデ ハケメ後ナデ	
	10	４号住居跡	古墳時代 中期	壺	土師	口径　(16.2) 残存高　4.7	2.5YR4/2　灰赤 2.5YR2/1　赤黒	ヨコナデ　ハケメ ヨコナデ　ナデ	輪積痕
	11	４号住居跡	古墳時代 中期	壺	土師	口径　16.2 胴部最大径　25.0 底径　8.0 器高　26.5	7.5YR5/3　にぶい褐 5Y2/2　オリーブ黒	ハケメ後ヘラケズリ後ヘラナデ 工具によるナデ、ヨコナデ タテ方向ナデ	輪積痕 内外面黒斑 外面赤彩
第10図	32	４号住居跡	縄文時代 中期後半	深鉢 胴部破片				RL縄文→磨消 内面磨滅	加曽利E式
	33	４号住居跡	縄文時代 中期後半	深鉢 胴部破片				RL縄文	加曽利E式

第８表　遺物観察表６（土器以外②）

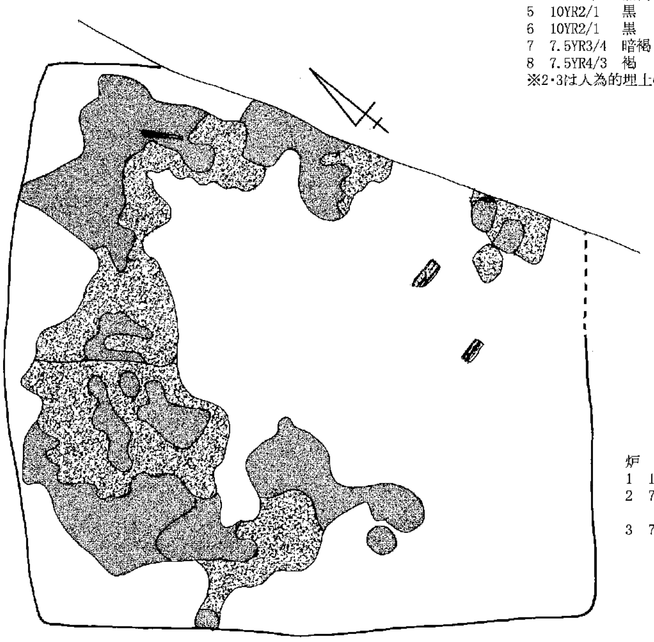
図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	重量（g）	備考
第12図	12	４号住居跡	古墳時代	球状土錘	土製	縦径　3.9　孔径　0.6 横径　4.3　高さ　3.9	66.2	下半部黒色物付着
	13	４号住居跡	古墳時代	球状土錘	土製	縦径　3.7　孔径　0.6 横径　3.8　残存高　2.6	24.8	
	14	４号住居跡	古墳時代	管状土錘	土製	縦径　(3.8)　孔径　(0.9) 横径　(4.2)　残存高　2.6	16.3	
	15	４号住居跡	古墳時代	不明土製品	土製	径　(3.7) 高さ　1.9　孔径　0.9	4.3	土鈴 ? ヘラケズリ
	16	４号住居跡	古墳時代	不明土製品	土製	長さ　3.6 幅　5.1　厚さ　0.9	11.8	内面に木目痕 ?
	17	４号住居跡	古墳時代	粘土片	土製	長さ　3.5 幅　2.3　厚さ　0.3	3.2	土器作り用 ?
	18	４号住居跡	古墳時代	紡錘車	土製	縦径　5.8　孔径　0.6 横径　6.1　厚さ　3.0	84.4	黒色物付着 ヘラケズリ
	19	４号住居跡	古墳時代	紡錘車	蛇紋岩製	縦径　4.1　孔径　0.6 横径　4.0　厚さ　1.5	36.5	表面に細かい線列 裏面に研磨面
	20	４号住居跡	古墳時代	臼玉	滑石製	縦径　0.5　孔径　0.1 横径　0.5　厚さ　0.2	0.1	
	21	４号住居跡	古墳時代	滑石製模造品 （有孔円板）	滑石製	縦径　1.9 横径　1.9　厚さ　0.5	2.6	両面に研磨面
	22	４号住居跡	古墳時代	滑石製模造品 （有孔円板）	滑石製	縦径　1.6 横径　1.6　厚さ　0.2	1.1	両面に研磨面
	23	４号住居跡	古墳時代	剥片	滑石製	長さ　3.4 幅　1.4　厚さ　0.5	3.4	左側面に研磨面
	24	４号住居跡	古墳時代	剥片	滑石製	長さ　1.6 幅　1.2　厚さ　0.5	1.1	
	25	４号住居跡	古墳時代	剥片	滑石製	長さ　2.2 幅　1.0　厚さ　0.5	1.0	
	26	４号住居跡	古墳時代	軽石製品 （浮子）	軽石製	長さ　9.0 幅　5.6　厚さ　3.2	61.5	
	27	４号住居跡	古墳時代	軽石製品 （浮子）	軽石製	長さ　7.0 幅　4.9　厚さ　3.2	20.7	研磨して面を形成
	28	４号住居跡	古墳時代	軽石製品 （浮子）	軽石製	長さ　(4.7) 幅　(3.5)　厚さ　1.5	4.3	研磨して面を形成
	29	４号住居跡	古墳時代	敲石 或いは台石	硬砂岩製	長さ　5.3 幅　4.6　厚さ　1.1	38.5	被熱している
	30	４号住居跡	古墳時代	台石	硬砂岩製	長さ　14.5 幅　12.5　厚さ　5.8	1417.8	黒色物付着 両面に敲打痕
第10図	31	４号住居跡	古墳～奈良 ・平安時代	刀子	鉄製	長さ　9.6 厚さ　0.4　幅　2.3	12.5	

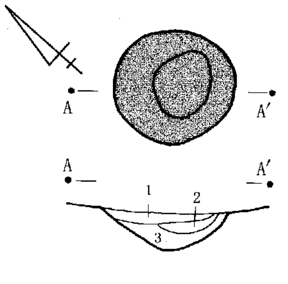


5号住居跡

1	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度のローム粒を多く含む。径1～3mm程度の焼土粒・炭化物を少し含む。 径5～30mm程度のロームブロックを少し含む。
2	7.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を多く含む。径5～30mm程度のロームブロックを多く含む。 径5～10mm程度の焼土ブロック・炭化物を多く含む。
3	7.5YR3/4	暗褐	径1～5mm程度のローム粒を多く含む。径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を少し含む。 径5～30mm程度のロームブロックを多く含む。
4	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度のローム粒を少し含む。
5	10YR2/1	黒	炭化物層。所々に焼土層(2.5YR4/8赤褐)を含む。
6	10YR2/1	黒	炭化物層。径1～5mm程度のローム粒を多く含む。
7	7.5YR3/4	暗褐	径5～10mm程度のロームブロックを多く含む。
8	7.5YR4/3	褐	径5～20mm程度のロームブロックを多く含む。

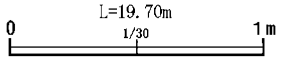
※2・3は人為的埋土の可能性が高い。



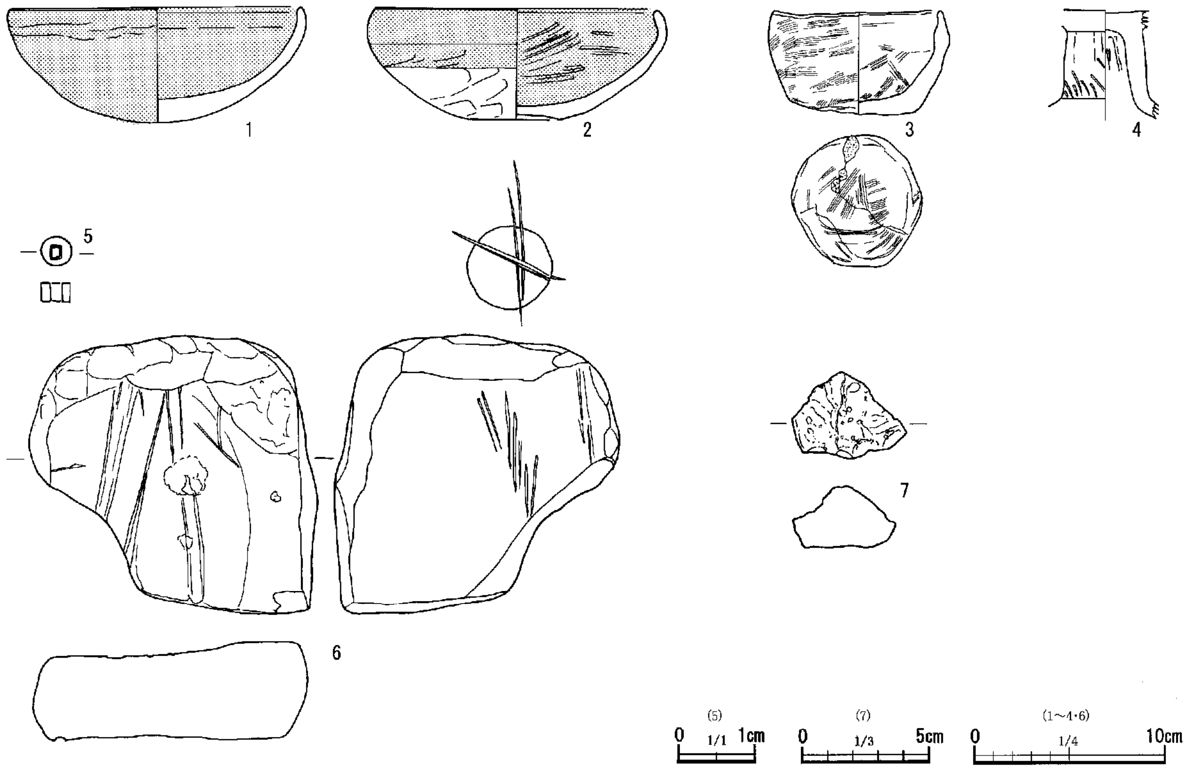


炉

1	10YR2/1	黒	炭化物層。径1～5mm程度の焼土粒を多く含む。
2	7.5YR3/4	暗褐	所々に焼土層(2.5YR4/8赤褐)を含む。径1～5mm程度のローム粒を少し含む。
3	7.5YR4/3	褐	径5～30mm程度のロームブロックを多く含む。



第13図　５号住居跡実測図



第14図　５号住居跡遺物実測図

第９表　遺物観察表７（土器⑤）

図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	色調	整形・調整技法	備考
第14図	1	５号住居跡	古墳時代中期	坏	土師	口径　15.8 底径　6.0 器高　6.0	5YR6/6　橙	ヨコナデ　ヘラケズリ後ミガキ	内外面赤彩
	2	５号住居跡	古墳時代中期	坏	土師	口径　14.8 底径　4.5 器高　5.9	N1.5/　黒 10YR4/4　褐	ヨコナデ　ヘラケズリ後ミガキ ヨコナデ　ミガキ	内外面赤彩 外面黒斑 底面に線刻
	3	５号住居跡	古墳時代中期	鉢 小形土器	土師	口径　9.0 底径　7.0 器高　5.5	2.5YR5/6　明赤褐 2.5YR2/1　赤黒	ヘラナデ　櫛目状のヘラケズリ 櫛目工具によるナデ　ヘラミガキ ヘラケズリ	黒色物付着
	4	５号住居跡	古墳時代中期	高坏脚部	土師	残存高　5.7	10R5/6　赤	ヘラナデ・ヘラケズリ後ミガキ ヨコナデ　絞り痕	内外面赤彩

第10表　遺物観察表８（土器以外③）

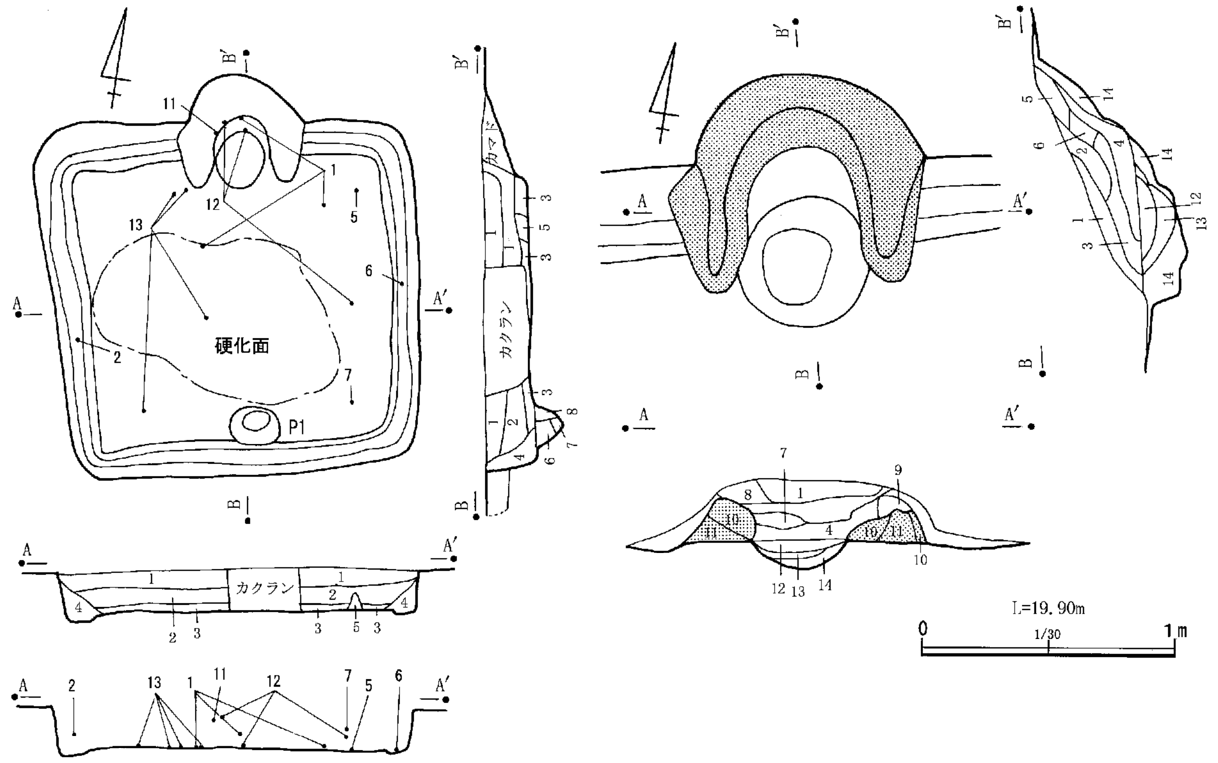
図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	重量(g)	備考
第14図	5	５号住居跡	古墳時代	臼玉	滑石製	縦径　0.4　孔径　0.1 横径　0.4　厚さ　0.3	0.1	
	6	５号住居跡	古墳時代	砥石	凝灰岩製	長さ　19.8 幅　15.2　厚さ　5.1	1422.2	両面に研磨面 鉄製品か玉類用
	7	５号住居跡	古墳時代	軽石製品 （浮子）	軽石製	長さ　3.4 幅　4.5　厚さ　2.4	10.5	研磨して面を形成

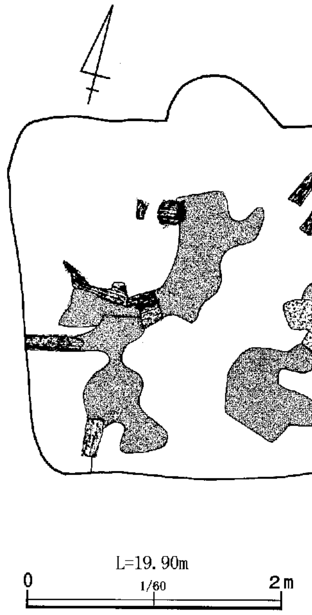
本である。

　遺物量は少なく、土師器の鉢（１）・高坏（３）、須恵器の坏（２）が出土している。

４号住居跡（第10・11・12図）

　調査区北東側の台地平坦面に位置する。主軸方位はＮ－26°－Ｗで、規模は主軸長6.50×横軸長6.60ｍである。周溝と旧周溝は全周している。残存壁高は35～45cmで垂直気味に立ち上がる。炉１基、貯





6号住居跡

1	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度のローム粒を多く含む。径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を少し含む。 径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。
2	7.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を多く含む。径5～20mm程度のロームブロックを多く含む。 径5～10mm程度の焼土ブロック・炭化物を多く含む。
3	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度のローム粒を少し含む。径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を多く含む。 径5～20mm程度のロームブロックを少し含む。径5～30mm程度の焼土ブロック・炭化物を多く含む。
4	7.5YR3/4	暗褐	径1～5mm程度のローム粒を多く含む。径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を少し含む。 径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。
5	10YR2/1	黒	炭化物層。所々に焼土層(2.5YR4/8赤褐)を含む。
6	7.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度のローム粒を少し含む。径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。
7	7.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度のローム粒を少し含む。
8	7.5YR3/4	暗褐	径1～5mm程度のローム粒を少し含む。径5～30mm程度のロームブロックを多く含む。

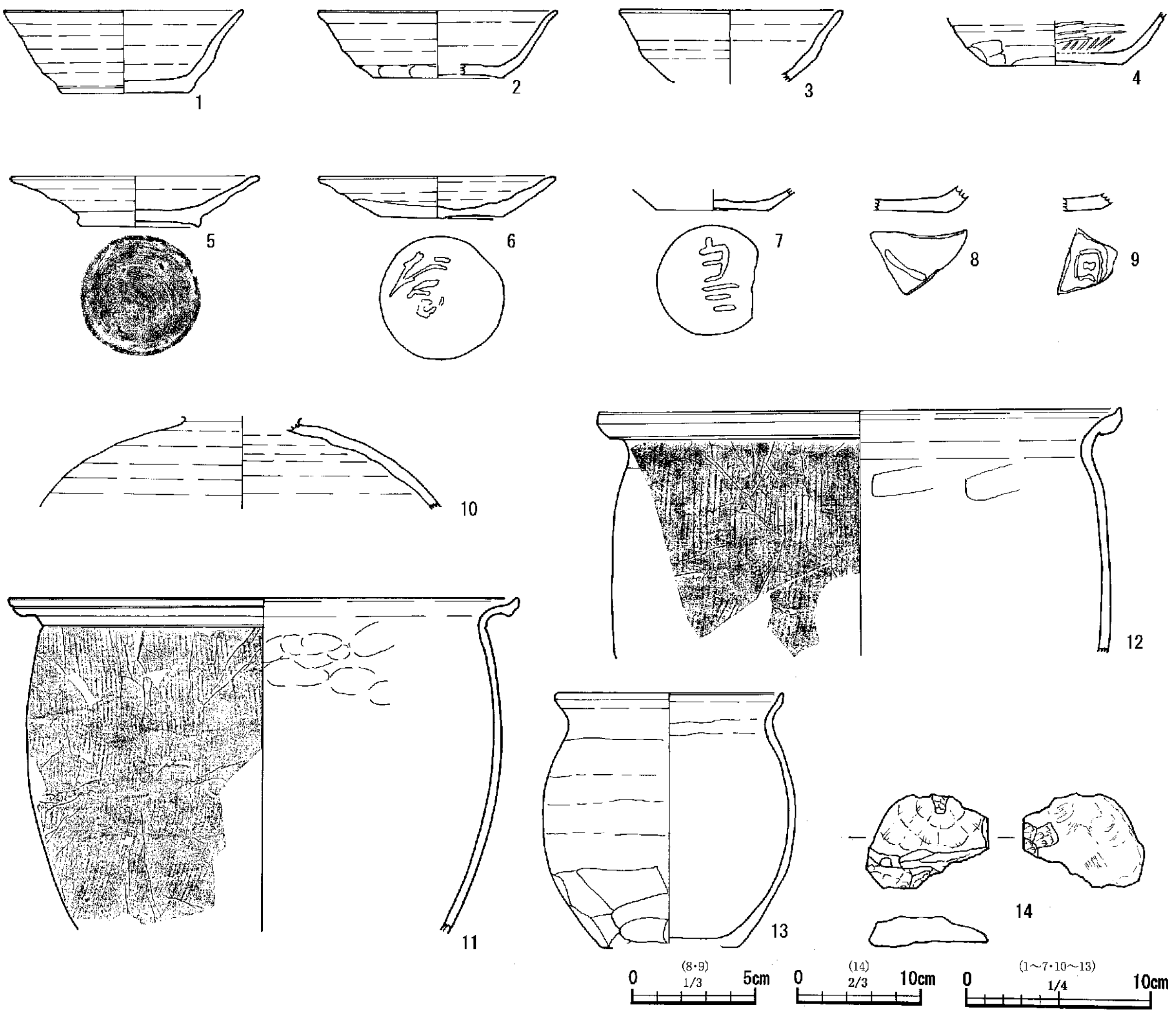
6号住居跡カマド

1	7.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。 径5～20mm程度の焼土ブロック・炭化物・白色砂ブロックを多く含む。
2	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。
3	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を極めて多く含む。 径5～50mm程度の焼土ブロック・炭化物・白色砂ブロックを極めて多く含む。
4	7.5YR3/1	黒褐	径5～50mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を極めて多く含む。
5	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。煙道部。
6	7.5YR3/1	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。煙道部。
7	2.5YR4/8	赤褐	焼土層。
8	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を少し含む。
9	2.5YR4/8	赤褐	焼土層。
10	7.5YR3/4	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。径5～20mm程度の白色砂ブロックを多く含む。
11	10YR5/8	黄褐	白色砂層。カマド袖基部。
12	2.5YR4/8	赤褐	焼土層(火床面)。
13	7.5YR4/3	褐	径5～30mm程度のロームブロックを多く含む。
14	7.5YR4/4	褐	径5～30mm程度のロームブロックを多く含む。カマド掘り方。

第15図　６号住居跡実測図

蔵穴１基、主柱穴４本、柱穴６本、壁柱穴４本、間仕切溝６条が検出された。旧周溝や旧主柱穴２本、旧間仕切溝３条があり、拡張が行われた形跡が認められる。床面に焼土・炭化物・炭化材が堆積していた。重複関係があり、１号溝状遺構より古い。北側の壁際、確認面付近より貝層ブロックが検出されたが、４号住居跡に伴うものであるかは検討を要する。貝種はハマグリ・シオフキ・カガミガイである。遺物は壁際付近で比較的多く出土している。

遺物量は多く、土師器の坏（１～３・５）・高坏（６・７）・甕（４）・壺（９～11)、須恵器の坏



第16図　６号住居跡遺物実測図

（８）、球状土錘（12・13）、管状土錘（14）、不明土製品（15・16）、粘土片（17）、土製紡錘車（18）、蛇紋岩製紡錘車（19）、滑石製臼玉（20）、滑石製模造品（有孔円板）（21・22）、滑石製の剥片（23〜25）、軽石製品（浮子）（26〜28）、硬砂岩製の敲石（29）・台石（30）が出土している。他に鉄製の刀子（31）も出土しているが、４号住居跡に伴うものであるかは検討を要する。焼成粘土片が出土しており、周囲で土器製作が行われていた可能性が考えられる。

５号住居跡（第13・14図）

調査区北側の台地平坦面に位置する。主軸方位はＮ－42°－Ｗで、規模は主軸長4.55×横軸長4.45ｍである。周溝はほぼ全周していると推測される。残存壁高は15〜25㎝で垂直気味に立ち上がる。炉１基、柱穴４本が確認された。床面に焼土・炭化物・炭化材が堆積していた。

遺物量は少なく、土師器の坏（１・２）・鉢（３）・高坏（４）、滑石製臼玉（５）、凝灰岩製の砥石（６）、軽石製品（浮子）（７）が出土している。砥石は玉類か鉄製品を研いだものと考えられる。

６号住居跡（第15・16図）

調査区北側の台地平坦面に位置する。主軸方位はＮ－10°－Ｗで、規模は主軸長2.83×横軸長2.98ｍである。周溝はカマド部分を除いて全周している。残存壁高は30〜40㎝でやや斜めに立ち上がる。第

第11表　遺物観察表９（土器⑥）

※　法量（　）は推定復元値

図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	色調	整形・調整技法	備考
第16図	1	６号住居跡	平安時代	坏	土師	口径　13.0 底径　6.8 器高　4.5	5YR5/6　明赤褐 5YR2/1　黒褐	ロクロ整形 切り離し不明後回転ヘラケズリ	口径/底径比率1.91
	2	６号住居跡	平安時代	坏	土師	口径　(13.0) 底径　(7.0) 器高　3.6	5YR5/6　明赤褐	ロクロ整形 切り離し不明後手持ちヘラケズリ	口径/底径比率(1.86)
	3	６号住居跡	平安時代	坏	土師	口径　(12.0) 残存高　4.0	7.5YR4/2　灰褐 7.5YR3/1　黒褐	ロクロ整形 手持ちヘラケズリ	
	4	６号住居跡	平安時代	坏	土師	底径　7.0 残存高　2.5	5YR5/4　にぶい赤褐 5YR1.7/1　黒	ロクロ整形　ミガキ 回転糸切り後手持ちヘラケズリ	内黒
	5	６号住居跡	平安時代	高台付坏	土師	口径　13.6 底径　6.7 器高　2.8	7.5YR6/3　にぶい褐 7.5YR3/3　暗褐	ロクロ整形　ヨコナデ 回転糸切り後無調整後貼付高台	口径/底径比率2.03 雲母少量
	6	６号住居跡	平安時代	皿	土師	口径　12.8 底径　6.7 器高　2.4	5YR6/6　橙	ロクロ整形 切り離し不明後回転ヘラケズリ	口径/底径比率1.91 墨書「□」
	7	６号住居跡	平安時代	坏	須恵器	底径　6.0 残存高　1.0	5YR5/1　褐灰 10YR6/1　褐灰	ロクロ整形 回転糸切り後回転ヘラケズリ	朱書「□□」 （２次焼成で一部消失）
	8	６号住居跡	平安時代	坏 底部	土師		10YR5/2　灰黄褐	ロクロ整形 回転糸切り後手持ちヘラケズリ	朱書「□」
	9	６号住居跡	平安時代	坏 底部	土師		5YR5/4　にぶい赤褐	ロクロ整形 切り離し不明後手持ちヘラケズリ	朱書「□」
	10	６号住居跡	平安時代	壺	須恵器	頚接合部径　(6.0) 残存高　4.6	2.5YR5/2　灰赤 7.5YR6/6　橙	ロクロ整形	東海産
	11	６号住居跡	平安時代	甕	須恵器	口径　27.6 胴部最大径　25.7 残存高　18.0	10YR5/4　にぶい黄褐	タタキ	押圧痕
	12	６号住居跡	平安時代	甕	須恵器	口径　28.2 胴部最大径　27.0 残存高　13.3	2.5Y2/1　黒 2.5YR4/6　赤褐	タタキ	押圧痕
	13	６号住居跡	平安時代	甕	土師	口径　(12.4) 胴部最大径　(13.6) 底径　7.6 器高　13.9	7.5YR7/8　黄橙	ヘラケズリ ヨコナデ ヘラナデ	外面黒色物付着
第17図	1	７号住居跡	奈良時代	甕	土師	口径　(20.8) 残存高　11.7	5YR6/3　にぶい橙	ヘラケズリ ヨコナデ　ナデ	押圧痕

第12表　遺物観察表10（土器以外④）

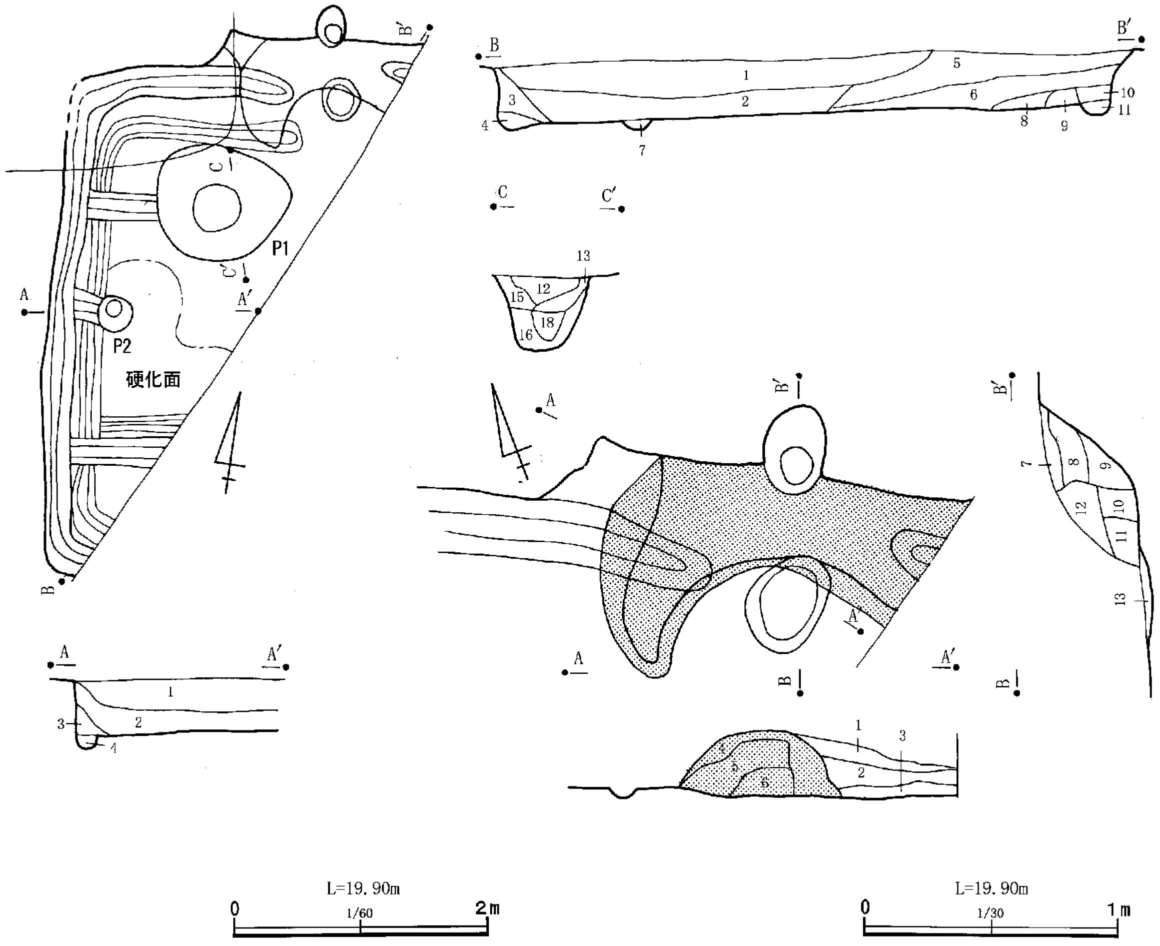
図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	重量（g）	備考
第16図	14	６号住居跡	縄文時代？	剥片	黒色 安山岩製	長さ　2.0　幅　2.5　厚さ　0.8	2.3	風化した剥離面有

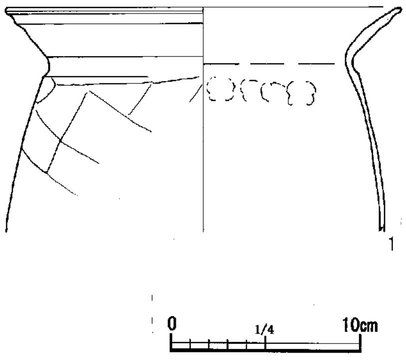
５ピット（Ｐ１）はあるものの柱穴はない。床面に焼土・炭化物・炭化材が堆積していた。カマドから多量の遺物が出土し、カマド祭祀の可能性が考えられる。重複関係があり、７号住居跡より新しい。

遺物量は多く、土師器の杯（１～３・８・９）・高台付杯（５）・皿（６）・甕（13）、内黒土師器の坏（４）、須恵器の杯（７）・甕（11・12）、東海産須恵器の壺（10）、支脚が出土している。文字資料としては、土師器の皿の底部に書かれた墨書「□」（６）と須恵器の坏の底部に書かれた朱書「□□」（７）、土師器の坏の底部に書かれた朱書「□」２点（８・９）がある。坏の口径／底径比率の平均値は1.89で、調整技法は手持ちヘラケズリ５個体、回転ヘラケズリ２個体である。皿の口径／底径比率の平均値は1.91で、調整技法は回転ヘラケズリ１個体である。

７号住居跡（第17図）

調査区北側の台地平坦面に位置する。主軸方位はＮ－5°－Ｗで、規模は主軸長4.0ｍである。南東側半分は調査区外だが、調査した部分の周溝はカマド部分を除いてほぼ全周している。残存壁高は35～45㎝でやや斜めに立ち上がる。柱穴２本、間仕切溝３条が検出された。カマドの遺存状況が良く、煙道部が残存していた。貼床下から旧周溝と旧間仕切溝２条が検出され、拡張が行われた形跡が認められた。遺物量は少なく、土師器の甕（１）の他は時期決定の材料となる遺物はなかった。





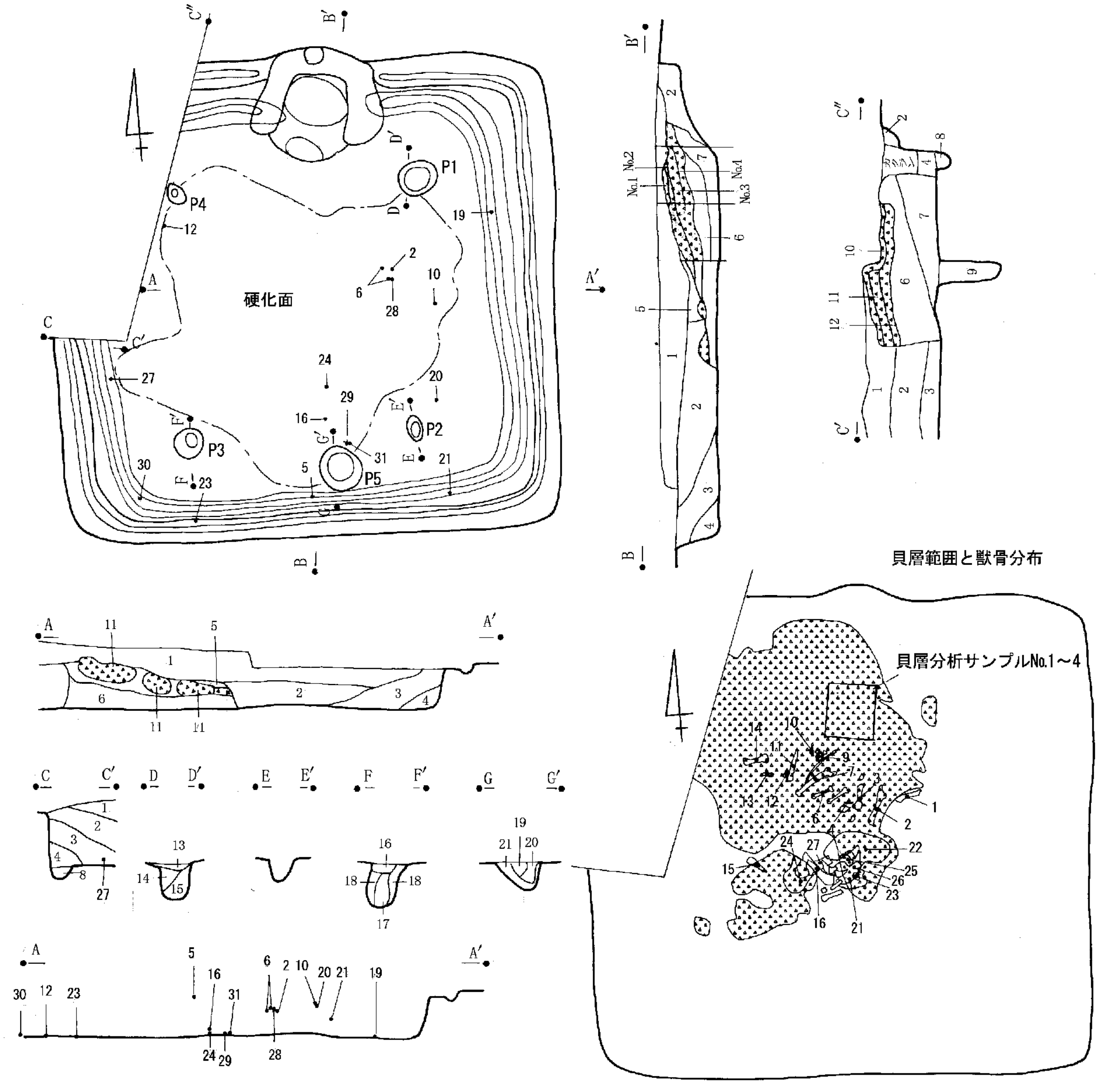
7号住居跡

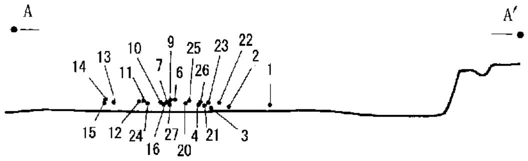
1	7.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を多く含む。径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。
2	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を少し含む。径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。
3	7.5YR3/1	黒褐	径1～5mm程度のローム粒を少し含む。径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。
4	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度のローム粒を少し含む。径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。周溝覆土。
5	7.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を多く含む。径5～20mm程度のロームブロックを多く含む。
6	7.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を多く含む。径1～5mm程度のローム粒を少し含む。 径5～30mm程度のロームブロックを多く含む。
7	7.5YR3/4	暗褐	径1～5mm程度のローム粒を少し含む。径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。
8	7.5YR3/3	暗褐	径5～20mm程度の焼土ブロック・炭化物を多く含む。径5～100mm程度の白色砂ブロックを多く含む。 カマド袖が流れたもの。
9	10YR5/8	黄褐	白色砂層。径5～10mm程度の焼土ブロック・炭化物を多く含む。カマド袖。
10	7.5YR3/4	暗褐	径5～10mm程度の焼土ブロック・炭化物・白色砂ブロックを多く含む。周溝覆土。
11	7.5YR3/4	暗褐	径5～50mm程度の白色砂ブロックを多く含む。径5～10mm程度の焼土ブロック・炭化物を少し含む。 周溝覆土。
12	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物を多く含む。径1～5mm程度のローム粒を少し含む。 径5～10mm程度のロームブロックを少し含む。
13	7.5YR3/4	暗褐	径1～5mm程度のローム粒を多く含む。径5～30mm程度のロームブロックを多く含む。
14	7.5YR4/3	褐	径1～5mm程度のローム粒を多く含む。径5～50mm程度のロームブロックを極めて多く含む。
15	7.5YR3/4	暗褐	径5～50mm程度のロームブロックを極めて多く含む。
16	7.5YR4/4	褐	径5～100mm程度のロームブロックを極めて多く含む。

7号住居カマド

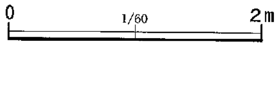
1	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を極めて多く含む。
2	10YR5/6	黄褐	白色砂層。径5～20mm程度の焼土ブロックを多く含む。カマド天井部崩落土。
3	7.5YR3/1	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。
4	10YR5/6	黄褐	白色砂層。カマド袖。
5	7.5YR3/4	暗褐	径5～10mm程度の焼土ブロックを少し含む。径5～50mm程度の白色砂ブロックを多く含む。カマド袖。
6	10YR5/6	黄褐	白色砂層。径5～50mm程度のロームブロックを多く含む。カマド袖基部。
7	7.5YR3/4	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を極めて多く含む。
8	7.5YR3/2	黒褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。
9	7.5YR2/1	黒	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を少し含む。
10	7.5YR3/3	暗褐	焼土層(2.5YR4/8赤褐)と炭化物層(10YR2/1黒)が交互に堆積。
11	7.5YR3/3	暗褐	径1～5mm程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を極めて多く含む。
12	10YR5/8	黄褐	白色砂層。カマド天井部。
13	2.5YR4/8	赤褐	焼土層。火床面。

第17図　７号住居跡及び遺物実測図

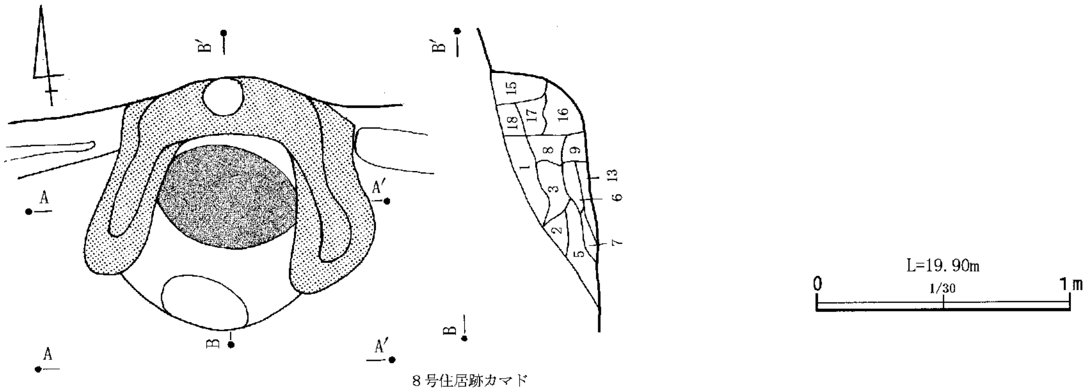


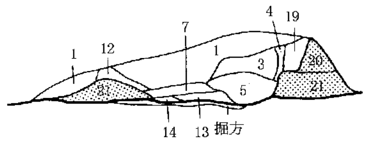


8号住居跡
1 7.5YR3/1 黒褐 径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物を多く含む。径1～5㎜程度のローム粒を少し含む。
2 7.5YR3/2 黒褐 径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物を少し含む。径1～5㎜程度のローム粒を多く含む。径5～10㎜程度のロームブロックを少し含む。
3 7.5YR3/3 暗褐 径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物を少し含む。径1～5㎜程度のローム粒を多く含む。径5～30㎜程度のロームブロックを多く含む。
4 7.5YR3/1 黒褐 径1～5㎜程度のローム粒を少し含む。径5～20㎜程度のロームブロックを少し含む。
5 7.5YR3/4 暗褐 径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を少し含む。
6 7.5YR3/1 黒褐 径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物を少し含む。径1～5㎜程度のローム粒を多く含む。
7 7.5YR3/2 黒褐 径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を少し含む。径5～10㎜程度のロームブロックを少し含む。
8 7.5YR3/4 暗褐 径5～20㎜程度のロームブロックを少し含む。周溝覆土。
9 7.5YR3/2 黒褐 径1～5㎜程度のローム粒を多く含む。P4覆土。
10 7.5YR3/1 黒褐 イボキサゴ主体の貝層。二枚貝(破砕)。シオフキ・ハマグリ・アサリ・カガミガイ。
11 7.5YR3/1 黒褐 イボキサゴ主体の貝層。二枚貝(ブロック状)。ハマグリ・シオフキ・アサリ・カガミガイ。
12 7.5YR3/1 黒褐 イボキサゴ主体(大き目)の貝層。ハマグリ・シオフキ・アサリ・カガミガイ。
13 7.5YR3/2 黒褐 径1～5㎜程度のローム粒を少し含む。
14 7.5YR3/3 暗褐 径5～10㎜程度のロームブロックを少し含む。
15 7.5YR3/4 暗褐 径5～30㎜程度のロームブロックを多く含む。
16 7.5YR3/3 暗褐 径1～5㎜程度のローム粒を少し含む。
17 7.5YR3/2 黒褐 径1～5㎜程度のローム粒を少し含む。
18 7.5YR3/3 暗褐 径5～20㎜程度のロームブロックを多く含む。
19 7.5YR3/2 黒褐 径1～5㎜程度のローム粒を微かに含む。
20 7.5YR3/2 黒褐 径1～5㎜程度のローム粒を少し含む。径5～10㎜程度のロームブロックを少し含む。
21 7.5YR3/3 暗褐 径1～5㎜程度のローム粒を少し含む。径5～10㎜程度のロームブロックを少し含む。



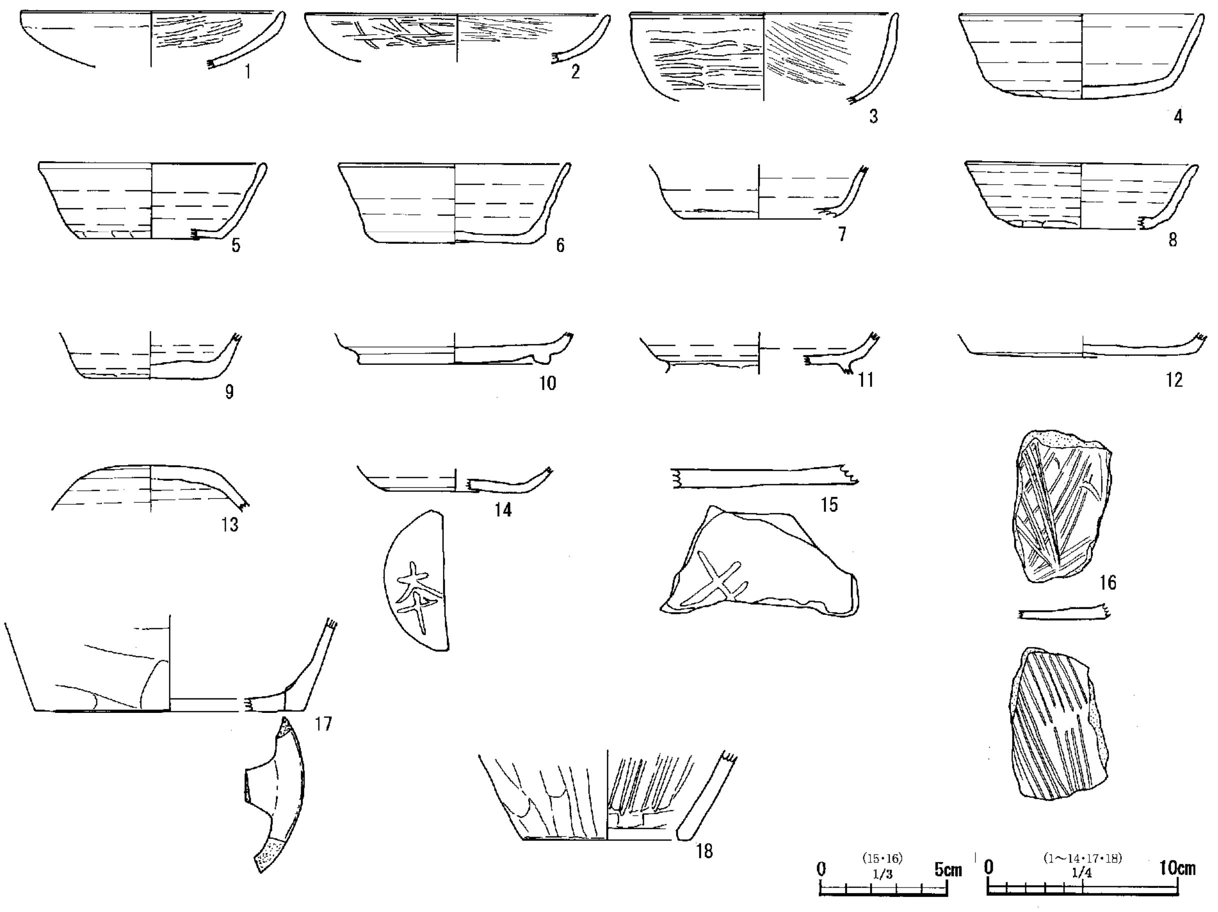
第18図　８号住居跡実測図





8号住居跡カマド

1	7.5YR3/3	暗褐	径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。
2	7.5YR3/4	暗褐	径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を少し含む。
3	10YR5/6	黄褐	白色砂層(カマド天井部崩落土)を所々に含む。径5～10㎜程度の焼土ブロック・炭化物を多く含む。
4	10YR3/4	暗褐	径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を極めて多く含む。
5	10YR3/2	黒褐	径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。径5～20㎜程度の焼土ブロック・炭化物を極めて多く含む。
6	10YR3/1	黒褐	径5～20㎜程度の焼土ブロック・炭化物を極めて多く含む。
7	7.5YR3/2	黒褐	径5～20㎜程度の焼土ブロック・炭化物を極めて多く含む。所々に灰層(10YR7/1灰白)が混じっている。
8	10YR5/6	黄褐	白色砂層(カマド天井部崩落土)を所々に含む。3層よりも焼土ブロック・炭化物が大きい(径5～40㎜)。
9	7.5YR3/1	黒褐	径5～40㎜程度の焼土ブロック・炭化物を極めて多く含む。
10	7.5YR3/3	暗褐	径5～10㎜程度のロームブロックを少し含む。
11	10YR7/1	灰白	灰層。所々に焼土層(2.5YR4/8赤褐)を含む。
12	7.5YR3/2	黒褐	径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物を極めて多く含む。
13	7.5YR3/3	暗褐	径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を少し含む。煙道部。
14	7.5YR3/1	黒褐	径5～40㎜程度の焼土ブロック・炭化物を極めて多く含む。9層とほぼ同じ。煙道部。
15	7.5YR3/3	暗褐	径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物・白色砂粒を多く含む。煙道部。
16	7.5YR3/4	暗褐	径1～5㎜程度の白色砂粒を極めて多く含む。径1～5㎜程度の焼土粒・炭化物を少し含む。カマド天井部。
17	2.5YR4/8	赤褐	焼土層。所々に白色砂層(10YR5/8黄褐)を含む。
18	10YR5/8	黄褐	径5～10㎜程度の炭化物を少し含む。カマド袖。
19	7.5YR3/4	暗褐	径5～20㎜程度の白色砂ブロックを多く含む。カマド袖基部。



第19図　8号住居跡及び遺物実測図

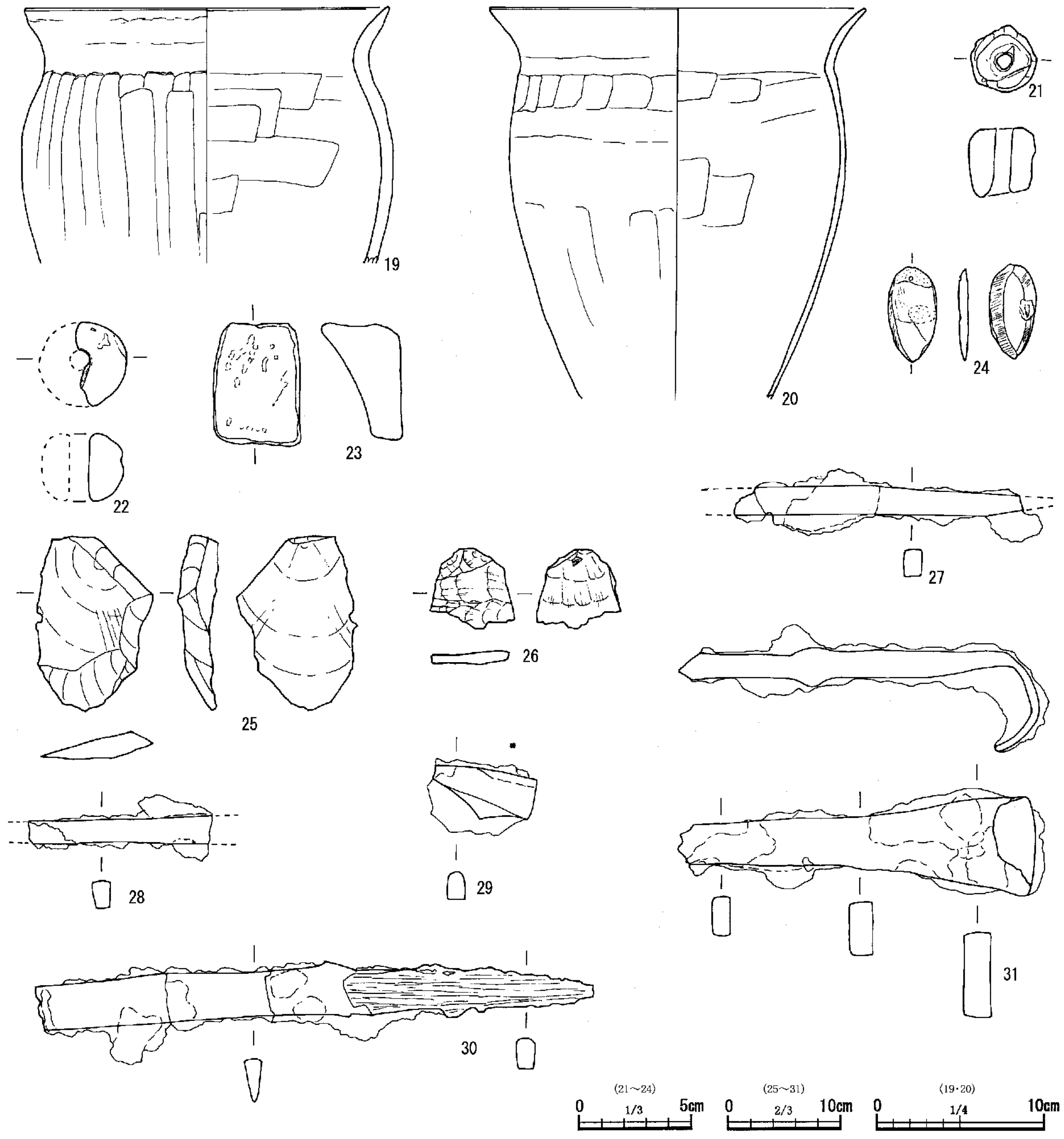
第13表　遺物観察表11（土器⑦）

※　法量（　）は推定復元値

図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	色調	整形・調整技法	備考
第19図	1	８号住居跡	奈良時代	坏	土師	口径　(14.0) 残存高　3.0	2.5YR5/6　明赤褐	ロクロ整形　ヨコナデ　ケズリ ミガキ	外面剥離 胎土異質 (白色針状物質)
	2	８号住居跡	奈良時代	坏	土師	口径　(16.0) 残存高　2.5	5YR5/3　にぶい赤褐	ロクロ整形　ケズリ後ミガキ ケズリの稜線上にミガキ痕 ミガキ	胎土異質
	3	８号住居跡	奈良時代	坏	土師	口径　(14.0) 残存高　4.7	5YR5/5　明赤褐	ロクロ整形　ケズリ後ミガキ ケズリの稜線上にミガキ痕 ヨコナデ　ミガキ	胎土異質
	4	８号住居跡	奈良時代	坏	土師	口径　(13.0) 底径　9.0 器高　4.5	2.5YR5/4　にぶい赤褐	ロクロ整形 切り離し不明後手持ちヘラケズリ	口径/底径比率（1.44） 胎土異質(黒色粒多量)
	5	８号住居跡	奈良時代	坏	須恵器	口径　(12.0) 底径　(7.4) 器高　4.0	10YR5/4　にぶい黄褐 2.5Y3/2　黒褐	ロクロ整形 切り離し不明後手持ちヘラケズリ	口径/底径比率（1.62）
	6	８号住居跡	奈良時代	坏	土師	口径　(12.2) 底径　8.0 器高　4.1	10YR5/3　にぶい黄褐 10YR2/1　黒	ロクロ整形 切り離し不明後回転ヘラケズリ	口径/底径比率（1.53）
	7	８号住居跡	奈良時代	坏	須恵器	底径　(8.0) 残存高　2.5	5Y5/1　灰	ロクロ整形 切り離し不明後手持ちヘラケズリ	
	8	８号住居跡	奈良時代	坏	須恵器	口径　(12.2) 底径　(7.4) 器高　3.4	2.5YR5/2　灰赤	ロクロ整形 切り離し不明後手持ちヘラケズリ	口径/底径比率（1.65） 常陸産（雲母多量）
	9	８号住居跡	奈良時代	坏	須恵器	底径　(6.0) 残存高　2.3	2.5YR6/2　灰赤	ロクロ整形 切り離し不明後手持ちヘラケズリ	常陸産（雲母少量）
	10	８号住居跡	奈良時代	高台付坏	須恵器	底径　(10.0) 残存高　1.7	5Y5/1　灰	ロクロ整形　ヨコナデ 回転糸切り後回転ヘラケズリ 後貼付高台	永田・不入産
	11	８号住居跡	奈良時代	高台付坏	須恵器	底径　(9.8) 残存高　2.0	7.5YR6/1　褐灰	ロクロ整形 切り離し不明後回転ヘラケズリ 後貼付高台	永田・不入産
	12	８号住居跡	奈良時代	鉢	土師	底径　(10.0) 残存高　1.2	7.5YR6/2　灰褐 7.5YR2/1　黒	ナデ ナデ	赤色粒少量
	13	８号住居跡	古墳時代 後期	蓋	須恵器	残存高　2.4	5R7/1　明赤灰	ロクロ整形 ケズリ後ナデ　回転ヘラケズリ	内面器面剥離 東海産
	14	８号住居跡	奈良時代	坏	土師	底径　(7.6) 残存高　1.3	7.5YR3/1　黒褐	ロクロ整形 回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ	朱書「本」 内外面黒色物付着
	15	８号住居跡	奈良時代	甕 底部	土師		7.5YR2/1　黒	ロクロ整形 手持ちヘラケズリ	朱書「□」 内外面黒色物付着
	16	８号住居跡	奈良時代	坏 底部	土師		10R4/6　赤	内外面ミガキ（暗文）	内外面赤彩 畿内系土師器
	17	８号住居跡	平安時代	甑	土師	底径　(14.0) 残存高　4.7	2.5YR3/2　暗赤褐	ケズリ ナデ	内外面黒色物付着
	18	８号住居跡	奈良時代	甑	土師	底径　(9.0) 残存高　4.5	2.5YR5/4　にぶい赤褐	ケズリ ケズリ　工具によるナデ後ミガキ	
第20図	19	８号住居跡	奈良時代	甕	土師	口径　21.6 胴部最大径　(22.0) 残存高　15.4	5YR6/3　にぶい橙 5YR1.7/1　黒	ヨコナデ後ナデ・ヘラケズリ ヨコナデ　工具によるナデ	
	20	８号住居跡	奈良時代	甕	土師	口径　(22.2) 残存高　23.3	5YR6/6　橙	ヨコナデ　横・縦方向ヘラケズリ ヨコナデ　工具によるナデ	外面黒色物付着 輪積痕

第14表　遺物観察表12（土器以外⑤）

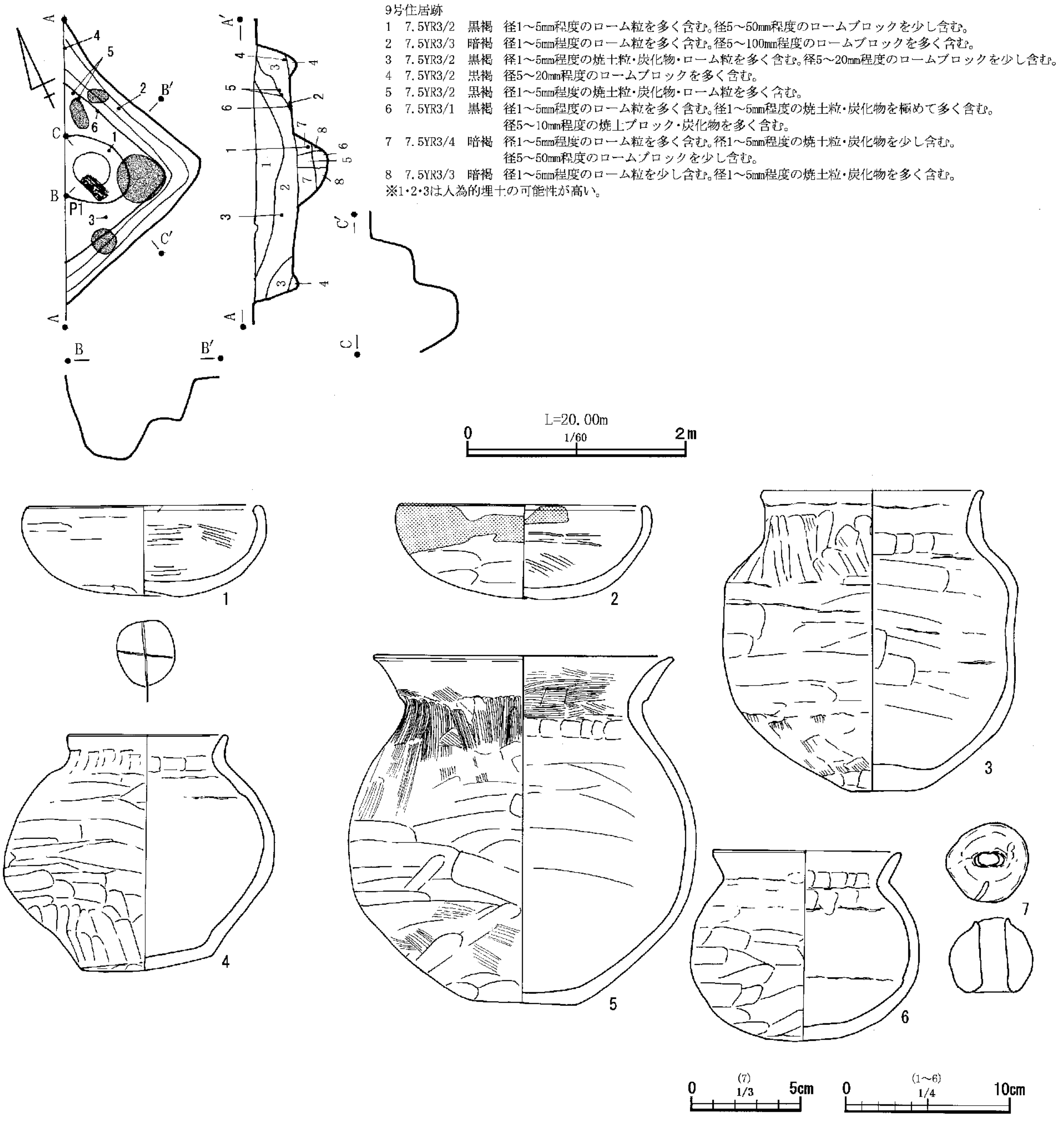
図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	重量(g)	備考
第20図	21	８号住居跡	奈良・平安時代	管状土錘	土製	縦径　3.1　孔径　0.7 横径　3.0　高さ　3.1	26.1	作り方は球状土錘 と同じ（手ずくね）
	22	８号住居跡	古墳時代 混入品か？	球状土錘	土製	縦径　3.9　孔径　0.9 横径　3.7　高さ　3.0	19.0	
	23	８号住居跡	奈良・平安時代	砥石	凝灰岩製	残存長　5.5 幅　3.8　厚さ　3.5	75.9	両面に研磨面
	24	８号住居跡	古墳時代 混入品か？	滑石製模造品 （剣）	滑石製	長さ　4.1　孔径　0.2 幅　2.1　厚さ　3.5	5.2	両面に研磨面
	25	８号住居跡	縄文時代？	剥片	凝灰岩製	長さ　3.9 幅　2.6　厚さ　0.9	6.8	
	26	８号住居跡	縄文時代？	剥片	チャート製	長さ　2.0 幅　1.9　厚さ　0.3	1.0	
	27	８号住居跡	奈良・平安時代	不明鉄製品	鉄製	長さ　6.8 幅　1.5　厚さ　0.4	8.4	
	28	８号住居跡	奈良・平安時代	不明鉄製品	鉄製	長さ　4.1 幅　0.6　厚さ　0.4	3.7	
	29	８号住居跡	奈良・平安時代	不明鉄製品	鉄製	長さ　2.3 幅　1.1　厚さ　0.4	3.0	
	30	８号住居跡	奈良・平安時代	刀子	鉄製	長さ　12.5 幅　1.2　厚さ　0.4	16.0	木製の柄が残存
	31	８号住居跡	奈良・平安時代	刀子	鉄製	長さ　8.0 幅　2.3　厚さ　0.6	28.9	



第20図　８号住居跡遺物実測図

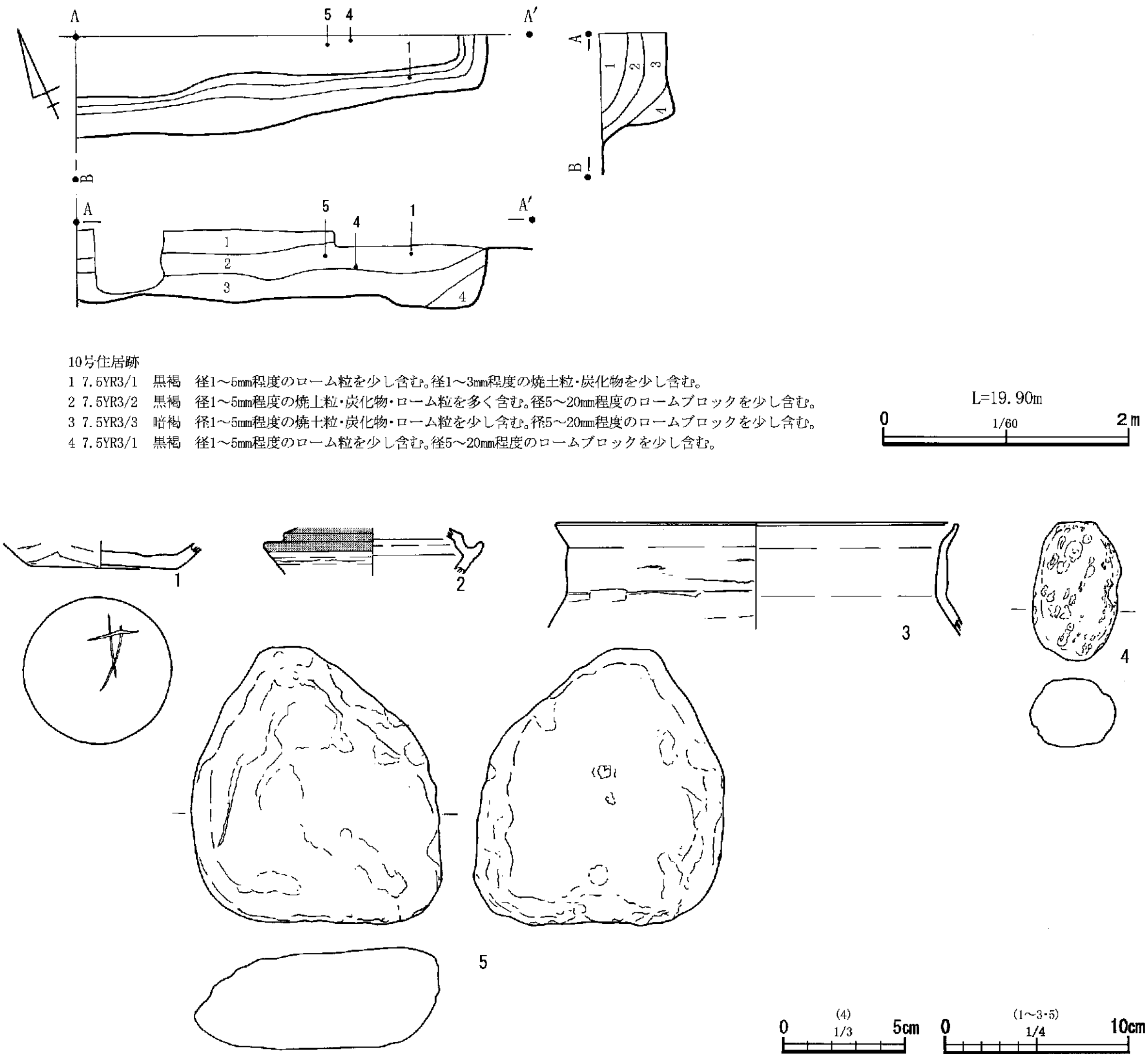
８号住居跡（第18・19・20図）

調査区北側の台地平坦面に位置する。主軸方位はＮ－1°－Ｅで、規模は主軸長4.15×横軸長4.33ｍである。北西側は調査区外だが、周溝と旧周溝はカマド部分を除いてほぼ全周していたと推測される。残存壁高は50～55㎝でやや斜めに立ち上がる。柱穴４本と第５ピットが検出された。カマドの遺存状況が良く、煙道部が残存していた。貼床下から旧周溝が検出され、拡張が行われた形跡が認められた。イボキサゴ主体の住居内貝層が検出され、その下からウマの骨がまとまって出土した。住居跡が埋没する過程で一度掘り窪められ、その中に北西方向から貝層が廃棄されていた。ウマの骨は床面直上より出土し、上部に貝層が堆積していたため、遺存状況が良好であった。



第21図　９号住居跡及び遺物実測図

遺物量は多く、土師器の杯（１～４・６・14）・鉢（12）・甕（15・19・20）・甑（17・18）、須恵器の杯（５・７・８）、常陸産須恵器の坏（９）、永田・不入産須恵器の高台付坏（10・11）、畿内系土師器の杯（16）、管状土錘（21）、凝灰岩製の砥石（23）、不明鉄製品（27～29）、鉄製の刀子（30・31）が出土している。文字資料としては、土師器の坏の底部に書かれた朱書「本」（14）と土師器の甕の底部に書かれた朱書「□」（15）がある。坏の口径／底径比率の平均値は1.56で、調整技法は手持ちヘラケズリ５個体、回転ヘラケズリ２個体である。古墳時代の遺物の混入品と考えられるが、球状土錘（22）、滑石製模造品（剣）（24）が出土した。他に古墳時代後期の須恵器の蓋（13）が出土しており、伝世品の可能性も考えられる。



第22図　10号住居跡及び遺物実測図

９号住居跡（第21図）

調査区北側の台地平坦面に位置する。主軸方位・規模は不明である。調査できたのは南東隅部分のみだが、調査した部分の周溝は全周している。残存壁高は30～35cmで垂直気味に立ち上がる。柱穴は１本で、床面に焼土・炭化材が堆積していた。遺物が床面付近より集中して出土している。

遺物量は多く、土師器の坏（１・２）・壺（３～６）、球状土錘（７）が出土している。

10号住居跡（第22図）

調査区北側の台地平坦面に位置する。主軸方位は不明で、規模は主軸長3.32である。北側の大部分が調査区外だが、調査した部分の周溝は全周している。残存壁高は55～60cmでやや斜めに立ち上がる。

遺物量は少なかったが、土師器の甕（１・３）の他、東海産灰釉陶器の円面硯（２）、軽石製品（浮子）（４）、泥岩製の台石（５）が出土した。文字資料としては、土師器の甕の底部に刻まれた刻書「□」（１）がある。

第15表　遺物観察表13（土器⑧）　　　　　　　　　　　　　※　法量（　）は推定復元値

図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	色調	整形・調整技法	備考
第21図	1	９号住居跡	古墳時代中期	坏	土師	口径 14.0 底径 3.8 器高 5.5	N1.5/ 黒 5YR4/4 にぶい赤褐	ヨコナデ後ミガキ ヘラナデ･ヘラケズリ後ミガキ ケズリ・ミガキ単位不明	内外面黒斑 底面に線刻
	2	９号住居跡	古墳時代中期	坏	土師	口径 15.2 底径 2.3 器高 5.8	N1.5/ 黒 2.5YR4/4 にぶい赤褐	ヨコナデ後ミガキ ヘラナデ･ヘラケズリ後ミガキ ケズリ・ミガキ単位不明	内外面黒斑 丸底
	3	９号住居跡	古墳時代中期	壺	土師	口径 13.6 胴部最大径 18.0 底径 4.2 器高 18.3	7.5YR4/4 褐 2.5YR2/1 赤黒	ヨコナデ　櫛目状のナデ後ナデ ケズリ後ナデ ヨコナデ　工具によるナデ ハケメ部分的に残る（内面も）	輪積痕 黒色物付着
	4	９号住居跡	古墳時代中期	壺	土師	口径 9.6 胴部最大径 16.5 底径 8.2 器高 14.4	10R4/4 赤褐 N2/ 黒	ヨコナデ ヘラケズリ後ミガキに近いナデ ヨコナデ　工具によるナデ	輪積痕 黒色物付着
	5	９号住居跡	古墳時代中期	壺	土師	口径 18.2 胴部最大径 21.2 底径 6.2 器高 21.4	7.5GY2/1 緑黒 2.5YR3/6 暗赤褐	ヨコナデ ハケメ後ヘラケズリ後ミガキ ハケメ後ミガキ　工具によるナデ ハケメ部分的に残る	内外面黒色物付着
	6	９号住居跡	古墳時代中期	壺	土師	口径 11.6 胴部最大径 14.0 底径 4.8 器高 11.5	2.5YR4/4 にぶい赤褐 7.5Y3/1 オリーブ黒	ヨコナデ ヘラナデ　ケズリ後ナデ ヨコナデ　工具によるナデ	輪積痕 黒色物付着 丸底
第22図	1	10号住居跡	平安時代	甕	土師	底径 8.0 残存高 1.2	7.5YR4/1 褐灰	ロクロ整形　ヘラケズリ	底面に刻書「□」
	2	10号住居跡	平安時代	円面硯	灰釉陶器	最大径 (12.0) 残存高 2.5	10Y4/2 オリーブ灰 7.5Y6/2 灰オリーブ	ロクロ整形	東海産
	3	10号住居跡	平安時代	甕	土師	口径 (22.0) 残存高 5.5	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナデ　ナデ　ケズリ ヨコナデ　ナデ	輪積痕

第16表　遺物観察表14（土器以外⑥）

図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）		重量（g）	備考
第21図	7	９号住居跡	古墳時代	球状土錘	土製	縦径 3.6 横径 3.8	孔径 1.2×6 高さ 3.4	38.7	孔を２回あけている
第22図	4	10号住居跡	古墳～奈良・平安時代	軽石製品（浮子）	軽石製	長さ 5.6 幅 3.5	厚さ 2.8	18.1	
	5	10号住居跡	古墳～奈良・平安時代	台石	泥岩製	長さ 15.1 幅 13.6	厚さ 5.2	1502.7	

２　掘立柱建物跡と出土遺物（第23図）

１号掘立柱建物跡

調査区北東側の台地平坦面に位置する。主軸方位はＮ－38°－Ｅで、規模・形状は桁行２間×梁行１間（4.90×2.34m）の側柱建物である。南北の柱間寸法は約1.5～2.6m、東西の柱間寸法は約1.9～2.1mで、各柱穴は径約35～45㎝、深さ約15～20㎝を測る。

遺物は出土しなかった。

２号掘立柱建物跡

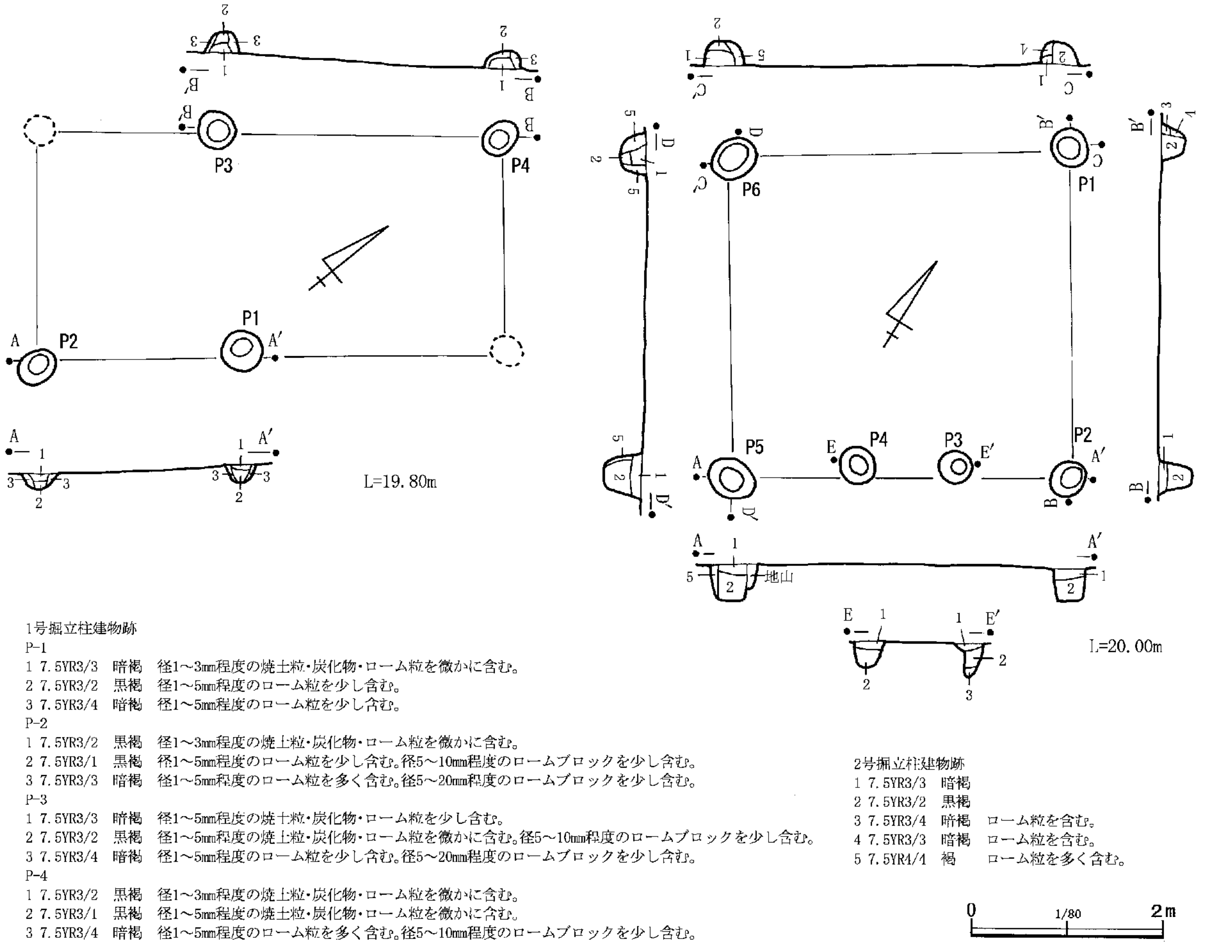
調査区北側の台地平坦面に位置する。主軸方位はＮ－58°－Ｅで、規模・形状は桁行３間×梁行１間（3.58×3.42m）の側柱建物である。南北の柱間寸法は約2.9～3.1m、東西の柱間寸法は約0.7～3.1mで、各柱穴は径約35～50㎝、深さ約25～40㎝を測る。

柱穴（Ｐ１）から土師器の小破片が出土しているが、時期決定の材料となる遺物はなかった。

３　道路跡・溝状遺構と出土遺物（第24・25図）

１号道路跡

調査区南西側の台地緩斜面に位置する。主軸方位はＮ－24°－Ｗで、東側と西側の２条の側溝で構成されている。規模は、調査部分の長さ約17.4m、側溝最大深度0.35m、側溝外幅4.9m、側溝最大幅



第23図　１・２号掘立柱建物跡実測図

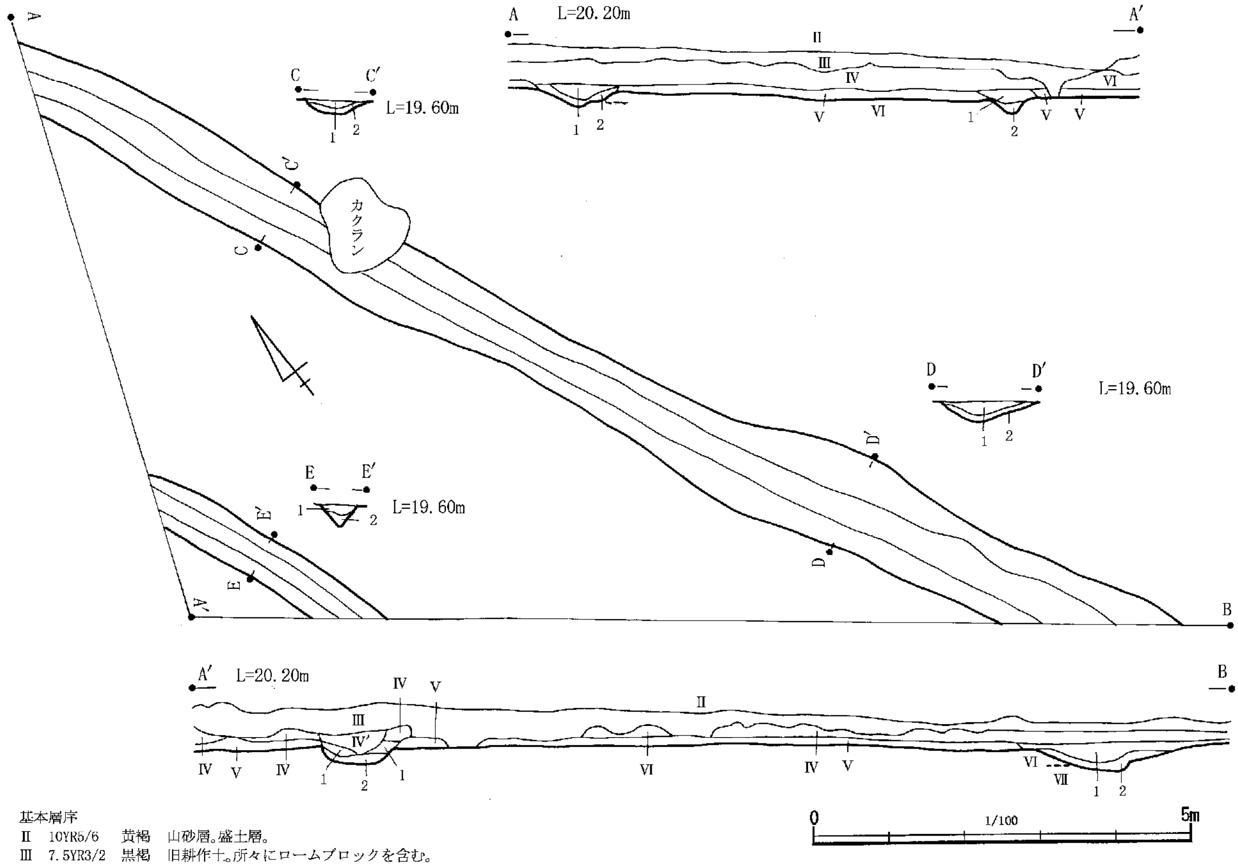
（東）1.3m、側溝最大幅（西）0.6mである。古墳～奈良・平安時代の遺物包含層（Ⅳ層）が漸移層（Ⅴ層）の上に直接堆積しており、縄文時代の堆積層（暗褐色土）が間に存在していない。緩斜面とはいえ、古墳～奈良・平安時代において縄文時代堆積層が自然的な要因で流出したとは考えにくく、１号道路跡の構築あるいは維持･管理に関連して、何らかの人為的な要因で取り除かれたと推測される。なお、縄文時代堆積層（暗褐色土）は千葉市内の基本層序として存在しており、大森第１遺跡周辺でも確認されている。

遺物は土師器の坏（１・２）・甕（４）、内黒土師器の高台付坏または碗（３）、鉄滓（６・７）、炉体の一部（８）、不明鉄製品（５）が出土している。

１号溝状遺構

３Ｄ・４Ｄ・５Ｃ・５Ｄグリッド、台地平坦面から台地緩斜面にかけて、調査区東側を南北に横切る形で検出された。規模は、調査部分の長さ約22.5m、最大深度0.3m、最大幅0.6mである。重複関係があり、４号住居跡より新しく、２号溝状遺構より古い。

遺物は土師器の甕または壺（１）、不明鉄製品（２･３）が出土している。確認調査の４Ｄ－ａトレンチで平安時代の須恵器がまとまって出土しており、１号溝状遺構出土と考えられる。このため、時期は平安時代と推測される。

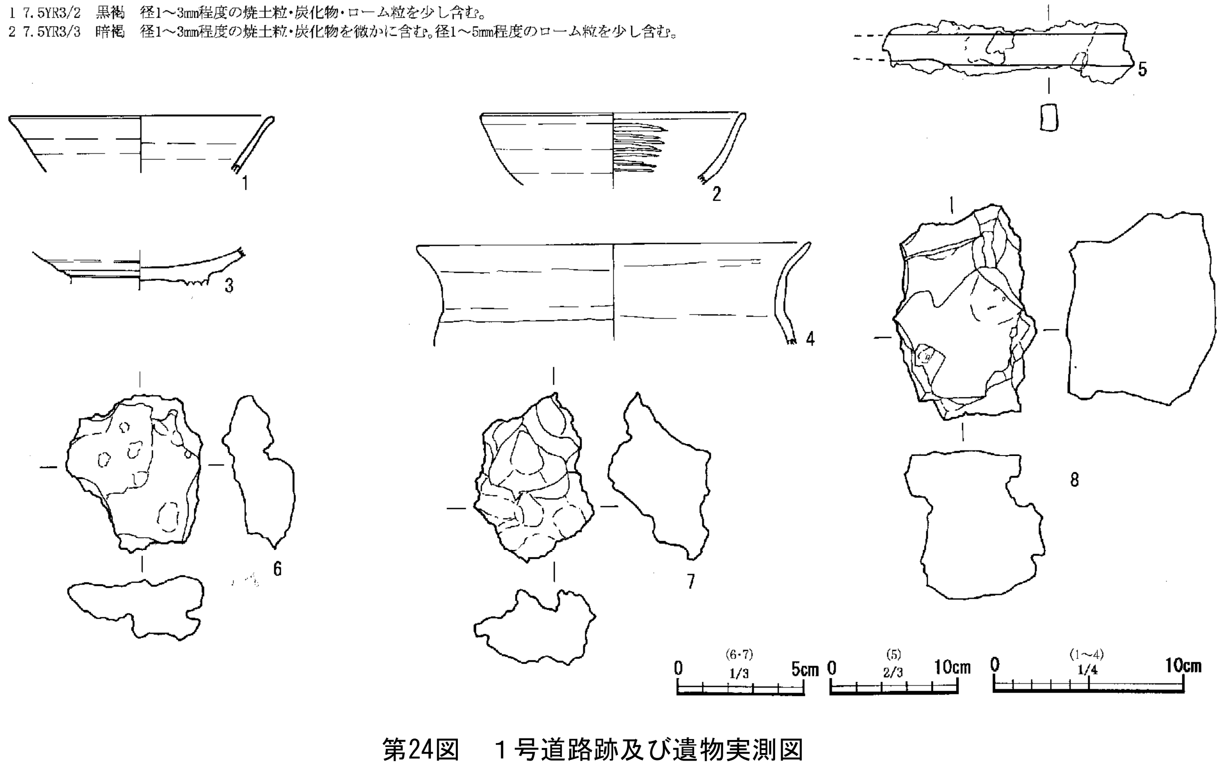


基本層序

Ⅱ	10YR5/6	黄褐	山砂層。盛土層。
Ⅲ	7.5YR3/2	黒褐	旧耕作土。所々にロームブロックを含む。
Ⅳ	7.5YR3/3	暗褐	遺物包含層(遺構確認面)。 径1～5mm程度のローム粒を少し含む。径1～3mm程度の焼土粒・炭化物を微かに含む。
Ⅳ′	7.5YR3/4	暗褐	基本的にはⅣ層と同じだが、色調がうすく砂質を帯びる。
Ⅴ	7.5YR4/3	褐	漸移層。
Ⅵ	7.5YR4/4	褐	ソフトローム層。
Ⅶ	7.5YR4/6	褐	ハードローム層。

1号道路跡

1	7.5YR3/2	黒褐	径1～3mm程度の焼土粒・炭化物・ローム粒を少し含む。
2	7.5YR3/3	暗褐	径1～3mm程度の焼土粒・炭化物を微かに含む。径1～5mm程度のローム粒を少し含む。

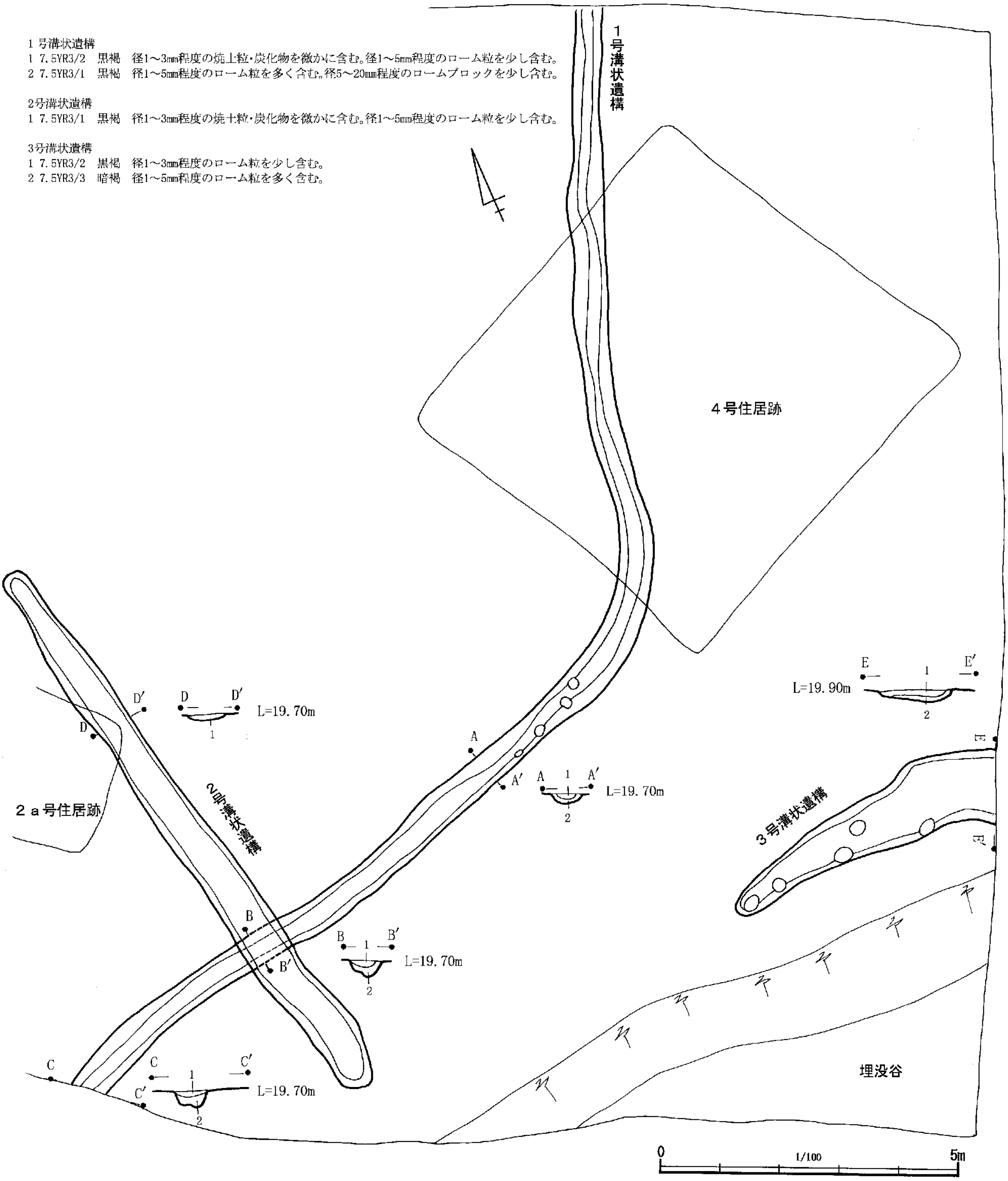


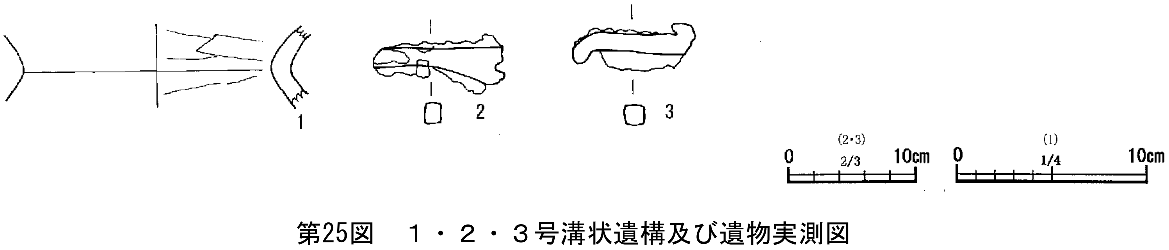
第24図　1号道路跡及び遺物実測図

1号溝状遺構
1 7.5YR3/2 黒褐 径1～3㎜程度の焼土粒・炭化物を微かに含む。径1～5㎜程度のローム粒を少し含む。
2 7.5YR3/1 黒褐 径1～5㎜程度のローム粒を多く含む。径5～20㎜程度のロームブロックを少し含む。

2号溝状遺構
1 7.5YR3/1 黒褐 径1～3㎜程度の焼土粒・炭化物を微かに含む。径1～5㎜程度のローム粒を少し含む。

3号溝状遺構
1 7.5YR3/2 黒褐 径1～3㎜程度のローム粒を少し含む。
2 7.5YR3/3 暗褐 径1～5㎜程度のローム粒を多く含む。





第25図 1・2・3号溝状遺構及び遺物実測図

第17表　遺物観察表15（土器⑨）　　　　　　　　　　　※　法量（　）は推定復元値

図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	色調	整形・調整技法	備考
第24図	1	1号道路跡	平安時代	坏	土師	口径　(14.0) 残存高　3.0	10Y3/1　オリーブ黒	ロクロ整形	
	2	1号道路跡	奈良時代	坏	土師	口径　(14.0) 残存高　3.8	7.5YR6/4　にぶい橙 7.5YR4/1　褐灰	ロクロ整形 ミガキ	
	3	1号道路跡	平安時代	高台付坏または碗	土師	残存高　1.8	7.5YR6/3　にぶい褐 10Y3/1　オリーブ黒	ロクロ整形　ミガキ　ナデ 切り離し不明後貼付高台	内黒
	4	1号道路跡	奈良時代	甕	土師	口径　(20.8) 残存高　5.3	7.5YR6/6　橙	ヨコナデ　ケズリ ヨコナデ　工具によるナデ	
第25図	1	1号溝状遺構	奈良時代	甕または壺	土師	頚部径　(14.0) 残存高　3.5	2.5YR5/6　明赤褐	ヨコナデ ヨコナデ　工具によるナデ	

第18表　遺物観察表16（土器以外⑦）

図版No.	No.	遺構名	時期	器種	材質	法量（cm）	重量（g）	備考
第24図	5	1号道路跡	奈良・平安時代	不明鉄製品	鉄製	長さ　5.0 幅　0.6　厚さ　0.3	5.9	
	6	1号道路跡	奈良・平安時代	鉄滓	鉄製	長さ　6.2 幅　5.5　厚さ　2.9	111.2	
	7	1号道路跡	奈良・平安時代	鉄滓	鉄製	長さ　6.6 幅　4.8　厚さ　4.0	136.0	
	8	1号道路跡	奈良・平安時代	炉体	鉄製	長さ　8.5 幅　5.6　厚さ　6.1	418.4	
第25図	2	1号溝状遺構	奈良・平安時代	不明鉄製品	鉄製	長さ　2.7 幅　0.7　厚さ　0.3	2.0	
	3	1号溝状遺構	奈良・平安時代	不明鉄製品	鉄製	長さ　3.0 幅　0.6　厚さ　0.4	1.5	

２号溝状遺構

４Ｃ・５Ｃグリッドにかけて、台地緩斜面から埋没谷に向かう形で検出された。規模は、総延長約10.4m、最大深度0.1m、最大幅0.8mである。重複関係があり、２ａ号住居跡と１号溝状遺構より新しい。

土師器・須恵器の小破片が出土しているが、時期決定の材料となる遺物はなかった。

３号溝状遺構

５Ｄグリッドから調査区外にかけて、埋没谷に並行する形で検出された。規模は、調査部分の長さ約5.1m、最大深度0.2m、最大幅1.2mである。

土師器・須恵器の小破片が出土しているが、時期決定の材料となる遺物はなかった。

＜参考文献＞

千葉県教育委員会　1999　『千葉県埋蔵文化財分布地図（3）－千葉市・市原市・長生地区（改訂版）－』

千葉県都市公社　1973　「大森第１遺跡」『京葉』

（財）千葉県文化財センター　1984　「大森第１遺跡」『千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』

（財）千葉市文化財調査協会　1996　『千葉市染谷津遺跡・大森第１遺跡』

千葉市教育委員会　2002　「２．大森第１遺跡」『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－平成13年度－』

千葉市教育委員会　2009　「２．大森第１遺跡」『埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書－平成20年度－』

（財）千葉市教育振興財団　2009　「２．大森第１遺跡」『平成20年度千葉市遺跡発表会要旨』

第３章　８号住居跡出土の動物遺存体

１　資料と分析方法

所属時期は奈良時代（８世紀後半）と考えられる。住居内貝層の全量サンプリング（どのう袋40袋・約400ℓ）を実施し、ベルト以外のサンプル（20袋）については、４㎜の試験フルイを用いて選別を行った。一方、ベルト部分は、セクションの記録作業終了後に、層位にあわせてサンプルを採取した。ベルト北側部分の50×40㎝の範囲を集中サンプルとして設定し、厚さ－20㎝の貝層を－５㎝ごとに４つのサンプルを採取した。この№１～４のサンプルを４㎜・２㎜・１㎜・フローテーションで水洗選別を行い、分析データを作成した。かなりの量の微小貝を検出したが、魚骨は全く検出できなかった。№１は10層上面、№２は10層下面、№３は12層上面、№４は12層下面に相当している。

２　貝層分析

貝類組成

イボキサゴ・ウミニナ科・ツメタガイ・アカニシ・アラムシロの腹足綱５種、ハマグリ・アサリ・シオフキ・カガミガイ・オオノガイ・マガキ・オキシジミ・マテガイ・バカガイ・サルボウ・ナミマガシワの二枚貝綱11種、合計16種を検出した。イボキサゴが９割以上を占め、二枚貝はハマグリ・アサリ・シオフキが一定量を占める。若葉区うならすず遺跡や稲毛区定原遺跡と同様に、シオフキ・カガミガイ・マテガイが比較的多くみられ、千葉市内の古代の貝層の特徴を示している。オキシジミは所々に小さなブロック状の固まりで検出された。ウミニナは種の細別が難しいため、ウミニナ科としてまとめた。サンプル№４他で大型アカニシの破片が検出され、貝殻を打ち割って食用にしていたと考えられる。

なお、平成５年度の調査では、奈良時代（８世紀代）の二か所の斜面貝層が検出され、メガイアワビ・イボキサゴ・ダンベイキサゴ・スガイ・カワザンショウガイ・ウミニナ・ツメタガイ・アカニシ・バイ・アラムシロの腹足綱10種、ハマグリ・アサリ・シオフキ・カガミガイ・マガキ・オキシジミ・マテガイ・サルボウ・ムラサキガイの二枚貝綱９種、合計19種が検出されている。ウシの顎骨・上腕骨、シカの中手・中足骨などの獣骨と、南房総産と考えられるメガイアワビや九十九里産と考えられるダンベイキサゴが検出されたのが特徴的である。シカの中手・中足骨に関しては、骨角器製作における素材の可能性が考えられる。

また、観音塚遺跡、鷲谷津遺跡、中野台遺跡などの千葉寺遺跡群や周辺の遺跡には、古墳時代～奈良・平安時代にかけての貝層が多数存在し、古代における貝塚密集地となっている。分析資料も比較的多く存在し、それらとの比較検討も視野に入れて分析を行った。

殻長・殻高組成

二枚貝は層位ごとの差がなかったため、４つのサンプルをまとめたグラフを掲載した。一方、巻貝は層位ごとの違いがあるため、サンプルごとに分けたグラフを掲載した。

第19表　８号住居跡貝類集計表１

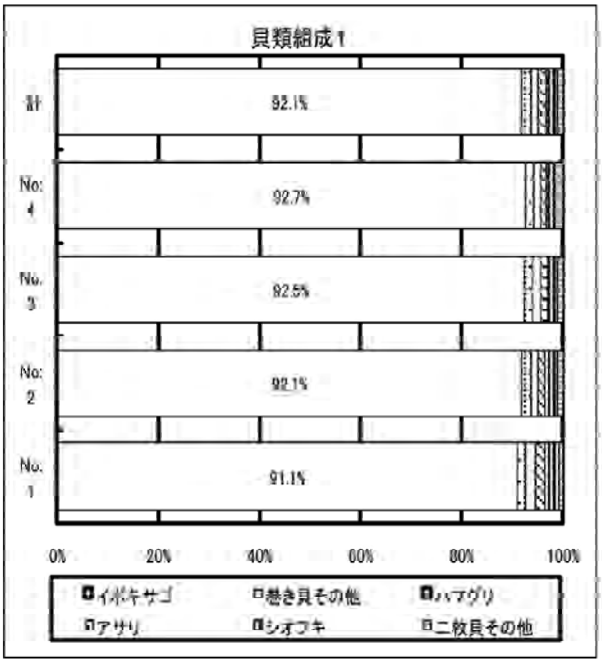
サンプルNo	No：1	No：2	No：3	No：4	計
イボキサゴ	2280	1712	2458	2121	8571
巻き貝その他	42	32	41	39	154
ハマグリ	46	25	47	30	148
アサリ	49	27	38	30	144
シオフキ	70	47	50	36	203
二枚貝その他	15	16	23	33	87
合計	2502	1859	2657	2289	9307

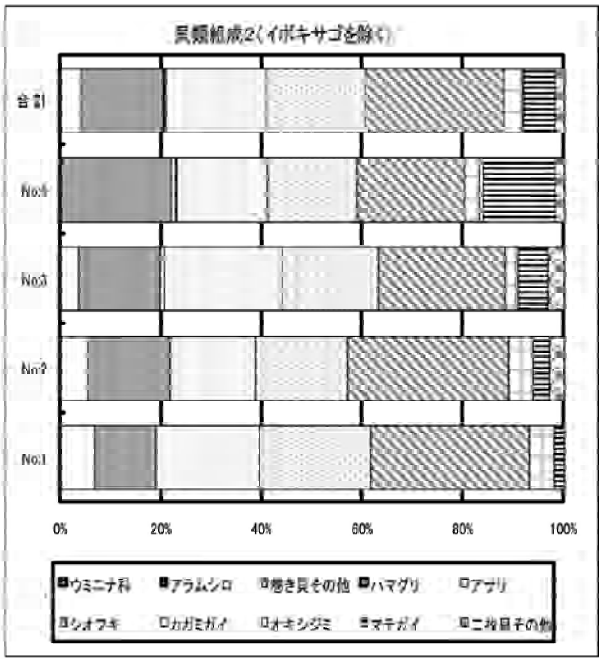
サンプルNo	No：1	No：2	No：3	No：4	計
イボキサゴ	91.1%	92.1%	92.5%	92.7%	92.1%
巻き貝その他	1.7%	1.7%	1.5%	1.7%	1.7%
ハマグリ	1.8%	1.3%	1.8%	1.3%	1.6%
アサリ	2.0%	1.5%	1.4%	1.3%	1.5%
シオフキ	2.8%	2.5%	1.9%	1.6%	2.2%
二枚貝その他	0.6%	0.9%	0.9%	1.4%	0.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

第20表　８号住居跡貝類集計表２（イボキサゴを除く）

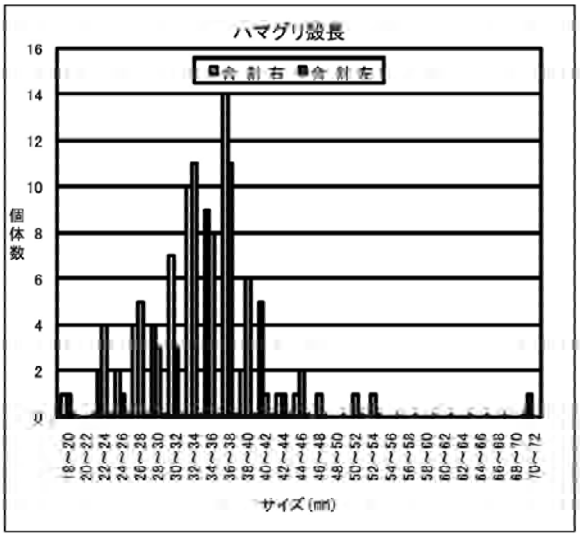
サンプルNo	No：1	No：2	No：3	No：4	計
ウミニナ科	15	8	7	0	30
アラムシロ	27	24	32	37	120
巻き貝その他	0	0	2	2	4
ハマグリ	46	25	47	30	148
アサリ	49	27	38	30	144
シオフキ	70	47	50	36	203
カガミガイ	11	7	4	5	27
オキシジミ	0	0	1	1	2
マテガイ	4	5	12	24	45
二枚貝その他	0	4	6	3	13
合　計	222	147	199	168	736

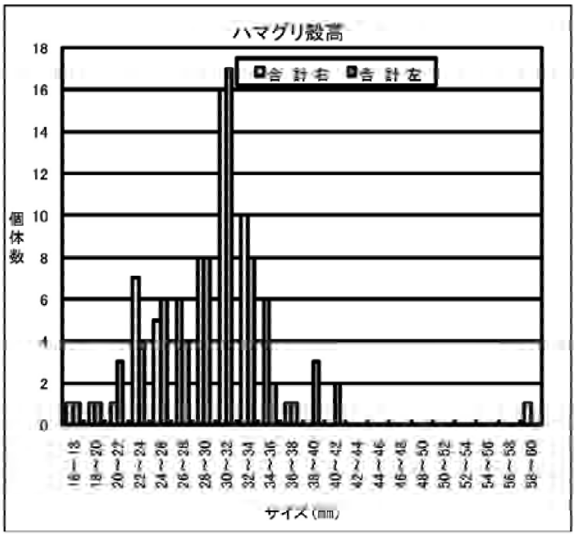
サンプルNo	No：1	No：2	No：3	No：4	計
ウミニナ科	6.8%	5.4%	3.5%	0.0%	4.1%
アラムシロ	12.2%	16.3%	16.1%	22.0%	16.3%
巻き貝その他	0.0%	0.0%	1.0%	1.2%	0.5%
ハマグリ	20.7%	17.0%	23.6%	17.9%	20.1%
アサリ	22.1%	18.4%	19.1%	17.9%	19.6%
シオフキ	31.5%	32.0%	25.1%	21.4%	27.6%
カガミガイ	5.0%	4.8%	2.0%	3.0%	3.7%
オキシジミ	0.0%	0.0%	0.5%	0.6%	0.3%
マテガイ	1.8%	3.4%	6.0%	14.3%	6.1%
二枚貝その他	0.0%	2.7%	3.0%	1.8%	1.8%
合　計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

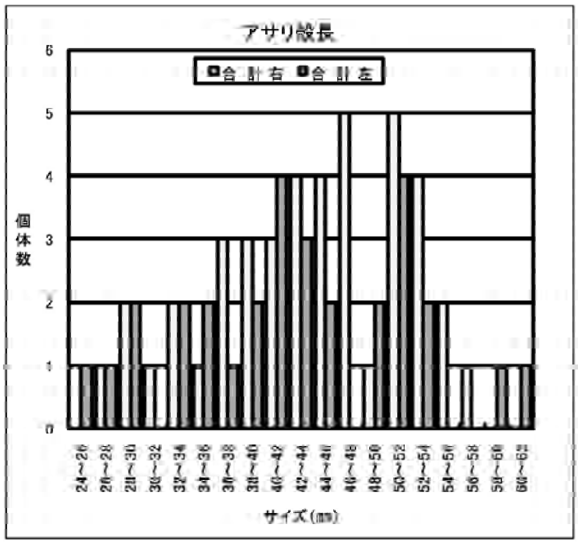


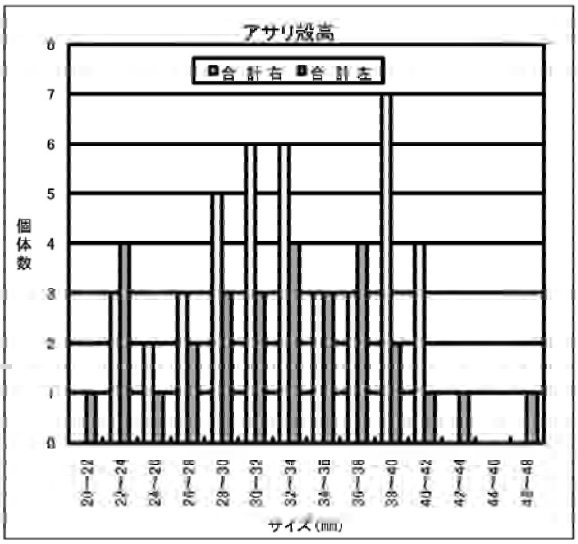


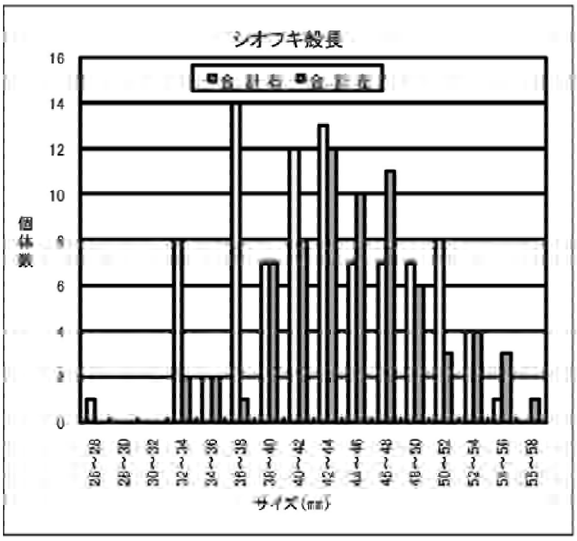
第26図　８号住居跡貝類組成図

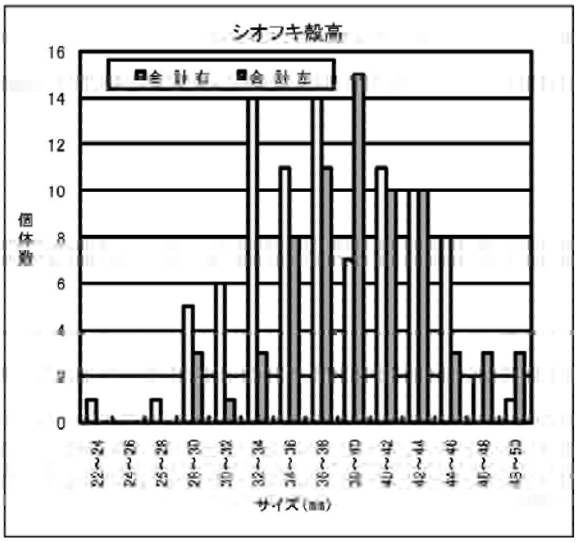




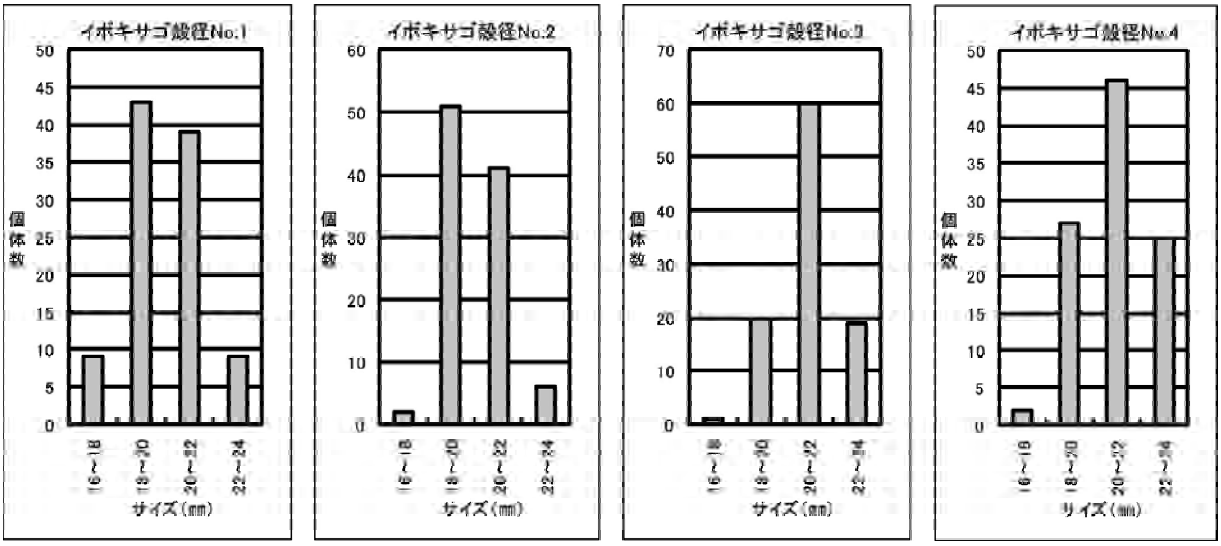








第27図　８号住居跡殻長・殻高分布図



第28図　８号住居跡殻径分布図

ハマグリは殻長32～38㎜、殻高28～34㎜にピークがある中型サイズで、古代の資料としては小さ目である。しかし、拡長70㎜以上の大型サイズもみられ、観音塚遺跡と同様、流通品の可能性も考えられる。

アサリは中型サイズの殻長40～46㎜、殻高28～34㎜と、大型サイズの殻長50～54㎜、殻高36～40㎜の二か所にピークがみられる。殻長35～45㎜にピークがある観音塚遺跡よりもふた回り大きい。鷺谷津遺跡は小・中型サイズの殻長25～40㎜と、中・大型サイズの殻長35～50㎜の二か所にピークがみられる。

シオフキは殻長36～48㎜、殻高32～44㎜にピークがあり、殻長35～50㎜にピークがある観音塚遺跡や、殻長25～50㎜にピークがある鷺谷津遺跡と同じく、中・大型サイズである。

イボキサゴは縄文時代のものと比較してサイズが大きく、貝殻が破損しているものが少ない。調理方法の違いが一つの要因として考えられる。各サンプルから完形の個体を、任意に100個体選び出して殻径の計測を行った。このため小型の個体がデータからもれていることは否めないが、中・大型の個体はデータ化することができたと考えられる。

サンプル№１と№２は殻径18～22㎜にピークがあり、サンプル№３と№４は殻径18～24㎜にピークがある。上層から下層にいくに従って、サイズが大きくなる傾向がある。殻径14～19㎜にピークがある観音塚遺跡や、殻径12～20㎜にピークがある鷺谷津遺跡よりもひと回り大きい。

以上の点から、大森第１遺跡は一般的には在地的な貝種を採取していたといえるが、比較的サイズが大きく粒ぞろいのものを消費している。また、ハマグリ・アカニシの大型品や、メガイアワビ・ダンベイキサゴなどの流通品も消費しており、自家消費的な集落遺跡とはいえない状況であろう。

３　ウマの骨

８号住居跡の床面付近からまとまって出土した。出土した状態や所属時期がはっきりとわかるので、貴重な資料といえる。骨格が交互に重なり合って出土しており、埋葬に伴うものではなく、食物残滓

第21表　ウマの骨計測値及び歯冠高

（　）は推定復元値　－は計測不能　　　　　　　　　単位（mm）
Ｃｒ－Ｉｄ：全長　HS：最大長　GL：最大長　Bp：近位端最大幅　SD：最小幅　Bd：遠位端最大幅

計測	下顎骨	肩甲骨	上腕骨				ぎょう骨				中手骨			
部位	Ｃｒ－Ｉｄ	HS	GL	Bp	SD	Bd	GL	Bp	SD	Bd	GL	Bp	SD	Bd
右	－	－	－	－	30.9	65.4	289.0	73.5	32.4	59.8	213.0	47.1	26.4	50.4
左	(400.0)	－	－	－	30.8	67.9	286.0	－	32.4	61.3	212.0	48.0	27.9	43.1

計測	大腿骨				脛骨				中足骨			
部位	GL	Bp	SD	Bd	GL	Bp	SD	Bd	GL	Bp	SD	Bd
右	－	－	39.9	－	－	－	34.7	－	253.0	42.8	25.7	40.4
左	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

計測	脛骨（別個体）			
部位	GL	Bp	SD	Bd
右	－	－	33.4	57.0
左	－	－	－	－

計測	上顎（別個体）					
部位	P2	P3	P4	M1	M2	M3
右	－	－	28.2	－	－	－
左	－	－	－	－	－	－

計測	上顎					
部位	P2	P3	P4	M1	M2	M3
右	23.4	31.5	27.1	33.4	33.8	－
左	22.7	31.0	30.0	31.7	33.1	－

計測	下顎					
部位	P2	P3	P4	M1	M2	M3
右	－	－	－	－	－	27.4
左	－	－	－	－	－	－

として廃棄されたものと考えられる。貝層にパックされていたため、比較的遺存状況が良い。脛骨（右）と距骨（右）が２個体分あり、上顎骨の臼歯とは別個体の臼歯も１点出土していることから、最小個体数は２頭であると考えられる。残りが良い方の１頭を観察してみると、下顎骨には一対の犬歯がみられ、雄と考えられる。中手・中足骨の計測値などから、体高125～130cm、上顎や下顎の臼歯の計測値などから、年齢12歳前後と考えられる。

＜参考文献＞

金子浩昌著 1984 『貝塚と獣骨の知識』 東京美術

西本豊弘・松井　章編 1999 『考古学と動物学』 同成社

松井　章編 2006 『動物考古学の手引き』 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所埋蔵文化財センター

(財) 千葉市教育振興財団　2004 『千葉市平和公園遺跡群Ⅱ　うならすず遺跡』

(財) 千葉県文化財センター　2002 『千葉市鷺谷津遺跡』

(財) 千葉県文化財センター　2004 『千葉市観音塚遺跡・地蔵山遺跡（３)』

古代交通研究会　2004 『日本古代道路事典』

(財) 千葉県史料研究財団　1996 『出土文字資料集成』(「千葉県の歴史　資料編　古代」別冊)

房総歴史考古学研究会　1991 『房総における奈良・平安時代の出土文字資料Ｉ』

(財) 千葉県史料研究財団　1998 『千葉県の歴史　資料編　考古3（奈良・平安時代)』

(財) 千葉県史料研究財団　2004 『千葉県の歴史　資料編　考古4（遺跡・遺構・遺物)』

(財) 千葉県文化財センター　1993 『千葉県文化財センター研究紀要14　生産遺跡の研究3－須恵器－』

古代生産史研究会　1997 『東国の須恵器－関東地方における歴史時代須恵器の系譜－』

(財) 千葉県文化財センター　1993 『房総考古学ライブラリー7　歴史時代（1)

第４章　まとめ

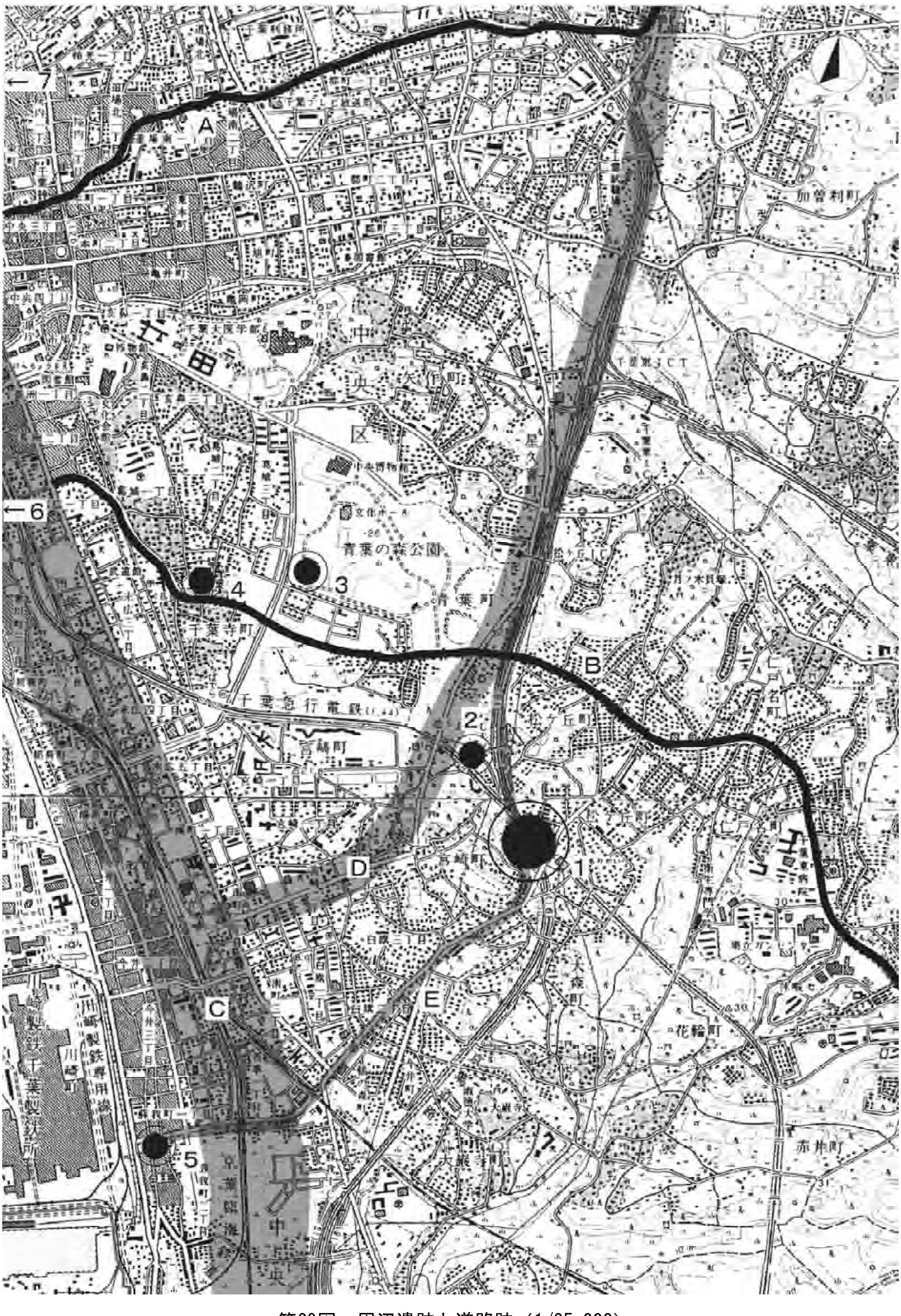
縄文時代中期後半加曽利Ｅ式土器の破片と、チャート製・凝灰岩製・黒色安山岩製の剥片が出土した。縄文時代中期後半に人々の活動領域になっていたと推測される。

古墳時代の住居跡は床面付近から焼土･炭化物･炭化材が検出され、土師器がまとまって出土した。土層の堆積状況の観察から、人為的に埋められた痕跡が認められ、意図的に廃絶されたと考えられる。住居跡からは土師器・須恵器・滑石製模造品（剣・有孔円板）・滑石製臼玉などが出土した。製作時にでる石屑（剥片類）･凝灰岩製の砥石なども出土していることから、調査区の周辺で滑石製品を加工していたことが確認された。球状土錘や軽石製品（浮子）が出土していることから、漁労を行っていたことが推測できる。土製や蛇紋岩製の紡錘車が出土しており、糸などを紡いでいたと考えられる。

奈良～平安時代の住居跡からは土師器・須恵器・灰釉陶器・土製紡錘車などが出土した。管状土錘・軽石製品（浮子）や貝類が出土していることから、漁労や採貝活動を行っていたことが推測できる。鉄製品（刀子・鎌など）の他、炉体の一部や鉄滓が出土しており、初歩的な製鉄を行っていたと考えられる。墨書土器・刻書土器などの文字資料が出土しているが、朱書の墨書土器が多く出土している点が特徴である。奈良時代の８号住居跡からイボキサゴ主体の貝層が検出され、その下からウマの骨が出土した。同じく８号住居跡からは畿内系土師器が出土しており、大北遺跡（２）と同様に役所などの地域の中心的な役割を果たす遺跡であった可能性が指摘できる。調査区の南端で奈良～平安時代の直線的な道路跡（側溝）が検出された。調査部分の長さ17.4m、側溝最大深度0.35m、側溝外幅4.9m、側溝最大幅（東）1.3m、側溝最大幅（西）0.6mである。分水界の尾根沿いにほぼ南北方向に延びていくと推測され、古代の官道（古代東海道の支線）である可能性が考えられる。

大森第１遺跡（１）の北約3.6㎞には佐倉街道（旧道）（Ａ）が、北約800mには大網街道（Ｂ）が通っており、現在でも交通の要衝となっている。周辺には終末期の方墳である荒久古墳（３）や郡名寺院と考えられる千葉寺（４）、延喜式の式内社である蘇我比咩神社（５）や寒川神社（６）が所在している。また、千葉市街地周辺は河曲駅の推定地（７）の一つとなっている。山路直充氏（『古代道路事典』）によると、東海道（本線）推定線（Ｃ）は当時の海岸線に沿って南北に走っており、現在のＪＲ蘇我駅付近で佐倉方面に向かう東海道（支線）推定線（Ｄ）と分岐している。

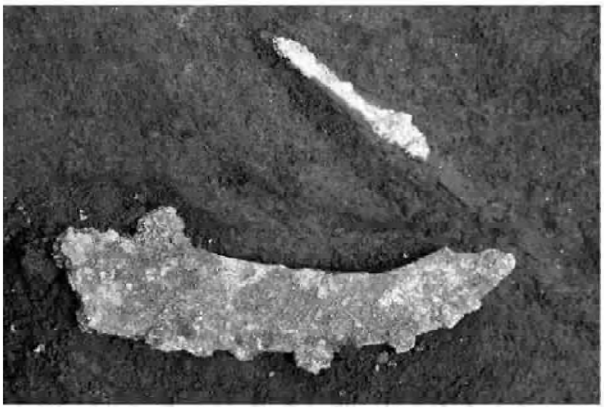
一方、今回の調査で検出された１号道路跡は、東京湾に注ぐ宮崎谷側と都川に注ぐ平山支谷側の分水界となっている尾根上を、ほぼ南北方向に通っていることがわかる。そこで、今回の調査成果を踏まえて山路氏の推定ルートを修正する形で推定したものが、東海道（支線）推定線（Ｅ）である。現松ヶ丘交差点付近を南に向かい、現鵜の森交差点付近で東海道（本線）と合流し、その延長上で海岸に出ると蘇我比咩神社に到達する。１号道路跡は、北東方向に進んで現佐倉街道（旧道）につながる東海道（支線）と想定できるが、現大網街道につながり北西方向に進んで、河曲駅の推定地である千葉市街地周辺に向かう東海道（本線）の迂回路と想定することもできるであろう。いずれにしろ、古代官道に関連する遺構が検出されたのは千葉市内では初めてであり、その延長線上にある遺跡を含めた検討が今後とも必要となってくるであろう。



第29図　周辺遺跡と道路跡（1/25,000）

1号住居跡遺物出土状況1

1号住居跡遺物出土状況2

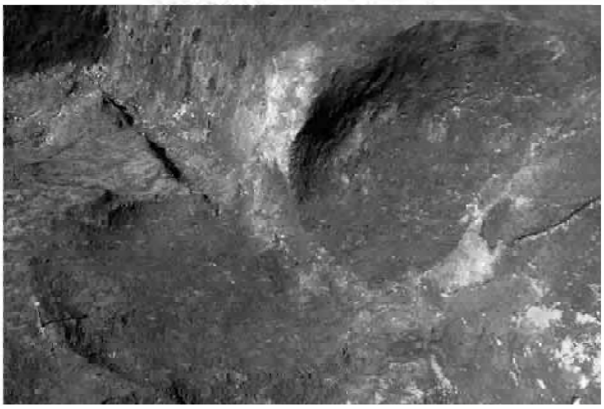

1号住居跡遺物出土状況3

1号住居跡カマドセクション

1号住居跡カマド

1号住居跡旧カマドセクション1

1号住居跡旧カマドセクション2


1号住居跡旧カマド

１号住居跡完掘状況

１号住居跡掘り方

２ａ号住居跡遺物出土状況

２ａ号住居跡カマドセクション

２ａ号住居跡カマド

２ａ号住居跡完掘状況

２ｂ号住居跡遺物出土状況１

２ｂ号住居跡遺物出土状況２

２ｂ号住居跡完掘状況

３号住居跡完掘状況

４号住居跡ベルトセクション

４号住居跡焼土・炭化物検出状況１

４号住居跡焼土・炭化物検出状況２

４号住居跡焼土・炭化物検出状況３

４号住居跡焼土・炭化物検出状況４

４号住居跡遺物出土状況

４号住居跡完掘状況

４号住居跡掘り方

５号住居跡焼土・炭化物検出状況

５号住居跡完掘状況

６号住居跡焼土・炭化物検出状況１

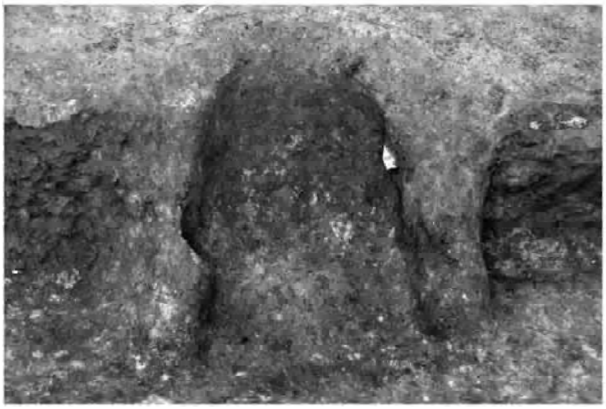
６号住居跡焼土・炭化物検出状況２

６号住居跡焼土・炭化物検出状況３

６号住居跡カマド遺物出土状況１

6号住居跡カマド遺物出土状況2

6号住居跡完掘状況



6号住居跡カマド

6号住居跡掘り方

7号住居跡完掘状況

7号住居跡カマド

7号住居跡掘り方

8号住居跡貝層検出状況1

８号住居跡貝層検出状況２

８号住居跡遺物出土状況１

８号住居跡遺物出土状況２

８号住居跡ベルトセクション１

８号住居跡ベルトセクション２

８号住居跡ベルトセクション３

８号住居跡ベルトセクション４

８号住居跡獣骨出土状況１

８号住居跡獣骨出土状況２

８号住居跡獣骨出土状況３

８号住居跡獣骨出土状況４

８号住居跡獣骨出土状況５

８号住居跡完掘状況

８号住居跡カマド

８号住居跡掘り方

９号住居跡遺物出土状況１

９号住居跡遺物出土状況２

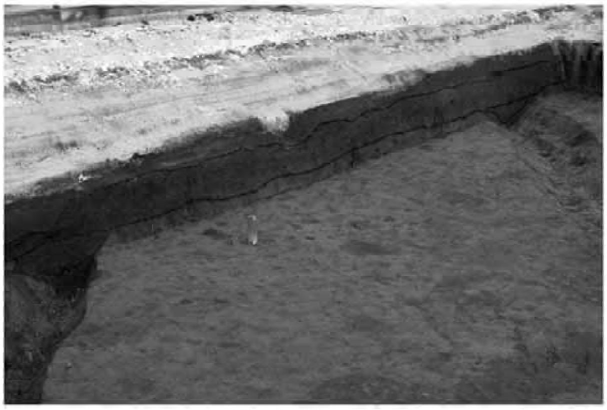
９号住居跡遺物出土状況３

９号住居跡焼土・炭化物検出状況

９号住居跡ピット内遺物出土状況

９号住居跡完掘状況

10号住居跡完掘状況


１号道路跡完掘状況１

１号道路跡完掘状況２

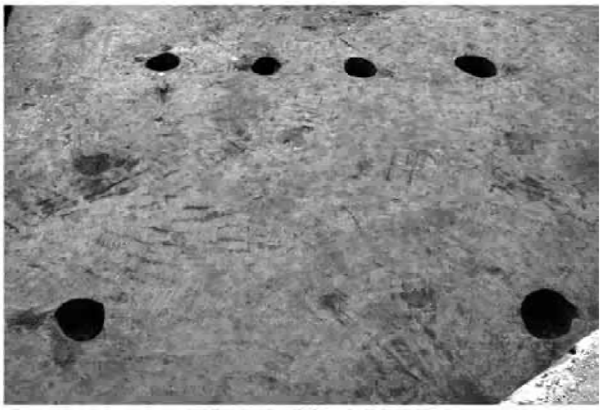
１号道路跡完掘状況３

１号・２号・３号溝状遺構完掘状況１

１号・２号・３号溝状遺構完掘状況２

１号溝状遺構完掘状況

１号掘立柱建物跡完掘状況


２号掘立柱建物跡完掘状況

全体完掘状況１

全体完掘状況２

出土遺物（1）

1住－3

1住－6

1住－7

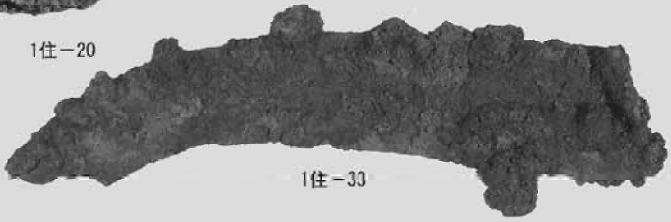
1住－16

1住－20

1住－21

1住－27

1住－30



1住－33

1住－31

1住－32

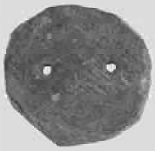
1号住居跡出土遺物

4住－12

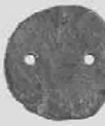
4住－18

4住－19

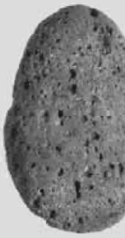
4住－20



4住－21



4住－22



4住－26

4住－27

4住－17

4号住居跡出土遺物

5住－1

5住－2

5住－4

5住－3

5住－5

５号住居跡出土遺物

6住－1

6住－6

6住－6

6住－5

6住－7

６号住居跡出土遺物

8住－14

8住－16

8住－21

8住－24（表）

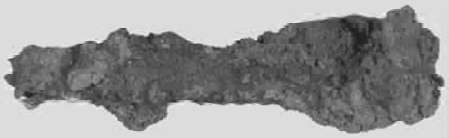
8住－24（裏）

８号住居跡出土遺物（１）

出土遺物（３）

8住－30

8住－29



8住－31

8号住居跡出土遺物（２）

9住－1

9住－2

9住－4

9住－5

9住－3

9住－6

9住－7

9号住居跡出土遺物

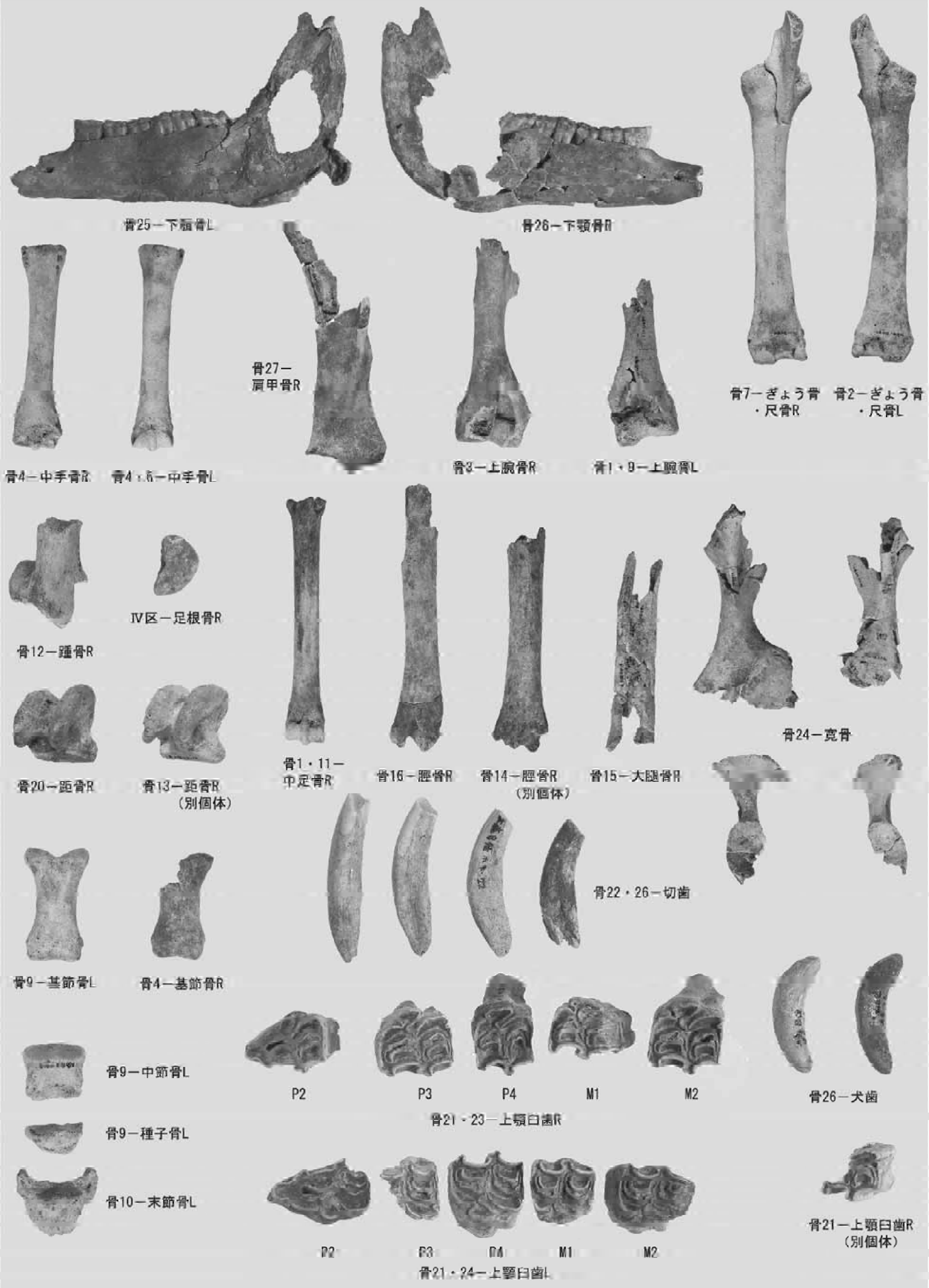
10住－1

10住－2

10号住居跡出土遺物

1道－8

1号道路跡出土遺物



８号住居跡出土獣骨（ウマ）

報告書抄録

ふりがな	ちばし　おおもりだいいちいせき
書名	千葉市　大森第１遺跡
副書名	平成20年度
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	古谷　渉
編集機関	財団法人　千葉市教育振興財団　埋蔵文化財調査センター
所在地	〒260-0814　千葉市中央区南生実町1210　TEL：043-266-5433
発行年月日	2009年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	経緯度 北緯	 東経	調査期間	調査面積	調査原因
大森第１遺跡（おおもり）	中央区　宮崎町774-5（ちゅうおうく　みやざきちょう）	12104	中央区　64	35° 34′ 56″	140° 9′ 6″	20080924 ～ 20081107	835.61　㎡	集合住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大森第１遺跡		縄文時代　中期		縄文土器・剥片類	
	集落 貝塚	古墳時代　中期	竪穴住居跡　４軒	土師器・須恵器 球状土錘・管状土錘・ 粘土片・土製紡錘車・ 蛇紋岩製紡錘車・ 滑石製臼玉・滑石製剥片・ 滑石製模造品（有孔円板） ・軽石製品（浮子）・砥石 ・刀子・貝類	滑石製品の加工
	集落 貝塚	奈良時代 平安時代 奈良～平安時代 奈良～平安時代	竪穴住居跡　３軒 竪穴住居跡　４軒 道路跡　１条 溝状遺構　１条	土師器・須恵器・管状土錘 ・砥石・刀子・貝類・ 獣骨（ウマ）・刻書土器・ 墨書土器（朱書） 土師器・須恵器・灰釉陶器 ・緑釉陶器・支脚・ 管状土錘・土製紡錘車 ・刀子・鎌・鉄滓・ 墨書土器（朱書）・ 墨書土器・刻書土器 土師器・須恵器 土師器・須恵器	畿内系土師器 住居内貝層 ウマの骨 古代官道の可能性 古代東海道の支線
		中近世	掘立柱建物跡　２棟 溝状遺構　２条	土師器・須恵器	

要約

　周辺には古墳～奈良・平安時代の集落遺跡・貝塚が密集しており、大森第１遺跡はその遺跡群の一角に位置している。今回の調査では、遺構密度の濃い大規模な集落遺跡であることが改めて認識された。

　古墳時代の住居跡は床面付近から焼土・炭化物・炭化材が検出され、土師器がまとまって出土した。また、製作時にでる石屑（剥片類）・凝灰岩製の砥石などが出土していることから、調査区の周辺で滑石製品を加工していたことが確認された。

　奈良時代の８号住居跡からイボキサゴ主体の貝層が検出され、その下からウマの骨が出土した。畿内系土師器も出土しており、大北遺跡と同様に役所などの地域の中心的な役割を果たす遺跡であった可能性が指摘できる。調査区の南端で奈良～平安時代の直線的な道路跡（側溝）が検出された。分水界の尾根沿いにほぼ南北方向に延びていくと推測され、古代の官道（古代東海道の支線）である可能性が考えられる。

大森第１遺跡
－平成20年度－

平成21年３月31日発行

編集・発行 株式会社 アーネストワン
財団法人 千葉市教育振興財団
埋蔵文化財調査センター
260-0814 千葉市中央区南生実町1210
TEL 043-266-5433

印　　刷 有限会社アイベックス
〒263-0001 千葉市稲毛区長沼原町373-13
TEL 043-216-6715